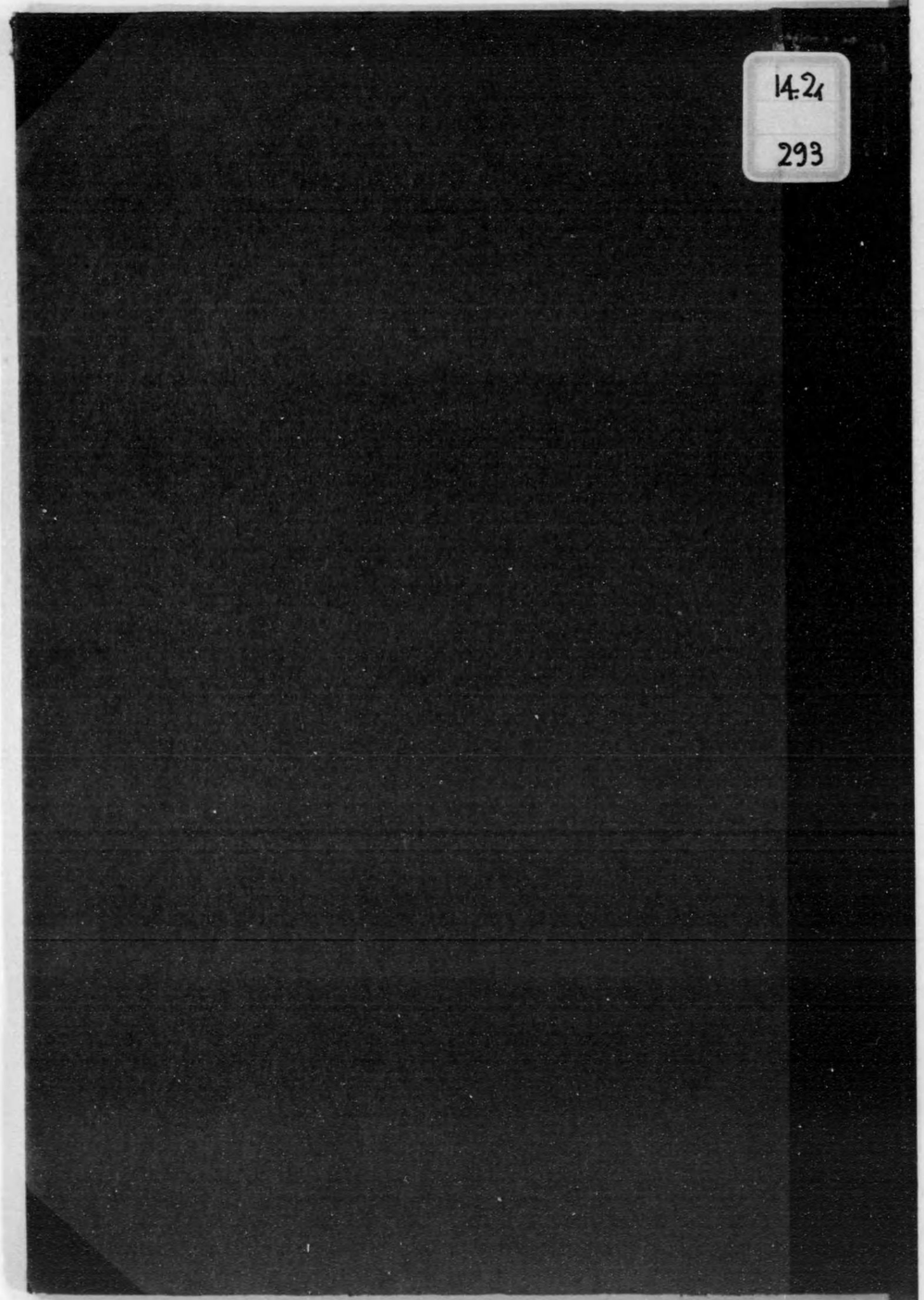


始

142
293

殖產局出版第一六四號

恒春熱帶植物殖育場事業報告 第六輯

事歷部

下卷

臺灣總督府殖產局

正誤表

頁	行	誤	正
緒言 九	三	シメサル之カ	シメサル樣。之カ
同 九	五	サル樣。ニ至レリ	サルニ至レリ
本篇 二	二	度。四十一年度	是。四十一年度
同 五二	一八	備 具。	備 員。
同 六一	一八	河野武右衛門	重復ニ付省除ス（ヘキモノ）
同 七〇	八	盡 粹。	盡 瘁。
同 七〇	八	欵。慕	欽。慕
同 七七	一八	官。尾	宮。尾
同 九一	一四	在 人。	在 來。
同 一一〇	二	委 氏。	委 托。
同 三三〇	一八	百日。柿	百目。柿
同 三四九	九	モリユワカ。	モリユッカ。

14.21-298

恒春熱帶植物殖育場事業報告第六輯編纂修正濟ニ付別
冊供高覽候也

大正五年十月十日

臺灣總督府殖產局林務課
林業試驗場兼務囑託
田代安定

臺灣總督男爵安東貞美殿

大正 6.3.5 寄贈

〃ゟ寄贈本

恒春熱帶植物殖育場事業報告第六輯

事歷部下卷

緒言

當場創立以來ノ業務顚末ハ曩ニ刊行スル所ノ本篇上卷中ニ詳細年度別ニ順ヲ逐テ歷述シ置ケリ本冊ハ專ラ經費ト事業トノ關係ヲ顯明シ併テ當場ノ爲メ新陳交代業務ニ盡瘁努力シタル多數人員ニ對スル殊勳事歷及各簿書臺帳類ノ組織調成ニ種々ノ意匠ヲ凝セシ顚末ヲ纂錄シ其他事業ニ直接關係アル庶務會計、人夫使用簿、生產物受拂簿、苗木臺帳、植栽品臺帳、植物栽培日誌、種苗拂下價格標準表、外國煙草試作業顚末、當場事業目途紀要、土木局直營建築業、明治三十八年末現在植物總目錄、同四十三年六月同場引揚際現在各植栽品目錄及同面積一覽表等ヲ附載シ以テ場內生產物ノ眞價及著手以來ノ素質等ヲ明瞭ナラシムルヲ主トシ移植試驗費ナル名目ノ下ニ年々殖產局ヨリ配付シ來ル所ノ經費ヲ以テ內外諸國ノ各經濟植物ヲ移植育殖シタル諸品ノ名稱數量成績等ヲ一目瞭然タラシメ凡ソ如何ナル種類ノ植物ヲ蒐集シテ栽培シ來リシ

ヤノ諸點ヲ辨晰シ其他上卷中ニ登載漏ノ諸事ヲ綴錄セルモノナリ

當場創設ノ際ヨリ明治四十二年度末マテ殖産局ヨリ配付セル經費總金額ハ十萬九千七百七十一圓九十九錢四厘卽約十一萬圓弱トシテ文書上ニ現ハレ居ル所ナリ又此外ニ土木局直營ノ建築修繕費一萬七千九百二十八圓二十八錢アリ

此營繕費ハ卽他ノ諸官衙、試驗場等ト同一例ニ依リテ構築セルモノニシテ事務室、官舍、倉庫、生產物試驗室、井戸及各殊ノ修繕費等ヲ含有セル總金額ナリ此二口ヲ合併スルトキハ總計十二萬七千百二十七圓四厘ト爲ル是卽恒春熱帶植物殖育場ニ於ケル明治三十四年區域選定創業費及同三十五年創設ノ年ヨリ同四十二年度末卽八年間ノ經常費ト土木局監督ノ下ニ屬スル諸營造物經費トヲ一括シタル總金額ナリ

當場ハ本篇上卷及該事業報告各卷中ニモ再四縷述セシ如ク元ト熱帶植物ノ試驗場トシテ創設セルモノニアラスシテ卽其名稱ノ如ク臺灣新產物ノ一材料トシテ全島內ニ之カ奬勵繁殖ヲ圖ルヘキ見込其以前ヨリ旣已ニ斯道專任者ノ胸裡ニ算定シ置ケルモノヲ內外諸國ヨリ此一場內ニ輸致蒐集シテ他日

本島內ニ是等各植物ノ殖育起業ノ際其種苗ノ供給ニ綽々タル餘裕アラシムルノ根據地トシテ其未然ニ之カ基礎ヲ鞏固ナラシメ置クヲ唯一ノ主眼トシテ創設セルモノナリ亦其一方ニハ海外遠隔ノ各原產地ヨリ輸致セル各植物ヲシテ一應當地ノ氣象土質ニ馴熟セシメ卽佛郎西語ノ所謂ジヤルダイン、アクリマタシヨン(人工化育園)ノ組織ニ倣ヒ半ハ此人工化育園ノ一種類ニ相當セルモノヲ臺灣島內ニ創設シ置クノ必要說領臺當時ヨリ前參事官中村純九郎、同湯目保隆、前專賣局技師大中太一郎、同囑託員故澤田駒次郎(藥用植物學者)諸氏ニ由リテ每々提議セラレ故兒玉總督モ專賣局創設ノ當時總督官邸ニ於テ是等ノ說話アリ本員モ屢次其議ニ加ハリ同總督モコレヲ諒セラレシモ當時ハ經費ニ十分ノ餘地ナクシテ早晩時機ヲ俟ツテスヘキ一宿題ト成リ居ル中ニ時勢ノ變遷ト共ニ中村、湯目、大中諸氏ハ他職ニ轉シ澤田氏ハ其中途ニ病死シ又熱帶林木其他內外有用植物ノ殖育業經營企圖ノ央ハニ此主幹者タル前有田林務課長ハ空ク悠遠ナル抱負ヲ齎ラシナカラ故アツテ內地ニ辭去シ是ニ於テ領臺際ヨリ各員相互ニ參劃セル所ノ新案ハ一時雲散霧消セントスルモノアルヲ以テ有田林學士ノ將ニ去ラントスルニ際シテ以上諸氏ノ熱烈

ナル報效的精神ニ感激ノ餘リ縱令ヒ不完全ナカラモ親ヲ不肖僭越ナ顧ミス
蹶然奮起シテ恒春熱帶植物殖育場創設ノ議ヲ提出スルニ至リシ所以ナリ
右ノ如ク當場ハ普通熱帶植物ノ試驗本意ニテ起リシモノニアラスシテ夙ニ
大規模殖育ノ心算略ホ具ハリ居ルモノヲ此一區域地內ヲ利用シテ官營事業
地ニ充テシモノナリ又道理上ヨリ言ヘハ一般的ノ熱帶農作物試驗業ハ即農
事試驗場アルガ故ニ固ヨリ同類ノモノ雙立スルノ必要ナキ所以ナリ而ルニ
世人往々恒春殖育場ノ素性ヲ誤解シテ單純ナル熱帶植物ノ試驗場ト看做シ
一時的學術研究用試驗場トシテ其位置ノ適否ニ論及シ動モスレハ保存不必
要說起ルコトアリト雖モ抑々普通ノ試驗場トハ全ク趣ヲ異ニセル本島繁殖
用母樹母株ノ殖育ヲ基礎トシテ組成セル一區域內ノ諸營造物ハ後年永久保
存ノ必要ヲ認ムルモノナリ該區域ヲ一時他ノ事ニ假用スルモ未來永劫早晩
歸スル所ハ故ラニコレヲ破壞毀損スルニアラサル以上ハ最初種栽セル所ノ
母樹母株ハ不滅的ニ存在シ行クモノナレハ一タヒ保護整理ヲ加フレハ其營
造物ノ基趾ハ依然舊態ニ復シ來ルヘキ値價土地其物ニ具備シ居ルモノナリ
尙將來ニ對スル現場維持費ノ豫算金額等ハ本篇中ニ詳悉シアリ乃チ當場ヲ

視ルノ諸賢宜ク審思熟考スヘシ
明治三十四年末ヨリ同四十年マテ足掛七年間ハ場員一同不幸ニシテ土木局
ノ營繕費ヲ以テ普通一般ノ家屋竝ニ建築セル完全家屋ニ住居スルノ惠澤ニ
浴スルヲ得ス實ニ本島諸他ノ官行事業地ニ全ク例ナキ窮苦困難ヲ忍ヒ來リ
シモノナリ故ニ本員初メ場員一同已ヲ得ス最初ヨリ小屋掛ケ住居ニテ雨露
ヲ凌キ行クノ外ニ道ナキコトヲ明ラメ各員種々ノ意匠ヲ凝ラシテ數棟ノ小
屋ヲ構築シ漸次ニ之ヲ修築改造シテ唯健康ヲ害ハサル丈ケノ假住居ト爲シ
辛フシテ遂ニ匆々七箇年ノ長日月ヲ經過セルモノナリ而ルカ上ニ當地方ハ
不幸ニシテ年々强力低氣壓ノ通過線路ト爲ルコト多ク暴風襲來ノ時ハ草葺
小屋ハ倒損ノ禍ニ罹リ易キカ故ニ各員生命ノ危險ヲ免ルル丈ケノ防風用意
ト衞生的設備ハ必要ニシテ如何ニ經費ヲ省節スルモ此保險的防備ハ避クル
ヲ得ス本員等ノ在勤中ハ單純暢氣ナル植物栽培業ノミニ腐心熱中スルカ如
キ境遇ヲ許サス凡テ此種ノ複雜多端ナル意匠ノ研究ニ始終慘澹タル經營ヲ
費ササルヲ得サルモノアリ而シテ此種ノ實務的研究ハ人生心膽練磨ノ經驗
上ニハ亦無量無限ノ快趣味存在スルモノナリ乃チ恒春舊熱帶殖物植育場ノ

荒廢遺跡猪勝東事業監督室、港口舊主任室ノ如キハ同場創業多難ノ際安定親ラ圖案ヲ調成シテ多數ノ生蕃人及近村土人夫ヲ募集シテ場員ト共ニ指揮督勵シ彼等カ能フ限リノ智力勞力ヲ傾注セシメテ構築セル永久忘ルヘカラサル一種ノ紀念家屋ナリ卽其柱礎四壁ハ土語所謂土角ナル練土ヲ以テ築キ成セルモノニシテ年々一部分ノ修繕サヘ怠ラサレハ尙永久保存ニ堪得ル見込アルモノナリ

初七年間ハ場員一同百殊ノ險難ト奮鬪時代ニ屬セリ如此不時ノ暴風防禦ト衞生上ノ設備必要ナルヲ以テ建物ハ小屋掛ニシテモ構築ハ制規ノ許ス限リ基礎ヲ堅固ニセサルヲ得ス亦幾年ノ後果テ土木局直營家屋ノ建設カ我カ區域地內ニ出現シ來ルヘキヤ前途遼遠此事ハ尙混沌乎トシテ殆ント豫測シ難キヲ以テ小屋掛トシテハ多少其程度ヲ過スヤ計リ難シト雖モ專ラ堅牢ヲ主トスルノ餘リ卽今ノ港口及猪勝東事業監督室ナル一種異樣ノ建物ヲ漸次ニ增築改修シテ現形ト爲スニ至レリ

右ノ如ク場員ノ住居ニハ種々衞生上ノ設備ニ注意ヲ凝ラセシニ關ラス元ト當場ノ位置カ全ク普通土人部落ヲ隔離セル生蕃地內ノ蔚蒼タル深山中ニア

ルヲ以テ創業當時數年間ハ瘴癘ノ氣其猖獗ヲ逞フシ「マラリア」患者最モ夥多ニシテ病褥ニ吟呻スル者恒ニ絕ヘ間ナク病菌ハ普通「マラリア」菌ト二種類潛伏シテ代ハル〳〵遠慮ナク人體ヲ冒シ惡性菌ハ實ニ其名ノ如ク陰險猛惡ニシテ能ク生命ヲ奪ヒ場員中亦此犧牲ニ殉セシ者アリ凡テ此種ノ未開地ニハ所謂瘴癘毒ナルモノノ蔓延繁殖旺盛ニシテ人工ヲ以テ之ヲ驅除スルニアラサレハ開拓ノ目的ヲ達シ難キヲ以テ當場ニ於テモ一時大ニ意ヲ決シ四邊密莽藪林ヲ刈伐シテ燒拂ヒ排水溝ヲ掘リテ濕氣ヲ去リ屢次清潔法ヲ施スニ隨ヒ漸次病菌減少シテ竟ニハ殆ント患者ナキニ至レリ斯ル各殊ノ狹隘ト奮鬪シツヽ蕃地拓殖ノ歩武ヲ進メ事業ヲ經營セルモノニシテ單純ナル普通一般ノ植物栽培業ト大ニ趣ヲ異ニセリ

安定等ハ他ノ場員ト共ニ此蕃屋農夫小屋ニ等シキ小屋住ヲ以テ官舍廳屋ニ代用シ殆ント足掛七年間ハ草廠中ニ起臥シ屋室ハ茅藁ヲ以テ疊席ニ充テ極テ素朴陋劣ナル窮苦ノ生活ヲ送リ來リシト雖モ恒春赴任以來絕ヘテ「マラリア」症ニ罹リシコトナク或ル時ハ場員全部「マラリア」ニ犯サレ病床ニ吟呻スルノ慘況ヲ呈スルコトアリシニ關ラス本員ハ明治二十年前後農商務省奉職中

嘗テ沖繩縣下八重山群島舊慣制度施政改革下タ調査ノ爲メ約一年半同島在勤島内跋渉中屢次悪性「マラニア」ニ罹リ死ニ頻セシコトアリシモ明治二十八年臺灣總督府赴任後ハ殆ント強ク「マラリア」症ニ冒サレシコトナク且恒春ノ如キ悪性「マラリア」ノ根源地殊ニ現殖育場所在地ノ如キ林深密莽ノ生蕃地開拓ノ際ハ所謂瘴癘ノ病毒猖獗ヲ逞フシ前述ノ如ク凡ソ此地ニアル者ハ何人モ此悪疫ニ罹ラサル者ナカリシナリ而ルニ此不健康地ニ約十年間殆ント蕃人同樣ノ茅屋ニ住棲シ極テ陋劣ノ生活ヲ遂ケ來リシト雖モ未タ嘗テ「マラリア」ノ爲メ病臥セシコト殆ント無之常ニ健康體ニシテ渡臺以來前後約二十年間「マラリア」ノ爲メ羸痩セシモ臺北歸任後ハ以前ニナキ健全體ニ復セリ

過勞ノ爲メ毫モ身體ノ衰弱ヲ來セシコトナシ但タ恒春在勤中ハ身魂右ノ如ク恒春在勤中ハ極テ無病健全ナリシヲ以テ事業監督ハ片時モ休止セス四時晝夜ノ別ナク意ノ如ク區域地内ノ跋渉ト各植物ノ栽培ニハ常ニ遺憾ナク勞働ヲ親ラシ日常事務ニモ從事シ居タルヲ以テ創立以來明治四十年マテ足掛七年間ハ恰モ主任親裁時ニシテ場内衆物ノ表裡精粗悉ク貫通セサルハナク諸事微細ニ記憶ト書類トニ存在シ居レリ而シテ明治四十一年以降ハ

故アッテ我カ從來ノ直裁業務ヲ餘儀ナク俄ニ他人ノ手ニ移シ讓ラサルヲ得サル不幸ニ遭遇シ隨テ業務ノ監督モ從前ノ如ク周到精悍ノ行動ヲ執ルコト能ハサルニ立至リシヲ以テ看ス看ス場内營造物ヲ廢頽荒衰ニ傾カシメサル之カ整理挽回ニ親ラ力ヲ注クニ由ナク空シク遺憾ヲ千秋ニ留ムルノ已ヲ得サル樣ニ至レリ是ヲ以テ多年來滿腔ノ心血ヲ濺キ來ル所ノ諸營造物ヲ後ニ殘シテ知己ノ山川草木ト悲慘ノ最後ヲ忍ヒ永別ヲ告ケ去ルコトト爲レリ

俞終ニ臨シテ茲ニ慘澹タル畢生ノ苦衷ヲ歷披シ恐多クモ上至尊ノ爲メ下毋國ノ爲メ切ニ望ム所ノ主要點ハ當場創設以來十餘年間茲ニ十餘萬圓ノ我カ國庫金ヲ消費シ併セテ多數場員カ各自粒々辛苦其身命ヲ犧牲ニ供シ夙夜業務經營ニ意匠ヲ凝ラシ居常終歲雨淋日炙多大ノ勞心艱苦ヲ積リ遠ク市街ヲ隔テル蕃山荒鄉ヲ開發シテ一望清麗宛タル公園狀ヲ爲スカ中ニ内外各殊有用植物ノ撓々繁茂シテ雄偉ノ生長ヲ遂ケツツアルモノヲ更ニ後任者カ能ク保護ノ任務ヲ盡クシ常ニ細心注意シテ其滅絕ヲ未然ニ防止シ明治四十三年本員引揚際マテ刻苦險難ヲ積リ來リシ形見トシテ帙然タル基礎ノ整頓シ居ル此官廳ノ一紀念地ヲ未來永劫荒廢ニ歸セシメサル樣場内諸道路建設物ノ

修繕ヲ怠ラス既成物保持ニ能ク心ヲ用ヒ舊來各移植植物ノ母樹母株ノ除草手入ヲ能ク勵督シテ其發育繁茂ヲ扶助シ移植根基植物ノ種類減滅ヲ豫防シ園内ノ光景一望清麗ニシテ曩時ノ美觀ヲ維持シ各移植地ノ交通路線整然トシテ歩行ニ不便ヲ感セサラシムル樣區劃線路ノ荒廢ヲ防止シ參觀者ニ窮苦不快ノ念ヲ懷カシメサル程度ニコレヲ整頓シ置クノ必要アリ若シ是ニ反シ知ラス識ラスノ間ニ園内各線路ハ雜草灌木ニ蔽ヒ塞カレ各殊ノ根基母株ハ菅茅藤蔓ニ壓倒サレテ其根株ノ衰滅ヲ來シ嘗テ多大ノ經費勞力ヲ費シテ開墾セル土地復タ元ノ蓍手前ノ雜木林藪ニ化成スルカ如キ荒景ヲ呈スル部分場内ニ散在スル樣ノコトニ立至リ之カ一般ノ世評ニ上ルニ於テハ當事者ノ責任重大ニシテ啻ニ公德上ノ咎責ノミナラス自然公議輿論ノ制裁亦免レ難キモノアリ卽過ツテハ改ムルニ憚ルコト勿レノ古訓ニ鑒ミ瞬眼一瞥爛々タル岩下ノ電ノ如ク千里ノ邊陬ヲ照破シテ猛省一斷洗然一掃今日將來共ニ勉テ是等ノ懲譴的批議ヲ招致セサル樣各自互ニ銘肝警心シテ決然省顧アランコトヲ庶幾ス

大正五年十月

於臺北　田代安定識

恒春熱帶植物殖育場事業報告第六輯

目次

事歷部下卷

緒言

第一項　經費ト事業成績及事務要項……一

附　場員事歷、生產物概況、植栽品臺帳、植物目錄等

第一章　經費ト事業トノ關係……一

第一節　創立以來經費ノ顯末及將來維持上ノ考案……一

第二節　年々配付豫算金額ノ顯末……一四

第三節　猪勝束事業地

創立以來經費總額ト事業トノ關係……二二

第四節　港口事業地

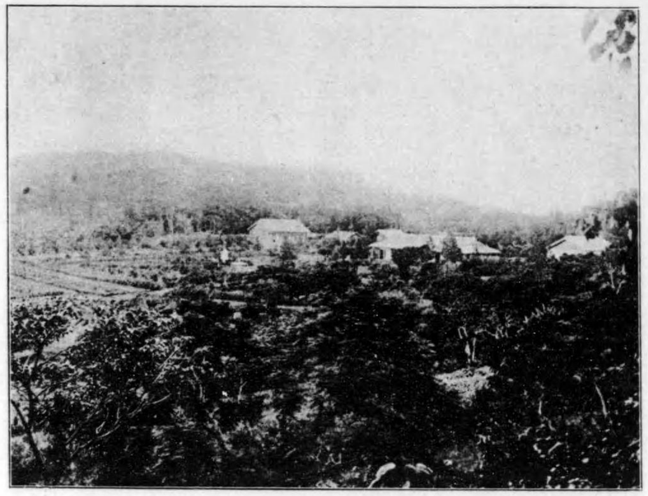
創立以來經費總額ト事業トノ關係……二八

第五節　高士佛事業地

創設以來經費總額ト事業ト ノ關係……三九
第六節　龜仔角事業地
創設以來經費總額ト事業ト ノ關係……四三
甲東母樹園ノ部……四四
乙西母樹園ノ部……四九
第七節　各事業地經費對照比較篇……五七
第二章　人事上ニ關スル事歷……五九
第一節　當場事業以來場員ノ異動……五九
第二節　場員及當場關係諸員殊勳錄即列傳……六七
第三節　場員ノ部……七九
場員中特殊勳勞者二十八名列傳
第三章　諸帳簿書臺帳編成ニ關スル事歷……一二三
第一節　人夫使用內規竝同編成ノ理由……一二六
第二節　植物日誌ニ關スル事歷……一四一
第三節　苗木臺帳ニ關スル事歷……一五四
第四節　植栽品臺帳編成ノ事歷……一六〇
第五節　生產品受拂臺帳ニ關スル件……一七一
第六節　種苗拂下價格標準及苗木處分豫定案……一八四
第四章　經費ト密接ノ關係アル諸事歷……二〇一
第一節　煙草試作ニ關スル件……二〇一
第二節　葉煙草生產物專賣局受渡事項……二〇八
第五章　各植栽品標準距離及同圖表設定ノ事歷……二一七
各植物標準距離設定圖案一覽表
第六章　土木局直營建築工事ニ關スル件……二二一
第二頂
第七章　恒春熱帶植物殖育場目途紀要編成ノ件……二二九
同目途紀要全篇寫シ
第八章　明治四十三年六月現在植物目錄……二五三
本員同場引揚際後證ノ爲徵收ノ冊
第九章　明治三十八年現在植物總目錄……三〇五
本員在勤中ノ植栽品ト引揚後ノ變化對照用篇

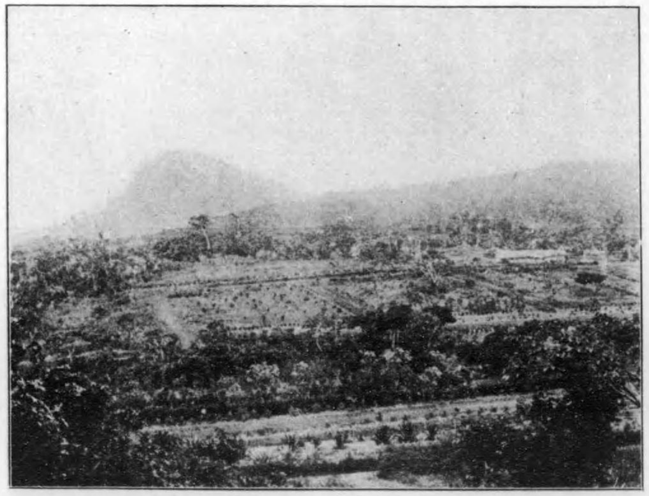
第一號圖

恒春熱帶植物殖育場
ワアル山字敷島臺事務室近傍（明治四十二年中ノ眞景）



第二號圖

同熱帶有用植物標本園ノ一部
明治四十一二年頃ノ眞景



恒春熱帶植物殖育場事業報告 第六輯

田代安定 編纂

事歷部 下卷

第一項 經費ト事業成績及事務要項

附 場員事歷、生產物概況、植栽品臺帳、目錄等

第一章 經費ト事業トノ關係

第一節 創立以來經費ノ顚末及將來維持上ノ考案

當場創設以來明治四十二年度末マテ八年間(足掛十年間)本員在勤中直接關係スル所ノ場內全般ノ事項ハ前生卷中ニ網羅一括シテ殆ント遺漏ナク詳悉シ置ケリ而シテ該下卷ハ其中ニテ專ラ經費ニ關スル事項ヲ主トシ是ニ附帶シテ人事關係上ノ顚末、生產物處分事項煙草試作業、種苗拂下原案、人夫使用規程、苗木臺帳、植栽品臺帳、移植植物目錄、明治四十三年本員引揚際ノ現在植物目錄、同面積及區域地內諸建築物等ニ關スル事歷ヲ逐一章ヲ逐フテ列敘スルコトト爲セリ

當場創設以來明治四十二年度末マテ我カ在勤中殖產局ヨリ配布ヲ受ケシ總金額十萬九千七百餘圓約十一萬圓ニシテ此外ニ事務室、官舍、倉庫等ノ土木局支出臨時營繕費一萬七千九百二十圓卽約一萬八千圓弱ヲ加フルトキハ總計十二萬七千六百餘圓ト爲ル而シテ當場初期ノ年額費ハ七八千圓ナリ

シモノ漸次增加シテ明治四十年以降ハ一萬四千圓以上ト爲リ四十一年度ヨリ更ニ增額シテ一萬九千餘圓ニ上リ以テ四十三年度マテ同額ニテ繼續セリ度四十一年度以降熱帶有用植物園ナル名義ノ下ニ新事業費ヲ加ヘテ斯ク增額セシモノナリ此有用植物園ノ增設工事ハ五年經劃ヲ以テ成立ツモノニシテ我カ引揚際尙後二箇年間ヲ餘スト雖モ事實上前設計ハ中止ノ體ト爲レリ

附　述

明治四十三年六月本員引揚際同年度殖產局配付ノ當場總經費年額ハ一萬九千二百六十五圓ニシテ此中四千九百餘圓即約五千圓ハ有用植物園新設工事費ニシテ四十五年度マテニ結了ノ豫定ヲ以テ尙三箇年間繼續スルモノナリ此新事業完結スレハ隨テ明治四十年度以前ヨリハ場內ノ維持費增加セサルヲ得サル譯合ナレトモ其以前ノ事業費ナルモノカ既ニ多少ノ創業新工事費ヲ含有スルモノニシテ卽一萬四千餘圓ニ上リ居レリ而シテ當場ノ創業ト稱スヘキモノハ明治四十五年度ヲ以テ一段落ヲ告クヘキ豫定ニシテ其次年度以降ハ事實上所謂守成時代ニ移リ行クモノナリ當場ノ將來ヲ審考スレハ事業ノ性質元ト一時的ノモノニアラスシテ永久保存ノ眞償實質ヲ具有スルモノナリ卽是ニ對スル前途ノ維持費ヲ大體考定シ置カサルヲ得ス而シテ此維持費ハ臺灣全般ノ行政費ニ相當スル適度ノ金額權衡ヲ銳リ行カサルヲ得ス將來臺灣施政ノ方針上ニ伴フ經費ハ千殊萬端ニシテ其中ニテ殖產業務ニ伴フ經費亦多額ニ上リ出來得ル限リ冗費ヲ省節シ不急ノ開業費ヲ扣除シテ緊急業費ニ充ルノ方便ヲ講スヘキ義務ヲ負ヘリ此關係上ヨリ當場將來ノ維持費ヲ審案スレハ其要ノ歸著點ハ著手以來十年間ノ營造物ヲ未來永劫荒廢ニ歸セシメサル限リノ程度ニ勉テ省減シ總額十二萬餘圓ヲ消費シタル該營造物若シ中途ニシテ荒廢ニ委シ當場事業地內カ明治三十五年著手以前ト同樣ノ雜木林及荒野ト同形觀ヲ呈スルカ如キコトニ立至ルニ於テハ最初創立ノ旨趣ニ戻ルノミナラス政府財務上ノ損害漠大ニシテ其不體面ハ勿論亦一方ニハ國家經濟上一不利實ニ是ヨリ大ナルハナシ若シ監督其法ヲ誤ルトキハ十年間ノ營造物空ク荒廢ニ歸スルノ恐ナキ能ハス故ニ此不幸ヲ未然ニ防遏スルノ豫備案トシテハ豫メ原狀維持ノ經費ヲ大體算定シ置カサルヲ得ス

將來當場維持費ニ對シテハ出來得ル限リ最小限度ノ省節ヲ行ヒ諸他ノ經費ニ甚シキ影響ヲ及ホササル範圍ニ於テ支辨シ行カサルヲ得ス便チ此目的ノ爲ニ假定スル所ノ經費ハ大畧左ノ如シ

第一期　十年間　八千圓

年々生產物收入(種苗拂下)約五百圓平均トシ卽國庫收入トシテ間接ニ消却サルルモノユヘ實際七千五百圓ノ支出ニ相當スルモノナリ若シ意匠宜ヲ得ルトキハ生產物收入或ハ一千圓ヲ出シ得ルヤ圖リ難シ

第一期ニ於テ斯ク八千圓ヲ要スルハ舊來ノ行掛上尙場內ノ整理、苗木ノ移植、母株缺損ノ補充道路及諸建築物ノ修繕費等業務多端ニシテ急ニ事業ヲ縮少シ難キモノアリ且此八千圓ヲ下ルトキハ場內ヲ永久有效的ニ經營スル能ハス卽明治四十三年度ヨリ大正七年度マテナリ

第二期　五年間　六千五百圓

年々生產物收入同ク五百圓平均ト假定スレハ間接的國庫繰戻金ト爲ルモノニシテ正味年々六千圓ノ支出額ニ該當スルモノナリ

此期間ニ於テハ舊來ノ諸整理著キ母株其他園內手入省ケ更ニ少經費ニテ原狀ヲ維持シ得ヘ

假定スルトキハ此五百圓ハ即國庫ニ繰戻サレ行キ間接ノ收入ト爲ルモノユヘ實際ノ差引金額ハ恰モ七千五百圓平均ノ支出ヲ年々繰返シ行クト畧ホ同樣ノ割合ニ歸スヘキモノナリ

右ハ明治四十三年六月恒春ヲ離レ臺北ニ歸還スルノ際萬一ノ試問ニ應スル際ノ答案トシテ算定シ居タルモノニシテ敢テ新意見ヲ展述スルモノニアラサルナリ但タ我カ分限トシテハ當場ノ既往ト將來ノ維持問題ニ對シテハ最初ノ成立上多大ノ責任アルヲ以テナリ

右ノ如ク此有用植物園ノ增設工事ハ五年經劃ヲ以テ成立ツモノユヘ尙後二年間ヲ餘スト雖モ事業上前設計ヲ繼續完成スルノ見込ナキヲ以テ本員引揚際當場將來ノ維持費ヲ大畧算定シ初期ハ現在經費ヨリ一萬一千圓餘ヲ刪除省節シテ或ハ之ヲ國庫ニ繰戻スカ或ハ他ノ殖產上緊急事項例ヘハ麻栗樹官行造林業費タリ或ハ可然他ノ費用ニ充テ其殘金八千圓ノ範圍內ニ於テ此際年々ノ原狀維持及場內殖育上緊要植物ノ新植費諸營造物ノ修繕費等ニ充テ此際荒廢ニ垂ンタル諸庭園造林地道路等ノ修理清掃ニ全力ヲ注キ諸移植品ノ凋衰セルモノノ發育改良法ヲ圖リ以テ當場ノ眞價ヲ發揮スルコトヲ勉ムルニアリ是本員引揚際ノ現狀ニシテ當時將來ヲ思ヘハ今若シ一年間各植栽品ノ除草清掃ヲ怠レハ其凋衰ヲ來スヘキ恐アルモノ勘カラスシテ頗ル杞憂寒心ニ堪ヘサルモノアリ

當場ノ植栽品ハ其面積數十町ニ亙リ種類亦數百ニ止リ何レモ本島將來ノ殖產業奬勵上必要ノ參考用模範的植栽品且同種苗配付拂下材料トシテ重要ナル母株ト看做スヘキモノナリ此中特ニ其植栽地ノ保護整頓ヲ年々歲々加ヘ行テ永久ニ原狀維持ノ必要ヲ認ムルモノハ左ノ諸品ト爲ス

(一)珈琲園　二町二反

(一)港口事業地內

內小笠原島種　一町一反
ハワイ國種　四反
ブラジル國種　一反
臺灣在來種　六反マニラ原產移植種)
合計　二町二反

(二)茶園

臺灣產茶樹實生試植園紅茶原料目的品

臺灣ノ茶樹繁殖法ハ殆ント全部壓條法ニ由ルモノニシテ播種繁殖法ノ行ハレ居ルハ僅ニ嘉義南投廳下ノ一部分ニ過キサルノミ

當場實生茶樹葉製ノ紅茶ハ印度式ト支那式トノ二品ヲ各一斤ツヽ明治四十年東京勸業博覽會ニ出品シ後農商務省西ケ原農事試驗場茶業主任ノ手ニ於テ檢査ヲ受ケ香芬食味共品質佳好販賣用トシテ前途有望ノ讃賞ヲ得タルモノナリ

(三)染料植物ピキサ樹園　五反

內二反茶園內完全珈琲園內二反混植外ニ一反紅色及橙黃色染料卽ピキシン及ヲレイン色素原料木

(四)山藍　一反

ハワイ產珈琲園內

青靛(インヂゴ)原料

(五)蘇木植栽地　約百坪
百本以内原名サツバン、ウード
(六)サイザルヘンプ植栽地　約二町
ジヤワ種九分ハワイ種一分
一町三反以外ハ他品ト混植
同種苗配付並拂下用母株
纖維綱索原料
(七)マーグーヘンプ植栽地　約四反及竝木敷
普通龍舌草及マニラ、マーグー
纖維料植物　ク
(八)沖繩織布芭蕉園　約二反
沖繩織布及繩索原料、濾液原料
(九)紅頭嶼アバカ(即マニラヘンプ一種)　若干株
(一〇)バナマ帽草　若干株
(一一)紫檀樹試植林地　六反
內二反ハ羅漢松ト混清林
(一二)竹柏試植林(內地種)　六反
此區內ニ澱粉植物タッカ草混植

(一三)羅漢松(內地種)　四反
(一四)沖繩松試植林　三反
(一五)福樹試植林(沖繩產)　一反
(一六)ヤラボ樹試植林　二反
(一七)杉試植林(內地種)　約二反半
(一八)印度ゴム試植林　一町餘
(一九)アラビアゴム樹試植林　一反
(二〇)金合歡試植地　二反
右アラビアゴム採收用及香水原料
(二一)椰樹科植物各品　約五反
(二二)チトセラン試植地　約三反
纖維料植物他品ト混植
(二三)麻栗樹試植地　約三反
(二四)竹林　約一反
過半桂竹ニシテ恒春、阿緱地方ニハ全ク桂竹ナカリシヲ以テ特ニ臺北、基隆ヨリ移植シ模範林及將來ノ苗株用
(二五)カスシア、フロリダ(鐵刀木)、インガサマン木、カポック棉樹、バルキア木、イランイラン木、海紅豆樹、タマリンド木椰樹科各木其他貴重母樹ノ保護育養

(三)
(一) マニラヘンプ 母株園 約六反
(二) 紅頭嶼糸芭蕉 移植品 若干株
(三) 龜仔角事業地
樹等
(一) 樟樹 油桐 アカシヤ 木蘭 樹 約三反
(二) 姜黃 臺灣種 約二反
(三) 龜仔角事業地
(四) 茶園 三反
(五) タピラカ 木薯 約一反
(六) タッカ草 澱粉植物 約一反
(七) アロウルート 澱粉植物 約三反
(八) 珈琲園 臺灣在來種 約二反半
(九) サイザルヘンプ 二反强
(十) 沖繩繊維芭蕉 二反
(十一) 沖繩樹種 約二反
(十二) 紫檀林 約二反
(十三) 風梨標本園
(一) 猪膽束事業地
樹等
(一) 樟樹 油桐 アカシヤ 木蘭 樹 約一反
(二) 姜黃 臺灣種 約二反
(三) 龜仔角事業地
(四) 茶園 三反
(五) タピラカ 木薯 約一反
(六) タッカ草 澱粉植物 約一反
(七) アロウルート 澱粉植物 約三反
(八) 珈琲園 臺灣在來種 約二反半
(九) サイザルヘンプ 二反强
(十) 沖繩繊維芭蕉 二反
(十一) 沖繩樹種 約二反
(十二) 紫檀林 約二反
(十三) 風梨標本園
(一) 猪膽束事業地
(二) 紅頭嶼糸芭蕉 移植品 若干株
(三) バナナ 卽バナマ帽草 原産地ヨリ移植品
(四) サイザルヘンプ(ジヤワ種) 約一町餘 二町歩
(五) マニラヘンプ 母株園 約三反 約五反
(六) ニユッカ繊維料草 若干株
(七) 沖繩糸芭蕉 一反以內
(八) 苧麻標本園 若干坪
(九) チトセラン 標本母株園 約五反
(十) 珈琲園 約二町五反
(十一) 印度ゴム園 一町强
(十二) 蓄積樹林 四反
(十三) 新嘉坡產姜黃(黃色染料) 約二反强
(十四) 臺灣種姜黃 約二反
(十五) 紫檀試植林(用材) 約四反
(十六) ダルベルギア木用材 約二反
(十七) 琉球黑檀方言烏皮石 檢索用材 (二箇所)
(十八) 羅漢松(ク) ヤラボ樹(ク用材) 一反 一反

(六) 竹 一反
柏 一反
(五) 羅漢柏 一反
流松 一反
二反半強
(一) 麻栗樹 一反
(二) 高州杉 一反半
(三) 內地杉 一反半
(四) 扁柏 一反
(四) 扁柏 一反
(三) 內地杉 一反半
(二) 高州杉 一反半
(一) 麻栗樹 一反
(四) 高士佛事業地
(三) 椰樹科植物各品
(元) 穀粉植物キヤツサバアロクルートグ 一反強
(元) マヽ波羅蜜果樹 一反強
(元) ガニー木 一反強
(元) 蜜果樹 一反強
(元) 無花果樹等 一反強
(元) 蘇枋樹(內地產) 一反強
(元) 麻栗樹 一反強
(元) 欅樹 一反強
(元) 合歡 一反強
(元) 龜甲竹 一反
(元) 金龜樹(器具用材) 一反
(元) 竹 一反
(元) 柏 一反
(元) 檜 一反
(元) 扁柏 一反
(元) 羅漢柏 一反
(元) 流松 一反
(元) 大島松(鹿兒島縣下) 一反強
(元) 沖繩松 一反強
(元) 臺灣松 二反
(元) 樟樹 二反半強
(元) 印度ゴム 四反 二反半
(元) マヽ頓ラヘン 若干株
(元) 紅頭嶼アバカ 同
(元) バナヽ帽章 若干株
(元) 珈琲園 四反強
(元) 茶園(臺灣種實生) 二反強
(元) サイザルヘンプ、マヽウリチウスヘンプ、マヽーグーヘンプ等 若干株
(元) 內地產ハゼノキ 百餘本
(元) 阿里山油茶樹移植 同
(元) 海紅豆樹用材 若干本
(元) キナ樹 同

右ノ外ナキ樹種ノ模範行道樹ニ適スル材料木ノ模範的植栽品ヲ熱帶地方ニ於ケル植物ノ環境及ビ殊ニ濕氣植物其他農藝植物工業原料植物多種類植栽品ノ保存用ニ育ヲ要スルモノ

ノ多シ

設シ椋梠、ハゼノ木、蒟蒻芋等ノ如キ臺灣ニ稀少若クハ皆無ニシテ本島ノ一物産タラシメ得ヘキ見込ノ確定セルモノ及ヒ半ハ疑問中ニ屬スルモノハ同ク一應之カ移植栽培ヲ行フコトト爲シ又沖繩縣及小笠原島廳下等本邦南海諸島ノ特産品ニシテ將來臺灣ニ繁殖上ノ必要アルモノハ猶外國植物ト同樣ニ之カ移植栽培ヲ施行スルコトト爲セリ即鐵蕉(リュウビンジョ)蒲葵(コウ)トキハギヨリウ(臺灣通名木麻黄)福樹野梠子一名ヲランダ椰子(學名セアフヲルチア、エレガンス)シロヨナ木一名「ヒノキウカバ」沖繩糸芭蕉(即織布用芭蕉等ノ類是ナリ

第二節　年々配付豫算金額ノ顯末

當場創設以來殖産局ヨリ配付ヲ受ケタル經費額ハ明治三十四年度下半期ヨリ四十二年度末ニ至ル九年間ノ總計十萬九千七百七十一圓九十九錢四厘ニシテコレヲ年度別ニ表示スレハ左ノ如シ

年度別	配付金額	備考
明治三十四年度末	一、三八五●〇〇〇	區域選定、測量業、運搬費、種苗育養費、小屋建費等
同　三十五年度	四〇〇●〇〇〇	
同　三十六年度	一、七八五●〇〇〇	
同　三十七年度	七、六二五●五〇〇	
同　三十八年度	八、四五六●四九四	此中五五〇●〇〇〇ハ煙草試作費トシテ別途支出
小計	一〇、五七七●四二二	
以上總計	一三、七〇七●五七八	此中一、〇〇〇●〇〇〇ハ煙草試作費トシテ別途支出
同　三十九年度	一四、六六〇●〇〇〇	
同　四十年度	一四、三六〇●〇〇〇	
同　四十一年度	一九、二六五●〇〇〇	
同　四十二年度	一九、二六五●〇〇〇	
小計	一〇七、九八六●九九四	
以上總計	一〇九、七七一●九九四	

右經費總金額十萬九千七百七十一圓九十九錢四厘ニシテ此內千七百八十五圓ハ當場創設發表前其區域地選定測量費、種苗運搬費同護育費小屋掛費、備員給料及苗圃豫定地刈拂整地費等ニシテ即創業費ニ屬スルモノトシテ十萬七千九百八十六圓九十九錢四厘ハ明治三十五年度ノ初期ヨリ同四十二年度ノ末期マテ即滿八年度間當場事業經費トシテ殖産局ヨリ配付シタル總金額ニシテ約十一萬圓ノ弱ナリ

同四十三年度ニ於テハ同年一月下旬ヨリ本官ハ賜暇ヲ得テ內地ニ歸省シ次テ上京ヲ命セラレ五月臺北ニ歸著シ當場ヲ引揚ケ殖産局歸任ノ事ニ決定シ場內殘務整理及事務引繼ノ爲メ約二十五日間滯在ノ豫定ヲ以テ恒春ニ出張シ同年六月當場在勤地ヲ引拂ヒ臺北ニ歸任スル故ニ四十三年度事業及經費ハ當時同場在勤主席者稻村囑託ニ引續キ向後ハ同場業務調査必要ノ都度臨時出張スルコトト爲レリ

當場經費ハ創立以來全部臺灣總督府殖産局勸業費中ヨリ支出セルモノニシテ其名目ハ移植試驗費ナル一綱ノ下ニ配付ヲ受ケ內規ニ於テ使途ノ細目ヲ別テルモノニシテ技師及會計前渡官吏俸給ノ外ハ渾テ此經費ノ範圍內ニ於テ支辨シ明治四十年度頃ヨリ營繕費ハ土木局ノ直轄ニ屬シ農夫小屋

第一表

費目細別	明治三十八年度 豫算額	同三十九年度 豫算額	増	減
修繕費	二四七、〇〇〇	二四七、〇〇〇		
旅費	八、九〇〇	八、九〇〇		
給與費	四五、〇〇〇	四五、〇〇〇		
給料	一、七二〇、〇〇〇	一、七二〇、〇〇〇		
雇人費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇		
通信費	二、〇〇〇	二、〇〇〇		
運搬費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
印刷費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
消耗品費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇		
備品費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
植物費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
移費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
種苗費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
肥料費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
飼料費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
生産物製造費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
賄費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
賃貸料	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
保險料	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
雜費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
豫備費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
恒務費	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
合計	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇		

右第一表三十八九年度ハ舊態ノママノ殖育場經費ニシテ其全額ノ增減ハ勸業費配付上ノ都合ニ依テ變異ヲ生スルモノナリ

第二表中四十年度マテハ舊態ノママノ經費ニシテ四十一年度ニ至リテ俄ニ四千九百五圓ノ增加ヲ來セルモノハ乃チ龜仔角熱帶有用植物標本園新設ニ伴フ新經費ニシテ植物園ト試驗區トハ自ラ費目細別表現ハルルナラント想惟セシモ豫算費目ハ卽前表ノ如ク成リ居レリ而シテ此植物園完成年限ハ最初十年經畫ノ豫定ナリシカ前第一項十三章二節臺北豫算會議ノ條ニ述ヘシ如ク五年計畫トシテ發表サレ此五箇年間ノ經常費ハ每年一萬九千餘圓內外ヲ程度トシテ繼續シ行ク豫定ニシテ該園完成期ニ達スルニ際シテハ他ノ試驗區トノ關係ヲ參照シ更ニ經費ノ詮攻討議ヲ遂ケ變更ヲ加フルコトト成リ居レリ故ニ四十二三兩年度經費ハ右四十一年度ト畧ホ同一金額ニシテ四十三年度ノ分ハ如何ナル故カ一九、三五五、〇〇〇卽其前年度ノ一九、二六五、〇〇〇ヨリ九〇圓ノ增加ヲ來シ居レリ是ハ豫算配付上ノ都合ニ由テ斯ル差額ヲ生スルノ已ムヲ得サリシモノナラン

又明治三十七年度以前ノ費目細別表ハ今此處ニ省畧ス

以上明治三十五年度ヨリ四十二年度ニ至ル八年間本官在勤中各年配付ヲ受ケ來ル所ノ當場備人料中諸備員通譯、土人園丁等ノ諸費ヲ除キ臨時人夫賃卽各事業地ノ作業實費トシテ支出セル金額ヲ年度別ニ表示スレハ左ノ如シ

第一表

年度別	臨時人夫賃支出額	備考
明治三十四年度	三八三、八〇〇	
同 三十五年度	三、七三二、八〇〇	
同 三十六年度	四、六二一、一〇〇	
同 三十七年度	五、四五七、五〇〇	
同 三十八年度	七、〇〇八、七五〇	
同 三十九年度	五、七八五、二五〇	
同 四十年度	四、六〇五、四〇〇	
同 四十一年度	六、七二七、五一〇	
同 四十二年度	四、六四八、二二〇	
八年間合計	四二、九七〇、四三〇	

三十四年度ノ當分ハ場創設準備臨時費

三十五年度ヨリ初テ經費ノ公式配付ヲ受ク

右ハ各年ノ臨時人夫賃總額ニシテ各事業地ニ配付セル內別表ハ卽チ

第二表

年別表	各事業地臨時人夫賃配付額					
	猪勝束事業地	港口事業地	高士佛事業地	龜仔角東母樹園	同新開地西母樹園	
明治三十四年度	三八三、八〇〇					
同 三十五年度	一、六一八、二五〇	一、四一一、四五〇				
同 三十六年度	一、一四二、二五〇	二、二六二、二五〇	七〇三、一〇〇			
同 三十七年度	七四一、〇〇〇	二、九四六、二〇〇	一、二一六、六〇〇			
同 三十八年度	七〇八、一五〇	二、八七九、五九〇	六〇九、六〇〇	一、一六〇、七〇〇		
同 三十九年度	四六五、六八〇	二、五五九、五九〇	九九〇、三一〇	二、四三〇、七〇〇		
同 四十年度	三五八、七二〇	二、一四三、八五〇	五一五、七三〇	二、二四四、二五〇		
同 四十一年度			三三四、八二〇	一、五八五、四五〇	一八二、五六〇	

同	四十一年度	三五二・六九〇	一、八二七・二七〇	七五五・〇六〇	一、一七八・一二〇
同	四十二年度	二三二・五五〇	七三八・八八〇	四七二・五五〇	六五五・七二〇
合	計	六、〇〇三・一九〇	一六、七六九・〇八〇	五、五九七・七七〇	九、二五四・九四〇

					二、六四一・三七〇
					二、五四八・五二〇
					五、三四五・四五〇

右ハ各事業地ニ於ケル各年度ノ作業臨時人夫賃配付額ニシテ此表中年々多大ノ變差アルハ即本局ノ指定ニ依リ或ハ作業範圍ヲ縮少シテ原狀維持ヲ主トシタル事業地アリ或ハ急ニ事業範圍ヲ擴張シタル部分等アリ殊ニ明治四十一年以降ハ龜仔角新開地西母樹園ニ主力ヲ注クコトト爲リ他ノ各事業地ハ試驗區ノ名目ニ改リ作業ハ原狀維持ノ程度ニ止メ置クコトト爲リシユヘ其人夫賃配付額ハ著シク減少シテ龜仔角植物園用地ノ方ニ集中シタル結果此表中ニモ現ハレ居ル所以ナリ

又當場創立以來各事業地ニ消費シタル臨時人夫賃ノ各部分總計額ヲ表示スレハ左ノ如シ

地別	所	人夫賃總金額
(一)	猪勝束事業地	六、〇四三・一九〇
(二)	港口事業地	一六、七六九・〇八〇
(三)	高士佛事業地	五、五九七・七七〇
(四)	龜仔角東母樹園	九、二五四・九四〇
(五)	同植物園用地	五、三四五・四五〇
	即西母樹園	
合	計	四三、〇一〇・四三〇

右ニ依ルトキハ當場創立以來明治四十二年度末マテ八箇年間ノ總經費十萬九千七百七十一圓九十

九錢四厘ノ中ヨリ前表ノ人夫賃同總額四萬三千十圓四十三錢ヲ差引クトキハ殘額六萬六千七百六十一圓五十六錢四厘ト爲ル此殘額トシテ現ハルルモノカ即備品消耗品通信運搬費囑託雇員給料旅費修繕費種苗購入費等ニ屬スルモノニシテ此中囑託雇員給料ノ二分ノ一以上ハ總各所植物栽培監督員ニ屬スル費用ト見做スヘキモノナリ

各事業地ニ於テ各其創立以來明治四十二年度マテ凡ソ何程ノ經費ヲ消費シタルカヲ算定シ置クコトハ今日將來ノ參考上著大ノ必要アルコトト認ムル所ナリ然ルニ此通算ハ本官會計事務ニ直接當リシニアラス好シ直接ニ當リシ者ト雖モ是等ノ事項ヲ遺憾ナク計上シ得ルハ至難事ニシテ今此編算ニ際シ此等材料ノ收得上寔ニ隔靴搔痒ノ憾言フヘカラサルモノアリト雖モ今日ノ場合ニ於テハ到底滿足ナル企望ハ投却セサルヲ得サルコトヲ自認スルノ外ナキナリ畢竟我カ權能上ノ影響然ラシムルモノナリ

當場創立以來ノ內容ヲ知ラサル諸員ハ只自己ノ推想ヲ以テ猪勝束高士佛ノ兩事業地ニ多大ノ經費ヲ消費シタル區域ノ如ク誤解シ亦向來モ多大ノ費用ヲ要スヘキ冗費地ノ如ク推想スル者尠カラス ト雖モ事實ハ然ラサルナリ又事業ノ成立上最モ全力ヲ注キ來リシハ實ニ港口事業地ニシテ他所ヨリハ經費モ多額ニ上リ基礎モ鞏固ナリシト雖モ中途ヨリ消極的方針ニ移リ爲ニ原狀維持猶困難ナルニ類シ來リシ結果其營造物ハ舊時ノ如ク完全ナルヲ得ス龜仔角植物園ニ全力ヲ注クヘキ豫定ノ實行ハ四十年度以降ニシテ其年月尙淺キカ爲メ該地事業經費ノ消費額ハ比較的多額ニ上ルニ逸アラスシテ其關係ヲ離レシヲ以テ單ニ外形ノ景觀上ヨリ之ヲ見ルトキハ他所ハ費多キ割合ニ效果寡ク同所ハ費尠クシテ果效較著ナルカ如キ感アルヘシト雖モ事實ニ於テハ所謂龜仔角新開地ノ今日

ノ如キ壯偉清爽ノ體觀ヲ害スルモノハ其原由一朝一夕ノ故ニアラスシテ曩時同東母樹園一箇所ニ同事業地ノ會計事務ヲ一括シタル時代夙ニ之カ開拓ニ著手シ煙草試作其他熱帶農藝植物ノ種作地ニ充テシ部分各所ニ散點セシヲ以テ大體ノ根基ハ既ニ數年前ニ闢カレ居タルモノナレハナリ尙詳細ハ其部分ニ就テ詳述セン

今各業地ニ就テ創設以來經費ト事業トノ關係順序ヲ區分シテ展述スルコト左ノ如シ

第三節　猪勝束事業地

創立以來經費總額ト事業トノ關係

猪勝束事業地ハ明治三十五年創設以來同四十二年度ノ末期ニ至ルマテ消費シタル人夫賃金額五千六百十九圓三十九錢ニシテ外ニ明治三十四年度末殖育場全體ノ區域選定測量臺北携帶苗木假植護育費等ノ爲メ創業費トシテ別途ニ支出サレタル金額中猪勝束區域地内ノ人夫賃小屋掛費苗木護育費等ニ消費シタルモノ四百圓ト外ニ四百餘圓合計八百餘圓ニシテ是ヲ加フレハ總計六千四百餘圓ト爲ル猪勝束ノ開墾面積ハ五町歩ニ至テ反別ノ擴張ヲ中止シ原狀維持ヲ主トシテ事業ヲ繼續セシヲ以テ既墾地面積ハ狹少ナリト雖モ母樹園及農藝植物試作地トシテノ價値ハ著大ナルモノナリ港口母樹園ノ開拓十分ニ整頓スルニ至リシハ明治三十七年度ニシテ其マテノ間ハ猪勝束ニ於テ專ラ煙草試作草棉試作「タビヨカ、アロウルート」等ノ試作及ヒ生産物試驗製造ハ總テ同所ニ於テシタルモノニシテ其他鳳梨甘蕉等ノ試植等亦然リ又現時他ノ各母樹園ノ種苗作源地モ同ク猪勝束ニシテ最初臺北ヨリ多種類ノ熱帶植物ノ種苗ヲ殖育場用トシテ携帶セルモノハ皆一應猪勝束ニ於テ栽培繁

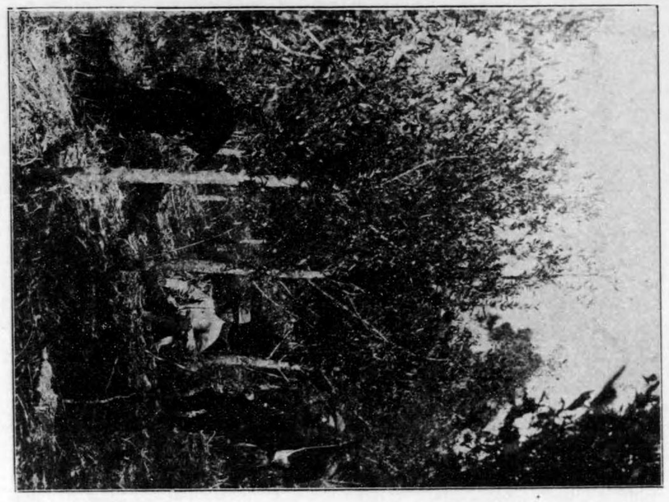


圖　號　三　第

猪ノ胃腸細菌檢査移轉内國勝束事務所

（外内半圓二長谷木生年八後植藩年五十三治明）

ハ者立ニ後背黒二武山緊ハ者生銭黒白定安代目ハ者黒胴中國

學名　Garcinia aplcata, H. K. F.　　郎五愛村谷者放播物

圖　號　四　第

郎五愛村谷ハ放者墨藏黒服者ハ員員津田德中圓八者服白年木本年九後栽櫻子種産港蓮花樹漆蕃

學名　Semecarpus Vernicifera, Hay.

殖ヲ圖リ或ハ其種子或ハ其插木用枝條或ハ苗木ヲ他ニ分配移植シタルモノニシテ凡ソ明治三十五六、七、八ノ四年間ハ殖育場事業擴充整頓上ノ根據地トシテ著大ノ效益ヲ奏シタル場所ナリ而シテ明治三十九年度以降ニ於テハ既ニ港口母樹園ノ整頓セルアリ又龜仔角母樹園ノ分業地發展シ來リシヲ以テ猪勝束ハ此期ニ至テハ全ク原狀ノ維持ノミニ止メ著シク經費ヲ縮少セリ卽左表ノ如キ標準ト爲リ居レリ

年度別	人夫賃配付額	備考
明治三十四年度	三八三・八〇〇	當所ヲ以テ事業根據地ト爲セシ時代
同　三十五年度	一、六一八・三五〇	同
同　三十六年度	一、一四二・二五〇	此年度ヨリ漸次經費ヲ縮少シテ原狀維持ノ方針ヲ執リ行ク
同　三十七年度	七四一・〇〇〇	同
同　三十八年度	七〇八・一五〇	原狀維持時代
同　三十九年度	四六五・六八〇	同
同　四十年度	三五八・七二〇	同
同　四十一年度	二、一五二・六九〇	同
同　四十二年度	二三二・五五〇	同
合計	六、〇〇三・一九〇	

右ノ如ク三十九年度以後ハ經費ヲ頓ニ縮少シテ著シキ消極的事業地ト爲リ四十年度以降ハ一箇月三十圓未滿ニ減シ四十二年度ニ至テハ一箇年間僅ニ二百三十二圓五十五錢ニシテ一箇月分十九圓強ノ人夫賃ト爲レリ

右ハ普通臨時傭人夫賃ノミニ關スル經費ニシテ此他ニ園丁給料アルヘキ處猪勝東ニハ創業當時本官等住在ノ際ハ他ノ場員小使等アリシト雖モ三十五年度末港口監督室ニ轉住シ猪勝東ニハ築地隆茂森山二吉等住居セシモ只タ同所ニ宿泊スルノミニシテ港口事業地ニ通勤シ三十八九年ハ森囑託住居シテ是亦專ラ港口龍仔角ノ兩事業ヲ掛持シ常ニ右人夫賃配付額ノ範圍內ニテ常傭ノ家族住人夫ヲ用ヒ其者恰モ園丁同樣ニ忠實ニ園內ノ除草手入ニ從事シ移植品アル際臨時ニ人夫ヲ使用シタル場合多クシテ平素ハ港口事業地ノ一分場トシテ一般ノ業務ヲ取扱ヒ來リシモノナリ故ニ三十九年度以降ハ右ノ如キ些少ノ經費ニテ維持シ來リシト雖モ是ハ抑々我カ一已ノ設計理想ニ賴リテ斯ク消極的方針ヲ執リシモノニアラスシテ行掛上亦萬已ヲ得サリシモノナリ

猪勝東母樹園ノ維持上ニ就テ忌憚ナク我カ所見ヲ述フレハ同所ハ今日將來共ニ如何ニ集約的方針ヲ執リ行クトシテモ其維持費ハ一箇月三十圓平均一箇年三百六十圓ハ見積リ置カサルヲ得ス而シテ此中ヨリ園丁一名ヲ置キ其他ハ臨時人夫ヲ以テ補ヒ事業監督員ハ港口母樹園ヨリ掛持兼務ニシテ可ナリ然レトモ若シ經費ニ十分ノ餘地アラハ內地人傭員一名ヲ置キ朝夕場內ヲ監視シテ荒廢セシメサル樣注意シ行カハ尙一層完全ノ良計ニシテ一點ノ遺憾ナク永久ニ原狀維持ノ實擧カルヘキナリ而ルトキハ其經費ハ此傭員日給ヲ七十錢平均トスレハ一箇月二十一圓ニシテ人夫賃共ニ五十圓ノ月額ト爲リ一箇年間六百圓ト爲ルノ割合ナリ尤モ右月額

三十圓ト假定スル中ニテ臨時人夫賃二十一圓ノ割ニシテ一日七十錢平均トシ園丁給料一箇月九圓ト見積リ合計三十圓ト爲セルモノナリ此處ニ聊カ記シテ後日ノ參考ニ供フ

當所創設ノ際ヨリ事業監督ニ從事シタル內地人ハ左ノ數名ニシテ多クハ兼務員トシ其作業專務員トシテハ創業ノ際若干ノ少人員タルニ過キサルノミ卽左表ノ如シ

年度別	氏名	服務月數	日給額	月額	年額	備考
明治三十四年度	築地隆茂	自十一月至翌年三月	一・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	五箇月間本人俸給殖産局直支出卽出張員五箇月間
同	吉野勘太郎	同（兼務員）	一	一	一	同
同	秋廣助市	同	七〇〇	二一・〇〇〇	一〇五・〇〇〇	同
同	竪山武二	同	五五〇	一六・五〇〇	八二・五〇〇	同
同	鈴木末藏	同	六五〇	一九・五〇〇	九七・五〇〇	同
計			一	一	四四五・〇〇〇	

右ハ當場創設前各種ノ準備事業ノ爲メ土人生蕃人等ヲ臨時人夫ニ使用シ其監督ニ從事シタル人員ニシテ此作業ハ翌年度ヨリ開設セル猪勝東母樹園用地內ニアリシユヘ卽同園創業費中ニ加フヘキモノナリ

年度別	氏名	服務月數	日給額	月額	年額	備考

明治三十五年度	築地隆茂	自四月至年度末	一・〇〇〇	三〇・〇〇〇	十二箇月分			
同	谷村愛五郎	自八月至年度末	七〇〇	二一・〇〇〇	八箇月分			
同	豐島爲元	自八月至翌年三月	五七〇	一七・一〇〇	八箇月分			
計								
明治三十六年度	豐島爲元	自四月至八月	六五〇	一七・一〇〇	五箇月分			
同	田中彦三郎	自四月至翌年三月	六五〇	一九・五〇〇	十二箇月分			
計								
明治三十七年度	田中彦三郎	全年度中	七五〇	二二・五〇〇	十二箇月分			
計								
明治三十八年度	森龜齡	全年度中	雜務	二四、〇〇〇	六箇月間			
同	田中彦三郎	自四月至九月	八〇〇	一四四・〇〇〇				
計				二、三五五・五〇〇				

右三十八年度中ノ田中彦三郎解傭以降ハ森囑託監督室ニ住居シテ測量業外役ノ傍ラ場内ヲ見締リ土人園丁ヲ置キテ人夫伍長ニ充テ別ニ内地人現業員ヲ置カス又當所ニ配置セル土人園丁ニ關スル經費總額左ノ如シ

年度別	氏名	使用月數	舊來日給	同月額	增給日給	同月額	全年額	備考
三十八年度	温阿五	六箇月間	三〇〇	九、〇〇〇			五四・〇〇〇	
三十九年度	宋阿隣	全年度中	二八〇	八、四〇〇			一〇〇・八〇〇	
四十年度	同	同			三〇〇	九、〇〇〇	一〇八・〇〇〇	四十年四月增給
合計							二六二・〇〇〇	

右テラソ事業地ノ園丁給料金額ハ僅ニ二百六十二圓ニシテ此外ニ四十年度以前ハ小使一名ツヽ置キアリシモ是ハ外業人夫中ニ數ヘラス此園丁給ト前ノ内地人現業員ノ給料全額ト臨時人夫賃トヲ通計セル金額ヲ表示スレハ左ノ如シ

年度別	臨時人夫賃	園丁給料	内地人現業員給料	計	備考
三十四年度	三八三・八〇〇				
三十五年度	一、六一八・三五〇				
三十六年度	一、一四二・二五〇				
三十七年度	七四一・〇〇〇				
三十八年度	七〇八・一五〇		四四五・〇〇〇	八二八・八〇〇	
三十九年度	四六五・六八〇		六六四・〇〇〇		
四十年度	三五八・七二〇		八七七・五〇〇		
四十一年度	二三二・五五〇		二二・五〇〇		
四十二年度	二六二・〇〇〇		一四四・〇〇〇		
合計	六、〇四三・一九〇		二、三五五・五〇〇	八、六六〇・六九〇	

テラソ事業地創設以來明治四十三年三月即同年度末マテ九年間ニ亙ル同所作業費全額即前表ノ通ニシテ其總金額即

八千六百六十圓六十九錢也

此中三十四年ニ於ケル臨時人夫賃三百八十三圓八十錢及内地人現業員給料四百四十五圓即合計八百二十八圓八十錢ハ當場創設準備費トシテ殖産局ヨリ特別支出ヲ受ケタル千七百八十五圓中ニ屬

スルモノニシテ即創業費ノ一部分ナリ而シテテラソ事業地ノ創設ハ明治三十五年度ノ初期ニ於テ發表サレタルモノニシテ其以前ハ殖育場ニ充ツヘキ位置ト區域ノ選定竝同見取調量業等ニ從事スルノ傍ラ臺北ヨリ携帶スル所ノ諸苗木ノ假植床整地開墾及其護育業等ニ臨時人夫及內地人傭員ヲ要セシモノナリ然リ而シテ本篇上卷ノ端初テラソ事業地ノ部ニ監督小屋兼場員寄宿假執務室建設ノコトヲ述ヘ置ケリ此建設費約三回ニ亘リテ竣成セル整地費小屋建料共金二百四十五圓五十錢ニシテ之ヲ右ニ加ヘタルモノカ即テラソ事業地四十二年度マテノ營造物ニ關スル總經費ナリ其金額ハ即

八千九百六圓十九錢

ニ上レリ

第四節　港口事業地

創立以來經費總額ト事業トノ關係

港口事業地ハ明治三十六年度ノ初期ヨリ創設ノ事ニ公表サレ居ルト雖モ其創開準備ニ著手シタルハ同三十五年度ニシテ同年ヨリ四十二年度末マテ消費シタル臨時人夫賃金額ハ一萬六千七百六十九圓八錢ニシテ之ヲ各年度ニ區分スレハ左表ノ如シ

年度別	人夫賃配付額
明治三十五年度	二、四一一・四五〇
同　三十六年度	二、二六二・二五〇
明治三十七年度	二、九四六・二〇〇
同　三十八年度	二、八七九・五九〇
明治三十九年度	二、五五九・五九〇
同　四十年度	二、一四三・八五〇
同　四十一年度	一、八二七・二七〇
明治四十二年度	七三八・八八〇
合計	一六、七六九・〇八〇

前表ノ如ク港口事業地ニ於テハ明治三十五年度ニ於テ莿竹林雜木林其他莿棘林藪地薙伐燒拂等開墾準備ニ著手シ又監督室人夫小屋建設用地耕墾整地等ノ爲メ千四百十一圓四十五錢ヲ人夫賃トシテ消費シ翌三十六年度ヨリ港口ヲ以テ殖育場中ノ本場ト爲シ場內ノ事務ヲ此處ニ總括シテ他所ハ皆分場ニ屬シ初メテ執務內規ヲ制定シテ各種ノ帳簿ヲ備付庶務會計主任ヲ置キ場員ヲ事務ト現業ノ二部ニ別チ各員分擔ヲ設ケテ責任ヲ明カナラシム會計前渡官吏ハ依然恒春廳屬野村文次ノ兼任ニシテ月兩三回來場ノ上執務ノ事ト爲セリ此年度內ノ人夫賃金額二千二百六十二圓二十五錢ニシテ外ニ事業監督傭員及園丁給料等アリ三十七年度ハ二千九百四十六圓二十錢ニ上リ殆ント三千圓近クニ達セリ是港口ヲ本場ト爲シ事業ノ全力ヲ當所ニ注ケハナリ三十八年度ハ二千八百七十九圓五十九錢ニシテ前年度ト殆ント伯仲セリ三十九年度ニ至テハ港口母樹園ノ基礎略ホ整頓シ開墾業減少シテ所謂創業時代ヨリ守成時代ニ移リ來リシヲ以テ漸次ニ人夫費ヲ緊縮シテ龜仔角母樹園ノ新營費ニ移セリ四十年度ニ至リテハ更ニ緊縮シテ二千百四十三圓八十五錢ト爲シ四十一年ニ至テハ千八百二十七圓二十七錢ニ減額セリ即此年度ヨリ龜仔角事業地ヲ以テ本場ト爲シ港口ハ試驗區ト名義改リテ舊來ノ位置ヲ顚倒シテ龜仔角植物園ノ附屬分場ト成リ事業範圍ヲ著シク縮小サレシト雖モ尙本年度マテハ舊來ノ行掛上夥多ノ作業殘リ居レルヲ以テ事業費ハ比較的甚敷減少スルヲ得サリシナリ即一箇月百五十二圓强ノ割合ニシテ此年度ニ於テ港口事業地ハ著シク體面修整シテ

除草手入隅々マテ行届キ場員昇益川、津田徳藏ノ盡力精勵ニ依リテ茲ニ將來原狀維持ノ基礎整頓スルニ至レリ而ルニ四十二年度以降ニ至テハ本官直接ノ事業關係ヲ離レタルヲ以テ其作業經費如キモ適度ノ權衡ヲ保ツヲ得ス極度ノ減少ヲ來シテ僅ニ七百三十八圓八十八錢ト爲リ即一箇月六十一圓強ノ割合ニシテ其原狀維持ノ實ヲ擧クルニハ甚タ窮苦ノ嫌ナキ能ハスト雖モ若シコレニ加フルニ園丁二名以上ヲ以テセハ園内ノ荒廢ヲ防遏スルコトヲ得ヘキナリ然レトモ若シ此程度以下減額スルトキハ到底原狀維持ノ實ヲ擧クル能ハスシテ自然荒廢ヲ來スノ基タルヘシ

右ノ如ク港口事業地ハ著手以來八箇年間ニシテ其臨時人夫賃總計額一萬六千七百六十九圓八錢ニシテ此外ニ明治三十八年度以降土人園丁給料大署左ノ如シ

年度別	氏名	使用月數	舊來日給	同月額	增給日給	同月額	全年額	備考
三十八年度	張阿完	全年度中	四〇〇	一二・〇〇〇			一四四・〇〇〇	
	許慶同		三五〇	一〇・五〇〇			一二六・〇〇〇	
	黄阿群同		三〇〇	九・〇〇〇			一〇八・〇〇〇	
	黄阿祿同		三〇〇	九・〇〇〇			一〇八・〇〇〇	
	陳阿己	二箇月間	二五〇	七・五〇〇			一八・〇〇〇	三十九年二月採用
	張火獅	全年度中	三〇〇	九・〇〇〇			九〇・〇〇〇	園丁兼小使
	陳阿堂同		二五〇	七・五〇〇			九〇・〇〇〇	同
合計七名							六六六・〇〇〇	
三十九年度	張阿完	全年度中			四〇	一二・〇〇〇	一五一・二〇〇	二十九年四月即年度初增給
	許慶同	十箇月間			三八〇	一一・四〇〇	一四〇・〇〇〇	九月一日解傭四月增給十一月日一再傭
	黄阿祥同	全年度中			三三〇	九・九〇〇	一一八・八〇〇	

黄阿祿	十箇月間	三〇〇	九・〇〇〇					
陳成枝	全年度中	三〇〇	九・〇〇〇					
熊大聖同		三〇〇	九・〇〇〇					
陳阿己同		三〇〇	九・〇〇〇					
張火獅同		二七〇	八・一〇〇					
門阿生	九箇月半	二七〇	八・一〇〇					
沈石生	三箇月間	二五〇	七・五〇〇					
合計十一名						三一〇	九・三〇〇	
陳阿堂	全年度中							四月增給四十年一月三十一日解傭
張阿完	全年度中	三八〇	一一・四〇〇					
許慶同		三三〇	九・九〇〇					
黄阿群同		三〇〇	九・〇〇〇					
陳阿己		二五〇	七・五〇〇					
陳阿堂同		三〇〇	九・〇〇〇					
張火獅同						三〇〇	九・〇〇〇	四月增給
合計六名								園丁兼小使
四十一年度	張阿完	全年度中						四十四年一月十六日解傭
	許慶同							
	黄阿群同							
	陳阿己同							
	陳阿堂同							
合計十一名								
四十年度	張阿完	全年度中						
	許慶同							
	黄阿群同							
	陳阿己	二箇月間						
	陳阿堂同							
	張火獅同							
合計七名								
三十九年度	張阿完	全年度中			四〇	一二・〇〇〇	一四四・〇〇〇	
	許慶同				三五〇	一〇・五〇〇	一二六・〇〇〇	
	黄阿群同				三〇〇	九・〇〇〇	一〇八・〇〇〇	
	黄阿祿同				三〇〇	九・〇〇〇	一〇八・〇〇〇	
	陳阿己	二箇月間			二五〇	七・五〇〇	一八・〇〇〇	三十九年二月採用
	張火獅	全年度中			三〇〇	九・〇〇〇	九〇・〇〇〇	園丁兼小使
	陳阿堂同				二五〇	七・五〇〇	九〇・〇〇〇	同
合計七名							六六六・〇〇〇	
三十九年度	張阿完	全年度中			四〇	一二・〇〇〇	一五一・二〇〇	二十九年四月即年度初增給
	許慶同	十箇月間			三八〇	一一・四〇〇	一四〇・〇〇〇	九月一日解傭四月增給十一月日一再傭
	黄阿祥同	全年度中			三三〇	九・九〇〇	一一八・八〇〇	
合計十一名								
四十年度	張阿完	全年度中						
	許慶同							
	黄阿群同							
	陳阿己	二箇月間						
	陳阿堂同							
	張火獅同							
合計六名								
四十一年度	張阿完	全年度中						
	許慶同							
	黄阿群同							
	陳阿己同							
	陳阿堂同							
合計五名								
四十二年度	許慶	全年度中						

| 合計 | 總計 | 一名 | | |

四十一年繰	津田徳藏	全年度中			
合計			八五〇	二五・五〇〇	三〇六・〇〇〇
四十二年度	津田徳藏	六箇月間	八五〇	二五・五〇〇	三〇六・〇〇〇
合計			九〇〇	二七・〇〇〇	三二四・〇〇〇
右總計			九〇〇	二七・〇〇〇	三二四・〇〇〇
					五、二六〇・四〇〇

前表ニ依リ試ニ港口事業地ニ於ケル明治三十五年著手以來四十二年度マテ傭人料ノ中ニテ臨時人夫賃以外現業係員即試驗事業開墾業植物栽培業生產物製造等ニ從事シテ人夫監督シ居タル各員ノ給料額ヲ當所事業經費中ニ加ヘ更ニ之ヲ吹算スレハ即左ノ如キ結果ヲ示セリ

同現業係各員經費通計表

年度別	日額	月額	年額	備考
三十五年度	二・五五〇	七六・五〇〇	三六八・四〇〇	各員中一年未滿ノモノモアリ故ニ月額ト年額ト差ヲ生ス
三十六年度	三・四五〇	一〇三・五〇〇	一、一一六・〇〇〇	同
三十七年度	三・八二〇	一一四・六〇〇	一、一九九・二〇〇	同
三十八年度	三・二〇〇	九六・〇〇〇	九三四・〇〇〇	同
三十九年度	一・五五〇	四六・五〇〇	五五〇・八〇〇	同
四十年度	二・三七〇	七一・一〇〇	七〇二・〇〇〇	同
四十一年度	八五〇	二五・五〇〇	三〇六・〇〇〇	同
四十二年度	九〇〇	二七・〇〇〇	三二四・〇〇〇	同
合計	一五・〇九〇	五五五・七〇〇	五、二六〇・四〇〇	

右ノ如ク現業係員給料トシテ消費シタル總金額ハ大約四千百四十四圓四十錢(自三十五年度至四十二年度分)ニ上リ日額、月額ハ即各日給金額ユヘ或ハ病氣缺勤ノ日モアリ各月各年固ヨリ一定スル能ハサルモノニシテ是ニ準シ年額モ亦然リトハ雖モ場員中大抵八九割以上ハ精勤者ニシテ各年間ノ總金額ニ於テハ大ナル差ナキモノト假定シテ可ナリ且一箇月ハ三十一日ト三十日ト大小混成スルモノナレトモ現表中總テ一箇月三十日平均ト爲セシハ即缺勤日ヲ割充テタルモノナリ而シテ右期間ハ大祭日以外殆ント休業セサリシヲ以テ斯クノ如キ計算ト爲ルモノナリ唯恨ラクハ創立以來同場引揚ノ年月マテ本官ハ直接會計事務監督ノ權限輕ク意ニ任セサル點多カリシ爲メ此材料蒐集ニ於テ隔靴搔痒ノ憾ヲ免レス然レトモ會計事務ニハ常ニ絕ヘス熱心ヲ注キ來リシ所ニシテ人夫帳ノ編成其他書類ノ調製ハ最初親ラ新案ヲ凝ラシテ組織セルモノ多シト雖モ長年月ノ間人代ハリ取扱代ハリ首尾一貫シテ一律ノ下ニ之ヲ統括スルノ材料ヲ得ルニ甚タ困難ナルモノアリ然レトモ創立以來ノ會計事務ニハ最モ熱心ニ我カ念慮ヲ注キ來リシ一紀念事項ニシテ平素晝想夜寐經費關係ノ事ニハ精神ヲ傾ケ來リシ結果トシテ記憶力ト事實トハ儼然トシテ胸裏ニ具備存在シ尚依然トシテ忘失セサルヲ以テ當場各事業ニ用ヒ來リシ諸經費ノ積算上ニハ大違算ナカルヘキヲ親ラ證認スル所ナリ

右港口事業現業係員八箇年間ノ給料通計金額約五千二百六十圓四十錢ヲ前表ノ園丁給料五箇年間(自三十八年度至四十二年度ノ通計三千二百四圓四十五錢及創立以來三十五年度ヨリ四十二年度末マテ八箇年間ノ臨時人夫賃一萬六千七百六十九圓八錢ヲ合計スルトキハ即チ

二萬五千二百三十三圓九十三錢

内譯

臨時土人夫賃(生蕃人共)　一萬六千七百六十九圓八錢
園丁給料　三千二百四圓四十五錢
現業係内地人傭員料　五千二百六十圓四十錢

右ノ如ク港口事業地ハ當場創立以來本局ヨリ配付ヲ受ケシ經費總額十萬九千七百七十一圓九十九錢四厘ノ中ニテ現業ニ從事シタル人員ノ總經費即二萬五千二百三十三圓九十三錢ヲ消費シタルモノニシテ大略二萬五千圓ナリ而シテ此外ニ肥料費各小屋掛修繕費消耗品費備品費運搬費種苗費等アリト雖モ此通計ハ會計官吏ニアラサル我カ分限トシテハ不可能ニ屬スト雖モ其總金額ハ恐ラク三千圓未滿ナルヘシ

先ッ前顯ノ通算額ヲ以テ港口事業地ニ於ケル創立以來ノ總經費ト見レハ大差ナキモノニシテ此消費金額ト其實地ニ顯現セル事業ノ眞價トノ比較ハ固ヨリ親ラ之ヲ證認スルヲ憚ル所ナレトモ其實地ノ現象ハ數年前マテ存在シテ今日消失シ居ルモノアリ或ハ尚依然トシテ形跡ヲ留ムルモノアリ是等ノ變遷ニ於テハ寔ニ無限ノ感ニ堪ヘサルモノアリ乃チ曩時ノ既成開墾地ハ現時雜木林ニ化成スルアリ或ハ草藪ニ委スルモノアリト雖モ大體ノ區劃ハ尚儼然トシテ營造物ノ眞形ヲ失ハス或ハ珈琲園ノ如キモノハ元ノ景觀殆ント尋ネ難キマテニ凄慘ノ狀ヲ呈スト雖モ經營ノ遺趾ハ完形ヲ存シ樹株ノ根孽ハ列然トシテ秩序ヲ違ヘス若シ一タヒ斯道專門上ノ修整ヲ經レハ忽チ原態ヲ再現スルノ根基ハ尚望ヲ屬スルニ足ルヘキモノアリ其他各殊ノ母樹蓊然トシテ舊園内ノ根孽ヲ存シ多少ノ剪定養護ヲ得ハ元態ニ復スヘキモノアリ或ハ尚今日ニ曩時ノ壯觀ヲ更ヘサルモノアリ但タ往時數町歩ノ面積ヲ充塡シ年々數百千斤ノ澱粉ヲ生産スルニ餘アリシ「タピヲカ」木アロウルート草等ハ元ト生産物實價中ノ一ニ見積アリシ植栽品中ノ一ナリシモ今ハ殆ント根絶スルニ至レリ如斯豫定外ノ變化ハ自然ノ趨勢ヲ免レスト雖モ茲ニ創立以來八星霜ヲ經過シタル各員努力經營ノ遺痕ハ基礎既ニ鞏固ニシテ容易ニ消失シ難キモノアリ尚詳細ハ後章ニ於テ更ニ復述スヘキヲ以テ此處ニ省略ス

第五號圖

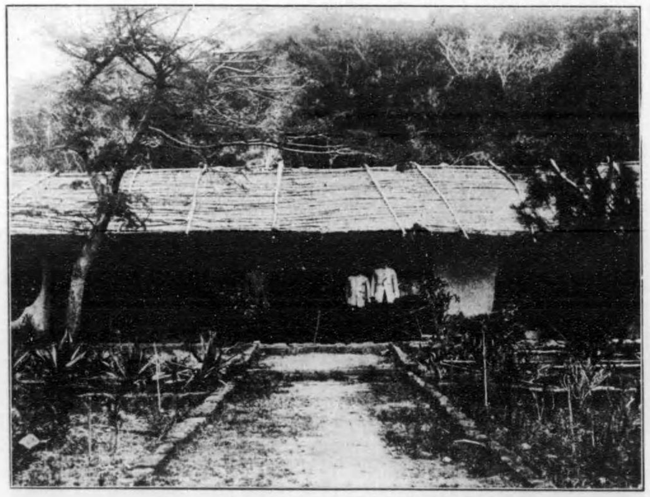
港口母樹園創開三年後明治三十七年ノ景

監督室首部舟形護育室前庭各移植品椰樹側佇立者ハ場員竪山武二年少ノ土人ハ陳阿巳

第六號圖

同事業監督室明治四十五年半荒廢ノ景

圖中左端一番ハ神谷重造二番ハ田代安定三番ハ谷村愛五郎四番ハ津田穗藏五番ハ昇益川



第五節　高士佛事業地創設以來經費總額ト事業トノ關係

高士佛事業地ハ明治三十五年五月創設ノ當時ヨリ同四十二年度末マテ消費シタル臨時人夫賃總額五千五百九十七圓七十七錢ニシテ之ヲ全八箇年間ニ割充レハ毎一箇年間ノ平均額六百九十九圓七十二錢一厘張ニシテ一箇月五十八圓三十一錢强ト爲ル而シテ此各年間ノ配付額ヲ表示スレハ卽左ノ如シ

年度別	人夫賃配付額	一箇月間平均額	備考
明治三十五年度	七〇三・一〇〇	二八・五九錢强	
同　三十六年度	一、二一六・六〇〇	一〇一・三八三强	
同　三十七年度	六〇九・六〇〇	五〇・八〇〇	
同　三十八年度	九九〇・三一〇	八二・五二五	
同　三十九年度	五一五・七三〇	四二・九七七	
同　四十年度	三三四・八二〇	二七・九〇一	
同　四十一年度	七五五・〇六〇	六二・九二〇	
同　四十二年度	四七二・五五〇	三九・三七九	
合計	五、五九七・七七〇	—	

右ノ如ク三十五年度五月以來創設ノ際ハ同年度末マテ一箇月五十八圓五十九錢强ノ割合ニテ作業ヲ進行シ一日分一圓九十五錢平均ニシテ土人夫六人半（日給三〇錢ヲ使用シタル割合ト爲リ兒童ハ丁年者ノ半額女子ハ二十錢平均ナルヲ以テ男女老幼混合シテ一日ニ八九人ッヽト爲リ遂ク土人部

年度別	氏名	服務月數	給日額	月額概算	年額概算
三十年度	山口熊吉	自同年四月一日至同年四月三十日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十一年度	同	自同年五月一日至同年八月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十二年度	同	自同年九月一日至同年十二月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十三年度	同	自同三十四年一月一日至同年四月三十日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十四年度	同	自同年五月一日至同年八月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十五年度	同	自同年九月一日至同年十二月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十六年度	同	自同三十七年一月一日至同年四月三十日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十七年度	同	自同年五月一日至同年八月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十八年度	同	自同年九月一日至同年十二月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
三十九年度	同	自同四十年一月一日至同年四月三十日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
四十年度	同	自同年五月一日至同年八月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
四十一年度	同	自同年九月一日至同四十二年三月三十一日	六〇〇	一八〇・〇〇	二一六・〇〇
計				一八〇・〇〇	二一六・〇〇

此他ハ臨機必要ニ應シ十日間内外或ハ一週日間許ツツ港口事業監督ヲ補助シ港口事業地ノ殘スヘルコトナシ

中ニ屬シ監督者ノ指揮ヲ受ケ主トシテ事業地ノ取締ニ從事ス

又園丁ハ三十年十月一日付ヲ以テ土人夫中ヨリ三名ヲ採用シ平素内地人補助員ニ代ハリテ同所ノ總經費ハ港口四圓事業地ノ殘ス所ヲ

右高士佛園丁給料明治三十九年以降四十二年度末ニ至ル總金額千四百十八圓四十錢ト爲ル三十八年度以前ハ全部臨時人夫ノミニシテ園丁ナルモノナシ此園丁ハ普通臺灣土人夫中ヨリ植物栽培業ニ熟練シ旦行狀方正ニシテ多年ノ勤功ヲ積ミタル者ノ中ヨリ特ニ選拔採用セルモノナリ

又當所事務主任樋口囑託ハ專ラ事業ノ經營及同所ニ於ケル會計事務ヲ委囑セルモノニシテ即業務員ノ方ニ屬スヘキモノナルモ創設以來其部下タルヘキ內地人現業專務員ヲ別ニ置カス全部ノ事業監督及人夫使役ノ事ニ至ルマテ萬端同氏自身ニ之ヲ兼辨シ各殊ノ植物栽培業ハ土人園丁ニ教訓ヲ加ヘ專攻練磨ノ功ヲ積ンテ內地人ニ代用シ以テ經費省節ノ實ヲ擧ケ來リシモノナリ殊ニ同氏ハ造林業及植物栽培業ニハ多年來內地ニ於テ既ニ其專門的素養ヲ有シ居タル故ヲ以テ卽斯道專門家ノ一人トシテ現業係員ノ中ニ列シ同氏在職中ノ俸給全額ヲ通計スレハ左ノ如シ

年度別	職別	氏名	昇給年月異動	月給額	全年金額	備考
明治三十五年	事務囑託	樋口素雄	三十五年四月十五日新任	二四・〇〇〇	二七六・〇〇〇	此年額金ハ十一箇月半分ノ俸給ヲ以テ計算ス全年度中
同三十六年	同	同	四月一日昇給	二八・〇〇〇	三三六・〇〇〇	
同三十七年	同	同	同	三〇・〇〇〇	三六〇・〇〇〇	同
同三十八年	同	同	同	三五・〇〇〇	四二〇・〇〇〇	同
同三十九年	同	同	同	三八・〇〇〇	四五六・〇〇〇	同
同四十年	同	同	同	四三・〇〇〇	五一六・〇〇〇	同
同四十一年	同	同	同	四五・〇〇〇	五四〇・〇〇〇	同
同四十二年	同	同	十月末辭職卽日	四五・〇〇〇	三一五・〇〇〇	七箇月分ノ俸給ヲ以テ計算ス
合計八年間					三、二一九・〇〇〇	

右樋口氏俸給全額ヲ前顯ノ臨時人夫賃園丁給料ト內地人傭員給料トヲ合計スレハ左ノ金額ト爲ル

高士佛事業地創立以來現業員總經費

金一萬四百九十九圓十七錢也

內譯

(一)臨時人夫賃配付全金額五千五百九十七圓七十七錢

(二)園丁給料全金額千四百十八圓四十錢

(三)內地人傭員給料全金額二百六十四圓

(四)樋口囑託俸給全金額三千二百十九圓

右ノ如ク高士佛事業地ハ明治三十五年以來同四十二年度末ニ至ル約滿八箇年間ニシテ其消費シタル事業實費ハ總計此七千餘圓ニシテ一萬圓ニ上ラサリシナリ

高士佛ノ事業ハ前篇中ニモ述ヘシ如ク他所ト少ク趣ヲ異ニシ專ラ高地性植物ト針葉樹ノ植栽ヲ主トシ總テノ著手法林業的ニ組織サレ將來臺灣ノ造林主木ト爲スヘキ熱帶地以外ノ暖帶地的用材樹ノ試植林モ併セ設クルコトト爲セリ其開墾面積ハ十餘町歩ニシテ現時舊態ヲ留メ居ルモノ十町歩以內ニ減退セリ

第六節　龜仔角事業地

創設以來經費總額ト事業ノ關係

龜仔角事業地ハ舊來ノ行掛上其經費ノ關係モ東母樹園ト西母樹園ニ大別セサルヲ得ス元ト龜仔角

園卽現時ノ分ノ一ニ在リ已上戚鳥敷鳥蚕新開地ノ二分一弱ヲ使用シ本事務室所在地開墾及植栽事業ノ彼ノ一強ニ當ル戚ル年ハ其三分ノ二ヲ使用シ四十年度末ニ於ケル百分ノ一千ツ一ノ割合ト假定スレハ卽チ左ノ如シ併テ事業地ニ關スル現時ノ概況ヲ述ヘンニ新開地七十餘ハ全ク會計一覊ノ開墾ニ係リ殘リ三十餘ハ舊開墾地ニ屬シ一强ハ新開地ニ屬シ其ノ一部ハ東母樹園ニ編入シ殘リ二分ハ東母樹園ニ編入

年度別	氏名	使用月數	日給額	月額概算	年額概算
三十八年度	潘撞生	全年度中十二箇月間	三〇〇	九、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
	温阿五	六箇月間	三〇〇	九、〇〇〇	五四、〇〇〇
計	二名				一六二、〇〇〇
三十九年度	潘撞生	全年度	三三〇	九、九〇〇	一一八、八〇〇
	李明仔	同	三三〇	九、九〇〇	一一八、八〇〇
	沈強	同	三三〇	九、九〇〇	一一八、八〇〇
	羅阿修	同	三〇〇	九、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
	施阿溪	同	三〇〇	九、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
	藍阿雷	十箇月間	二七〇	八、一〇〇	九七、二〇〇
	陳貴林	同	二七〇	八、一〇〇	九七、二〇〇
	黃豆仔	全年度	二二〇	六、六〇〇	七九、二〇〇
計	八名				五五九、六〇〇
四十年度	潘撞生	全年度	三三〇	九、九〇〇	一一八、八〇〇
	李明仔	同	三三〇	九、九〇〇	一一八、八〇〇
	沈強	同	三三〇	九、九〇〇	一一八、八〇〇
	羅阿修	同	三〇〇	九、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
	施阿溪	同	二五〇	七、五〇〇	九〇、〇〇〇
	藍阿雷	四月一日增給四月一日再ヒ採用	三〇	九、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
	陳貴林	十箇月間	三三五	九、九〇五	一一九、四八〇
	黃豆仔	全年度	三三五	九、九〇五	一一九、四八〇
計	八名				一二二、四〇〇
四十一年度	潘撞生	十月增給	三三五	一〇、〇五〇	一二、五〇〇
計	七名				

右三十八年度ヨリ四十二年度ニ至リ三年間ノ園丁給料合計金額大約二千四百十八圓六十錢ト爲ルヘキヲ以テ著シキ差ナキモノト見テ可ナリ又三十八年度ハ初テ園丁ヲ採用セル年ニシテ此時マテハ是ハ缺勤日數等ヲ差引タル現金仕拂簿ニ依ルニ由ナク已ヲ得ス全年中概算日數ヲ以テ算定セルモノニシテ實際ノ支出額ハ此中ヨリ約一割減少シ居ルモ圖リ難シト雖モ我カ調査ノ分限トシテハ以上立入ルヲ得サルヲ以テ年額ニ於テハ概算數ヲ示シ置クノ外ナシ然レトモ平素比較的缺勤者勘當所ニハ園丁ノ名ヲ附セルモノ僅ニ潘撞生外一名ニ過キサリシナリ

又內地人場員中ニテ當所現業係トシテ使用セルモノハ左ノ數名ナリシナリ

龜仔角東母樹園現業係各員給料細別表

年度別	氏名	服務月數	日給額	月額概算	年額概算
三十七年度	大宜見信一	九箇月間七月以降	八〇〇	二四、〇〇〇	二一六、〇〇〇
	谷村愛五郎	三箇月間六月三十日解傭	八〇〇	二四、〇〇〇	七二、〇〇〇
計					二八八、〇〇〇
三十八年度	渡瀨隆	同年九月以來七箇月間		四〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇

大宜見信一	全年度							
東恩納盛珍	同							
計								
三十九年度	吉野勘太郎	同年四月ヨリ六月迄三箇月間	六〇	二七・〇〇〇	三二四・〇〇〇			
	大宜見信一	全年度中	二〇	一八・六〇〇	一二三・二〇〇			
	尚直彦	七月以降九箇月間	七四〇	四〇・〇〇〇	八二七・二〇〇			
	東恩納盛珍	四箇月間	八〇〇	三四・〇〇〇	八〇・〇〇〇			
計				二四・〇〇〇	四〇八・〇〇〇			
四十年度	有川省吾	同年七月以降九箇月間	七二〇	二一・六〇〇	二一六・〇〇〇			
	大宜見信一	同年七月迄四箇月間	八〇〇	二四・〇〇〇	八八・八〇〇			
	尚直彦	同年六月迄三月箇間	八〇〇	三四・〇〇〇	一三六・〇〇〇			
	崎原當富	自四月至翌年一月十箇月間	七二〇	二一・六〇〇	七二・〇〇〇			
計				四七・〇〇〇	四二三・〇〇〇			
四十一年度	有川省吾	自四月至五月二箇月間	九〇〇	二七・〇〇〇	三二四・〇〇〇			
	益川昇	全年度	九〇〇	二七・〇〇〇	三二四・〇〇〇			
計				四七・〇〇〇	四一八・〇〇〇			
總計				四七・〇〇〇	三、一八一・〇〇〇			

右當所現業係員給料總額ニシテ四十一年度マテハ此東母樹園專務員ヲ置キシモ四十二年度以降ハ全部西母樹園ニ合併シ別ニ當所專務ノ現業係員ヲ置カスシテ各員西母樹園ヲ本務トシテ其作業必要ノ都度巡視監督スルコトト爲レリ故ニ四十二年度以降ハ事實ニ於テハ恰モ西母樹園ノ一部分ニ等シキ性格ト爲リ名稱ニ於テハ四十一年度以降ハ卽龜仔角試驗區ト爲リシモノナリ

右東母樹園創設以來四十二年度マテノ臨時人夫賃園丁給料內地人現業係員給料ヲ通計スレハ其總

金額卽左ノ如シ

金一萬一千八百五十四圓五十四錢

內譯

臨時人夫賃　六千二百五十四圓九十四錢

園丁給料　二千四百十八圓六十錢

現業係內地人給料　三千百八十一圓

(乙)西母樹園ノ部

茲ニ西母樹園ト稱スルハ卽今日ノ林業試驗支場龜仔角本場ノコトニシテ從來熱帶各用植物標本園ニ充テ來リシ敷島臺方面新開地ノ全面ヲ意味スルモノニシテ本官ハ之ヲ總括シテ龜仔角西母樹園ト命名シ以テ永久的稱呼ニ充ントスル所ナリ

該地ノ著手ハ前諸章中ニ述ヘシ如ク明治三十九年度以降ニシテ翌四十年度マテハ此處ニハ未タ場員ノ棲息スヘキ家屋ナク全面蒼茫タル深林荒野ナリシヲ以テ其開拓事業ハ東母樹園監督室ノ掛持ニシテ日々同所ヨリ現業係員若干ノ土人夫ヲ引率シ來リテ作業ニ從事シタルモノナリ而シテ四十年度ニ及ンテ事務室ノ一部分及人夫小屋等ヲ新設シ此處ニ場員ヲ住マシメ四十一年度ヨリ初テ事務ヲ執リ舊來東母樹園監督室ノ事務ヲ全部此處ニ移シ却テ舊來ノ東母樹園ハ分業地ノ一部分ニ屬スルニ至レリ乃チ四十一年度以降ハ植物園ノ創設ト共ニ當場ノ主力ヲ此處ニ集注スルコトトナリ急ニ作業費ヲ增シ標本園面積十二町ニ對スル開墾仕上ニ著手セリ其四十二年度末マテノ臨時人夫賃概計左ノ如シ

第一表

西母樹園即有用植物園新事務室支出人夫賃

年度別	臨時人夫賃
明治四十年度	一八二・五六〇
同　四十一年度	二・六一四・三七〇
同　四十二年度	二・五四八・五二〇
合　計	五・二四五・四五〇

又三十八年度ヨリ四十年度マテ實際此西母樹園ノ爲メ支出セル人夫賃ハ前東母樹園ノ條下ニ第一表トシテ掲示セル

三・〇〇〇・〇〇〇

ニシテ卽是ヲ合併シテ四十二年度マテ同園人夫賃金額ト爲ルモノナリ其內譯卽左ノ如シ

第二表

東母樹園人夫賃中ヨリ西母樹園費ヲ支出セル合併額

年度別	人夫賃	備考
明治四十年度以降	三・一八二・五六〇	
同四十一年度以降	五・一六二・八九〇	
合　計	八・三四五・四四〇	

右ハ四十二年度末マテノ新開地臨時人夫賃總額ト見ルヘキモノニシテ此ニ附帶セル東母樹園々丁

給料及內地人現業員給料ハ帳簿上ヨリ見ルトキハ皆彼方ニ屬シ居テ故ラニ西母樹園ノ分トシテ區別スルハ不可能ノコトト爲リ居レリ何トナレハ其當時ハ今ノ所謂本場ト稱スルモノハ元トクアル事業地中ノ一部分ニ過キスシテ其作業ノ緩急ニ應シ適宜人員ヲ配置シタルモノナレハナリ而シテ三十九年以降ハ其園丁モ臨時人夫ノ下監督ヲ兼テ約半數ハ新開地作業ニ從事シタルモノアリ內地人モ亦同樣ナリト雖モ金額ヲ以テ特ニ區分スルコトハ困難ナリ

又植物園即西母樹園名稱ノ下ニ新ニ園丁ヲ置キシハ四十一年度以降ニシテ卽此年度ヨリ港口及母樹園舊來ノ園丁過半數ヲ引揚ケテ此處ニ轉用スルコトト爲レリ其現狀左ノ如シ

年度別	氏名	增給及異動	日給額	月額概算	年額概算
四十一年度	李明仔	全年中	三五〇	一〇・五〇〇	一二六・〇〇〇
	施阿溪	同　十月增給	三二〇	九・六〇〇	一一五・二〇〇
	藍阿雷	十月以降中間增給	三〇〇	九・〇〇〇	一一一・六〇〇
	張火獅	六箇月	三〇〇	九・〇〇〇	一一一・六〇〇
	黃豆仔	全年增給	二九〇	九・七〇〇	九八・六〇〇
	邱路德	十月	三二〇	九・六〇〇	一一五・二〇〇
計					六七八・二〇〇
四十二年度	張阿完	全年中	四五〇	一三・五〇〇	一六二・〇〇〇
	黃阿詳	同	三八〇	一一・四〇〇	一三六・八〇〇
	李明仔	同	三六〇	一〇・八〇〇	一二九・六〇〇
	陳阿巳	同十月增給	三二五〇	九・六〇〇	一一〇・六〇〇
	施阿溪	同	三五〇	一〇・五〇〇	一二六・〇〇〇

總計	計	藍邱路德	十月増給	一、三三九・一〇〇	一、三四〇	一〇・二〇〇	
		阿雷德	同月解傭	一一五・二〇〇	三一〇	九・六〇〇	
		陳阿堂	四箇月間	一〇八・〇〇〇	三〇〇	九・〇〇〇	
		張火獅	全年中	一一五・二〇〇	三一〇	九・六〇〇	
		黃阿壽	同	一〇四・四〇〇	二九〇	八・七〇〇	
		黃豆仔	同	一〇八・〇〇〇	三〇〇	九・〇〇〇	
		阿壽	同	一一八・七〇〇	三一〇	九・六〇〇	
		邱路德	十月増給	一、三三九・一〇〇	三一四〇	一〇・二〇〇	
				二、〇一七・三〇〇			

又內地人現業員中ニテ當所實地ノ勞役ニ從事シ若クハ終日作業場ニ在リテ土人夫ノ直接監督ニ從事スル者ノ給料額ヲ通計スレハ左ノ如シ

年度別	氏名	服務月數	異動	俸給額	日給額	月額	全年額
四十年度	有川省吾	兼務全年中	八月一日解職	俸給ハ東母樹園ニ屬ス	給料ハ東母樹園ニ屬ス		
	大宜見信一	同四箇月間	四十年六月三十日解傭	同	同		
	尙直彥	同三箇月間	四十一年一月解傭				
	崎原當富	同十箇月間	四十年四月內地人夫ニ採用同七月內地人夫ニ採用				
	名村傳吉	全年中十二箇月間	四十一年六月他ニ轉任				
	前田彌之吉	全年中十二箇月間	九月七八〇ノ傭員ニ採用		五箇月間七箇月間 六五〇 七八〇	一九・五〇〇 二三・四〇〇	二六一・三〇〇
計					六〇〇	一八・〇〇〇	五四・〇〇〇
四十一年度	有川省吾	兼務二箇月間	四十一年一月傭員ニ採用		八箇月間 六八〇	二〇・四〇〇	五四・〇〇〇
	昇益川	同全年中	同		四箇月間 七三〇	二一・九〇〇	一六八・〇〇〇
	名村傳吉	全年中	九月八〇〇傭員ニ採用		五箇月間 六五〇	一九・五〇〇	四一八・〇〇〇
計					七箇月間 八〇〇	二一・九〇〇	二七七・五〇〇

計	計	前田彌之吉	全年中	九月七八〇ノ傭員ニ採用		六五〇 七八〇	一九・五〇〇 二三・四〇〇	二六一・三〇〇
四十二年度		昇益川	全年中	四十二年一月傭員ニ採用		六〇〇	一八・〇〇〇	五四・〇〇〇
		森森儀美	三箇月間					
		河原友治	同	同	三〇・〇〇〇 二四・〇〇〇		三・〇〇〇	三六・〇〇〇
		神谷重造	七箇月間	四十二年九月採用		六箇月間 八〇〇 七八〇	二四・〇〇〇	一六八・〇〇〇
		竪山武二	同	十月末解傭		同 八〇〇 七八〇	二四・〇〇〇	一六八・〇〇〇
		名村傳吉	全年中	十月八三〇ニ增給		同 八〇〇 八三〇	二四・九〇〇	一七四・九〇〇
		前田彌之吉	同	同		同 八〇〇 八三〇	二四・九〇〇	一七四・九〇〇
		森森儀美	同			同 八〇〇 八三〇	二四・九〇〇	一七四・九〇〇
		河原友治	同			同 八〇〇 八三〇	二四・九〇〇	一七四・九〇〇
		山下兼善	一箇月間	九月初日高士佛ヨリ歸場		六〇〇	一八・〇〇〇	一八・〇〇〇
右總計								二、八四六・三〇〇

以上クアル新開地植物園即西母樹園創設以來四十二年度末マテノ臨時人夫賃園丁給料內地人現業係員給料ヲ通計スレハ其總金額左ノ如シ

金一萬三千二百九圓四錢

內譯

臨時人夫賃	八千三百四十五圓四十四錢
園丁給料	二千十七圓三十錢
現業係內地人給料	二千八百四十六圓三十錢

右四十二年度末マテニ同所ニ使用シタル備人料金額ニシテ此中三十九年度マテハ尚準備時代ニシテ具體的ニ全部ノ開墾及植物植栽業ニ著手セシハ即四十年度以降ニ屬シ四十二年度マテ全三年間ナリ而シテ翌四十三年度ニ至リテ全般ノ竣功ヲ告ケタルモノニシテ其實形上ニ現ハルル所ノ大基礎ハ即此四十三年度ノ上半期中ニ亙リテ成立セルモノナリ而シテ四十二年以降ハ當場ノ事業ヲ全部此新開地中ニ集中シ他ノ港口、テラソ、高士佛及クアル東母樹園ハ其附屬試驗區トシテ消極的ニ事業方針ヲ縮少シ積極的節減ヲ加ヘシモノユヘ同各所ノ景觀ハ四十二年度マテニ停止シタル實景ノママヲ現存シ特リ此新開地ハ四十三年度以降尚引續テ年々歲々停滯ナク事業ヲ擴張シ經費ノ全能力モ殫テ此地ニ注加シ來リシモノナリ故ニ其作業年間ノ短キ割合ニハ他ノ事業地ヨリハ多大ノ經費額ニ上リ居ル所以ナリ

又クアル新開地營造物中ノ主眼品トシテ人目ヲ惹クモノハ此土地原狀ノ外ニ營繕費ヲ以テ成ル所ノ土林局直營建築物ナリ便チ此ヲ加ヘタルモノ即同所眞然ノ價値ヲ現ハスモノニシテ他ノ分業地ト一種趣ヲ異ニセリ其建築物ノ內容ハ即左ノ如シ

建物類別	建坪數	建築費	同年月	備考
(一)事務室	四六坪強	五、三二八・〇〇〇	四十年六月一部分	四十年六月其二室ヲ竣成シ四十二年中更ニ三室ヲ增築シテ五室ト爲シ最初ノ設計ヲ完成シタルモノナリ又此建物中玄關一坪ト〇分ノ建築費ヲ更ニ加フヘキモノアレトモ今數字ニ於テ不明ノ點アルヲ以テ省除ス
(二)倉庫	二四坪	二、三二八・〇〇〇	四十二年六月增築	
(三)上級判任官舍	三六坪	三、八〇〇・〇〇〇	四十二年六月竣成	
(四)下級判任官舍	二六坪	二、一二〇・〇〇〇	同 八月中	
(五)農夫舍	八坪二五	五九八・〇〇〇	同 十二月中	
(六)植物護育室	二四坪六〇	二、八六五・〇〇〇	同 六月中	
合計	六棟	一八、〇三八・六六〇		

右四十二年度中ニ出來上リタル營繕費支出ノ建築物ニシテ其總經費一萬八千三十八圓六十六錢ニ上レリ此外ニ前述ノ事務室玄關造足シ費若干圓ヲ加フヘキモノアリ

右ノ如ククアル新開地卽現林業試驗支場事務室所在地四十二年度末マテノ原形ハ卽

(一)土地作業費全額約一萬三千二百九圓四錢

(二)建築費全額約一萬八千三十八圓六十六錢

合計三萬一千二百四十七圓七十錢

ヲ以テ成立ツモノニシテ外ニ營繕費以外ノ貯水池、肥料溜、人夫小屋等アリ而シテ四十三年度末殖育場ノ名稱ヲ廢止シ四十四年度ノ差入リ林業試驗支場ニ移シ入ルルマテノ間尙引續キ當場ノ原形ヲ整頓セル爲ニ使用シタル土地作業費ト建築費トノ全金額ハ大約左ノ如シ

其一　建築費(四十三年度)

建物類別	建坪數	建築費	同年月	備考
(一)高等官官舍	三四坪四七	四、〇五五・一三六	四十四年二月卽四十三年度末著手	同家屋引渡ハ四十四年八月ト爲レリ
(二)傭員官舍	二四坪	二、二八八・七六四	同	
計	二棟	六、三四三・九〇〇		

其二　土地作業費四十三年度)

氏名	使用月数	異動	日給額	月額概算	年額概算
津田原五郎	箇月				
前田彌之助	箇月				
同治十名	箇月				
同吉藏	箇月				
計	箇月			八六〇	九五〇
				九五〇	一九五・〇〇〇
				二八五・〇〇〇	二九五・〇〇〇
				一九五・〇〇〇	二九五・〇〇〇
				一九三・八〇〇	二九三・八〇〇

(三)臨時人夫賃

金三二一・六〇三〇

右土地作業費合計六二七・八三〇

以上四土地作業費及ビ開ス土地作業費及ビ雜費ヲ合計ハ卽チ金一二六一・七三〇圓ニシテ一ヶ年平均ハ一萬二千六百十六圓七十三錢ニ當ル

(一)園丁給料

氏名	使用月數	異動	日給額	月額概算	年額概算
阿一	箇月	母ノ年忌ニ付休業	四〇	一二〇	一四四〇
阿明	箇月	同	三七〇	一一一〇	一三三二〇
阿火	箇月	同	三五〇	一〇五〇	一二六〇〇
阿順	箇月	同	三五〇	一〇五〇	一二六〇〇
豆路	箇月	同	三五〇	一〇五〇	一二六〇〇
十一	箇月	同	三四〇	一〇二〇	一二二四〇
名仔	箇月	同	三〇〇	九〇〇	一〇八〇〇
德流	箇月	同	三〇〇	九〇〇	一〇八〇〇
壽獅	箇月	同	三〇〇	九〇〇	一〇八〇〇
雷溪	箇月	同	三〇〇	九〇〇	一〇八〇〇
巳仔	箇月	同	三〇〇	九〇〇	一〇八〇〇
生群	箇月	同	三〇〇	九〇〇	一〇八〇〇
計	箇月			一二〇	一四四〇
				一一一〇	一三三二〇
				一〇五〇	一二六〇〇
				一〇五〇	一二六〇〇
				一〇二〇	一二二四〇
				九〇〇	一〇八〇〇
				九〇〇	一〇八〇〇
				九〇〇	一〇八〇〇
				九〇〇	一〇八〇〇
				九〇〇	一〇八〇〇
				九〇〇	一〇八〇〇

第七號圖

港口母樹園創設後六年明治四十年ノ景
圖中巨幹ノ椰樹ハ「ロヽヤルパルムル」即大王椰樹落葉中ノ木ハ
「インガ。サヽンヽ」孔雀椰樹下ノ一人ハ竪山武二

第八號圖

クアルル西母樹園字敷島蠶開拓當初ノ景
一棟ノ茅屋ハ場員故名村傳吉宿舍代用

當場創設以來各事業地ニ使用シタル事業費ノ內容ハ前文中ニ詳細縷述セシト雖モ今各所ニ就テ其多寡比較ヲ勉テ簡明ニ一目瞭然タラシメンカ爲メ左表ヲ調成シ以テ後日ノ參考ニ供フ

第一表

事業地點	事業年間	臨時人夫費	園丁給料	內地人現業員給料	建築及附屬物	小計
(一)テラソ事業地	自三十四年末至四十二年度 九年間	六、〇四三・一九〇 円	二六二・〇〇〇 円	二、三五五・五〇〇 円	二四五・五〇〇 円	八、九〇六・一九〇
(二)港口事業地	自三十五年至四十二年 八年間	一六、七六九・〇八〇	三、二〇四・四五〇	五、二六〇・四〇〇	二、二〇二・〇〇〇	二七、四三五・九三〇
(三)高士佛事業地 同	八年間	五、五九七・七〇〇	一、四一八・四〇〇	二六四・〇〇〇 約	二五〇・〇〇〇	七、五三〇・一七〇
(四)クアル東母樹園	自三十七年至四十二年 六年間	六、二五四・九四〇	二、四一八・六〇〇	三、一八一・〇〇〇 約	二〇〇・〇〇〇	一二、〇五四・五四〇
(五)クアル植物園	自三十九年至四十二年 四年間	八、三四五・四四〇	二、〇一七・〇〇〇	二、八四六・三〇〇	一八、〇三八・六六〇	三一、二四七・四〇〇
合計		四三、〇一〇・四二〇	九、三二〇・四五〇	一三、九〇七・二〇〇	二〇、九三六・一六〇	八七、一七四・二三〇

右總金額八萬七千百七十四圓二十三錢ニシテ此中六萬七千三百五十九圓五十七錢ハ各年殖產局ヨリ配付セル當場經常費ノ中ニ屬スルモノニシテ卽明地三十四年度末創業臨時費千七百八十三圓ヲ初トシ同三十五年度創設發表ノ日ヨリ四十二年度末マテノ配付總金額十萬九千七百七十一圓九十九錢四厘中ヨリ支出シタル事業實費ニシテ此中ヨリ右六萬七千三百五十九圓五十七錢ヲ差引ケハ其殘金

四萬二千四百十二圓四十二錢四厘

ヲ生ス便チ殆ンド四萬圓强ニシテ是ハ諸地ノ各費卽備品消耗品修繕費通信運搬費雜給雜費等ニシテ卽現業費ノ外ニ屬スルモノナリ

第二章　人事上ニ關スル事歷

第一節　當場創業以來場員ノ異動

恒春熱帶植物殖育場創設ノ際ヨリ小官引揚際マテ新陳交代シテ場務ニ盡瘁貢獻セル人員ハ實ニ多數多種類ニ亙リ其中拔群ノ功勞者亦尠カラス今此レヲ時代別ニシテ大體ヲ列叙スレハ左ノ如シ

第一期

豫察調査及區域選定時代

明治三十四年三月提出獻議案ノ採用サルルヤ同年十一月初旬若干ノ人員ヲ同伴シテ舊恒春廳下ニ出張シ各山野ヲ跋涉豫察シテ事業區域地ノ選定ニ從事ス且併テ同年東京ヨリ携帶セル諸外國產貴重苗木ノ假植地ヲ設ケ翌年本栽付ノ豫備護育ニ著手ス其地位ハ舊猪勝東國語傳習所校舍附屬地內ニ於テシ後チ猪勝東山中ノ一部分ニ苗床ヲ假設シテ其一半ヲ轉栽シ以テ四十五年度ノ新經費確定期ヲ俟テリ此間斯業ニ從事シタル人員左ノ如シ

臨時監督	技師	殖產局拓殖課員	田代安定
會計主任兼務	屬	恒春廳員	野村文次
植物栽培主任	囑託	殖產局員	吉野勘太郎
庶務會計常務	傭員	同	築地隆茂
植物栽培助手	同	同	秋廣助市
開墾測量業	同	同	鈴木末藏

明治三十五年度ハ即當場創設ノ初年ニシテ此年度中人事ノ異動中新ニ採用セル諸員ハ左ノ數名ト爲セリ

第二期

明治三十五年度以降

同	植物栽培助手	同	同	同	同	同	同	同	同
同	補助	同	同	同	同	同	同	同	同

右ノ中竪山武二ハ三十四年度末區域選定當時一時使用セシモ三十五年三月依願解傭シ更ニ同年十二月改テ採用セルモノナリ

本年度中解傭セル人員ハ左ノ諸員ト爲ス

同　豐島爲元
同　竪山武二

本年中解傭セル人員ハ左ノ諸員ト爲セリ

三十六年十二月歸府

傭員　鈴木末藏
同　別役駒之助
同　秋廣助市

右以外從前通リ異同ナシ

(三)三年度即明治三十七年度中人員ノ異同

本年ハ即當場設創設以來第三年ニシテ此年度中新ニ採用セルハ左ノ諸員ナリ

囑託　吉野勘太郎
傭員　豐島爲元
傭員　森　龜齡
同　有馬武二

本年中解職セルハ左ノ諸員ナリ

囑託　吉川田鶴次郎

民政部殖產局會計主任坂上次郎氏辭職ニ付其後任者トシテ

屬　石橋傳吉

更代シ以後今日ニ至ルマテ本局ニ於ケル當場ノ會計主務豫算配付及土木局營繕費ニ屬セサル場內諸建物修繕改築等ニ關スル事項ハ總テ同氏ノ主管ニ屬シ時々現場ニ出張シテ事實ヲ檢査シ坂上屬退官後ハ同氏專ラ其會計主査ノ任ニ當リテ盡力貢獻スル所ノ殊績勘カラスシテ深ク感謝ノ意ヲ表スヘキモノナリ

傭員　谷村愛五郎
同　森山二吉
同　崎山寬志

(四)四年度即明治三十八年度中人員ノ異動

本年ハ當場ノ第四年目ニシテ新ニ採用セルハ左ノ諸員ナリ

囑託　渡瀨隆
傭員　東恩納盛珍

又解職者ハ左ノ諸員ト爲セリ

囑託　渡瀨隆
同　築地隆茂
傭員　有馬武二
同　田中彥三郎

恒春廳長森尾茂助氏臺東廳長ニ轉任シ柳本殖産局技師其後ヲ襲フテ恒春廳長ト爲リ次テ當場主任ヲ兼任サルルコトト爲リ小官ハ從來ノ主任事務ヲ柳本氏ニ引繼キ而シテ日常ノ執務ハ從前ママニテ我カ任務ハ卽事實上ノ主幹ニ該當スルモノナリ

恒春廳長（熱帶植物殖育場主任兼務）　柳本通義

（五）五年度卽明治三十九年度中人員ノ異動

本年度中新ニ採用セルハ左ノ諸員ト爲ス

囑託　有川省吾
同　吉野勘太郎
雇員　本田幸助
倘　直彦

又本年中解職セルハ左ノ諸員ト爲ス

囑託　吉野勘太郎
傭員　樋屋國吉
同　東恩納盛珍

（六）六年度卽明治四十年度中人員ノ異動

本年中新ニ採用セルハ左ノ諸員ト爲ス

囑託　梁瀨三郎
崎原當富

本年中解職セルモノハ左ノ諸員ト爲ス

囑託　森龜齡
同　大宜見信一
雇員　本田幸助
傭員　倘直彦
崎原當富
喜友名安昱
河原友治
喜友名安昱
前田彌之吉
名村傳吉

第三期

明治四十一年以降

（七）七年度卽明治四十一年度中人員ノ異動

本年新ニ採用セル人員ハ左ノ諸人ト爲ス

囑託　稻村時衞
同　中村辰治
傭員　益川昇

本年度ニ於テハ解職轉任等他ニ異同ナシ

(八)八年度卽明治四十二年度中人員ノ異動

本年際中新ニ採用セル者ハ左ノ諸員ト爲ス

測量業臨時囑託　恒春廳技手　須藤孝二郎

又本年度中ニ解職セル者ハ左ノ諸員ト爲ス

囑託　樋口素雄

備員　竪山武二

同　山下兼善

(九)九年度卽明治四十三年度中人員ノ異動

本年度中新ニ採用セル者ハ左ノ諸員ト爲ス

會計主任　雇員　神谷重造

試驗係　囑託　小野三郎

雇員　佐藤鐵雄

同　稻尾賢司

又本年度中解職及轉任者ハ左ノ諸員ト爲ス

技師　田代安定　同　山下兼善

第二節　場員及當場關係諸員殊勳錄卽列傳

當場創設以來明治四十一年上半期マテニ採用セル場員中ニテ拔群ノ勞績殊勳アル者及場員外ノ人ニシテ特別ノ盡力ト貢獻ノ跡較著ナルモノニ對シ玆ニ若干名ヲ選擇シテ其勳勞ヲ旌表シ以テ當事者ノ考證ニ供フルコトト爲セリ其人名左ノ如シ

場員外諸人十二名勳績列傳

第一期

(一)前殖產局會計主任　總督府屬　坂上次郎

(二)當場會計前渡官吏兼務　恒春廳屬　野村文次

(三)前恒春廳長　森尾茂助

(四)前蚊蜂支廳長　吉田俊人

(五)前猪勝東國語傳習所長　藍原新次

(六)同次席教員　和田富士夫

(七)前恒春廳學務係　益滿幸吉

(八)前高士佛警察官吏派出所長　兒玉十七郎

(九)前恒春下十八社大股頭人　潘文杰
同後繼者　潘萬金
港口庄大地主　潘皆文

第二期(明治三十七年以降關係者)

(一)殖產局會計主任　石橋傳吉
(二)前恒春廳長　柳本通義
(三)同前　武藤針五郎

其一　坂上次郎

右坂上次郎氏ハ當時民政部拓殖課(即今ノ殖產局)會計主任ニシテ殖產行政創業多端ノ際非常ニ繁忙ノ身ヲ以テ當場創設ニ關スル決裁文書ノ起案豫算金額ニ關シ財務課トノ交涉其他此移植試驗費ナル經費ノ決定上多大ノ熱心ヲ注キ勇奮努力種々ノ紛議ヲ排シ衆論ト抗爭シ一方ニハ吾輩事業上ノ裏面眞相ニ亙リテ周密ナル檢查ヲ遂ケ殖產事務上ノ會計主任トシテノ義務責任ヲ十二分ニ盡シ當場經費ノ基礎ハ全ク同氏ニ賴リテ確定サレタルモノニ外ナラスシテ其貢獻ノ殊績ハ特筆大書シテ不朽ニ傳フヘキモノナリ此殖產事務ノ發展伸暢上ニ特獨ノ快手腕ヲ有スル一良吏ヲ中途ニ失ヒシハ實ニ惜ムヘキコトニシテ同氏ハ當場創立ノ翌年頃辭職シテ野ニ隱退スルニ至レリ

當時殖產局ニハ嘉義製紙試驗場桃園茶樹栽培試驗場安平鎭製茶試驗場等ノ如キ勸業費支出ノ官行事業所多數竝立シテ經費ノ分配掛酌等非常ニ紛錯多端ノ際ニシテ其間ニ立テ之ヲ過不及ナク豫算編成上ノ權衡ヲ保タシムルニハ多大ノ手腕ヲ要セシナリ坂上氏ハ此紛雜ナル生產的無生產的ヲ兼有セル官行事業ニ對スル會計監督整理上常ニ其程度ヲ誤ラサル樣創業ノ基礎ヲ整備スルニ勘カラサル殊績ヲ奏シタル一敏腕家トシテ吾輩ノ長ク記念ニ留ムヘキ人ナリ

其二　野村文次

野村文次氏領臺當時撫墾署員トシテ多年蕃地事務ニ從事シ會計事務ニ精通シ後チ恒春廳會計主任官吏トシテ放森尾廳長ノ部下ニ屬シ執務ニ明敏確實ナルノ故ヲ以テ當場創設ノ擧アルニ際シ特ニ人物精選ノ上恒春廳長ト再四交涉ノ結果會計前渡官吏分任官ノ事務ヲ囑託セルモノナリ同氏ハ翌三十五年創設後更ニ改テ永久的兼務員トス爲シ後チ明治四十三年其辭職ノ際ニ至ルマテ九年間繼續シテ當場會計主任ヲ兼職シ廳務極テ劇忙ノ身ヲ以テ場內ノ複雜ナル會計事務ヲ總管シテ會計常務員ノ指導訓育シ爲ニ多年月ノ間金錢出納上甚シキ過失ヲ生セサラシメシモノ深ク感謝スヘキモノアリ此他作業人夫使用上ノ監查節約法等ニ就テ平素場員ヲ訓戒シ勉テ浪費ヲ緊縮シ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルニ憔心刻苦シテ大ニ貢獻スル所ノ事跡多シ

又小屋掛修繕及各殊ノ土木工業ニ亙ル豫算ノ編成竝仕樣方法經費ノ制限程度等ニ關シテ常ニ會計事務ノ整理ニ重キヲ置キ場務ヲ戒飾シ此他間接ニ盡力セル勳績多大ニシテ當場ニ於ケル野村會計前渡官吏ハ當場ノ事歷中ニテ特筆大書スヘキ一大記念人員中ニ列スヘキモノナリ明治三十八年以降ハ更ニ恒春種畜場ノ會計前渡官吏ヲ兼務シ四十年以後ハ鼻庄墾丁寮同場官舍內ニ轉任シ恒春廳會計事務ハ他員ニ引續キ野村氏ハ種畜場會計專務ト爲リ殖育場兼務ハ元ノ如シ同氏ハ渡臺前ハ敎員職ニシテ天才縱橫多方面ノ普通敎育ニ長熟シ殊ニ寫眞術ニ於テハ其特獨ノ長技ニシテ當務樞要ノ記念寫眞ハ過半同氏ノ手ニ成ルモノニシテ卽殖育場事業報告中ノ寫眞版ハ其復寫ヲ採用セ

ルモノ多シ會計事務ニ多大ノ實驗ト勤勞ヲ積ミ來レハ忠直清廉ノ一貫更モ時勢變遷ノ結果決然其職ヲ抛チ去ルニ至レリ實ニ痛惜ノ至ニ堪ヘス事既已ニ此ニ至テハ只多年ノ勞功ト厚意ヲ深謝シ置クノ外他ニ術ノ施シ樣ナシ眞ニ斯業界ノ一大恨事ト謂ヘシ

其三　前恒春廳長森尾茂助

森尾茂助氏ハ舊恒春廳長ニシテ當場創設當時ヨリ明治三十八年臺東廳長ニ轉任際ニテ非常ノ厚意ヲ以テ場務ノ伸暢ニ盡力シ其熱列ナル天性ノ國家的思想ヲ萬般ノ殖產業界ニ瀉注シ當場ノ事歷ニ關シテハ永久忌ルヘカラサル多恩ノ人トシテ旌表スヘキモノアリ同氏ハ我カ明治維新前後ニ亙リ國事ニ盡粹セル福岡縣志士中ノ一ニシテ脊テ玄洋社ニ籍ヲ置キ頭山滿氏ト親善ノ事歷ヲ有シ脊テ鄕民ノ一部族ヲ率ヒテ福島縣下因幡沼開拓移住ニ成效ノ跡大ニ感佩スヘキモノアリ臺灣赴任ノ數年前メキシコ國移民事業地豫察ノ委員ニ選ハレ脊テ同國ヲ踏査シテ珈琲園其他熱帶植物栽培業ノ大意ニ通曉ス又擊劍家トシテ衆人ノ畏敬スル所ニシテ隆名世間ニ播ク爲人忠良愿直ニシテ倜儻不群剛邁ノ志氣鬱勃トシテ圖南ノ雄心常ニ其胸懷ヲ往來シ時々眉宇ノ間ニ現ハルルコトアリ故兒玉前總督夙ニ其偉器ヲ知リ一時廳長ニ簡拔シテ他日更ニ用ユル所アラント蓋シ竊ニ期スル所アリシナランモ世運多端ノ爲メ兒玉總督ハ中途ニシテ綬印ヲ抛チ更ニ重職ニ轉スルノ後不幸俄ニ隔世ノ人ト爲リ森尾廳長ハ二竪ニ侵サレテ退官後間モナク猶雄圖ヲ齎ラシツツ黃泉ノ客ト爲レリ同氏ハ宛タル古英雄ノ遺姿ヲ有シ風采藹然長者ノ風アルヲ以テ其牧民ノ任ニアルヤ土人生番人共ニ敬慕親愛シテ猶慈父ニ對スルカコトキモノアリ但タ惜ラクハ有名ナル酒泉大守ニシテ痛飮數斗高年ニ及ンテ尙改ムル所ナカリシヲ以テ兒番ニ對シテハ有德ノ一君子モ竟ニ二豎ノ爲ニ急劇ナル狙撃ヲ受ケ酒ノ祟リニテ悲ムヘキ縮命不幸ヲ招ケリ

其四　前蚊蜂支廳長吉田俊人

吉田俊人ハ福岡縣士ニシテ故森尾廳長ノ遠戚タリ當場創設際ハ蚊蜂支廳長トシテ間接ニ場務ノ發展ニ盡力シ小官等ノ意思ヲ了悟ニテ附近土人生番人等ニ訓諭ヲ加ヘ森尾廳長ノ眞意ヲ能ク遵守シテ猪勝束母樹園著手際ニ於テ殊ニ助力スル所多シ數年後臺東廳ニ轉任シタルヲ以テ記スヘキ事跡尠シ

其五　國語傳習所長兼教諭藍原新次

藍原新次氏ハ前猪勝束國語傳習所長ニシテ臺灣學校教員三先任者中ノ一人ナリ領臺當時前學務主任伊澤修二氏ノ部下ニ屬セル初期ノ教員六名楫取道明、桂金太郎、關口長太郎、平井數馬、井原順之助、中島長吉ハ明治二十九年一月元旦芝山岩假設校舍ニ於テ匪賊ニ襲ハレテ慘殺ノ禍ニ罹リ第二期ノ教員トシテ渡臺セル者三名即藍原新次、加藤六右衞門、本田茂吉ハ起任當時各此新領土ノ教鞭ヲ取ルノ目的其希望ニ任ストノコトニテ藍原氏ハ恒春蕃加藤氏ハ卑南蕃ノ教員ヲ引受ケ本田氏ハ生番人ヨリ更ニ學校教育ニ緣故遠キ土人女子ノ教育ヲ引受クルコトト成リ三人各方面ヲ別ツテ互ニ競爭的ニ孜々汲々年光ヲ積レル中ニ皆較著ナル成效ヲ奏シ藍原氏ノ擔當セル恒春蕃ハ猪勝束社管地內ニ國語傳習所ヲ置キ此處ニ寄留舍ヲ設ケ各社ノ蕃童集リテ其薰陶ヲ受ケ已既ニ數回ノ卒業生ヲ出シ結果極メテ良好ニシテ巡查補廳及警察署備員等ニ使用サル能ク日本文等ヲ解シ普通小學校卒業者ニ等シキ者アリ於是蕃童教育ノ效果著大ナレコトヲ證明シ得ラルルニ至レリ

藍原氏ハ教席ノ餘暇ヲ以テ當場ノ區域選定猪勝束母樹園ノ開墾其他創業ノ際ニ助力貢獻スル所多

シ ニ 大 同 氏 ハ 最 モ 生 語 ニ 熟 通 セ ル ヲ 以 テ 番 人 ト ノ 交 渉 事 項 等 ニ 就 テ 彼 等 ニ 對 シ 大 義 名 分 ノ 訓 諭 等 ト 爲 レ ソ ノ 便 宜 ヲ 與 ヘ ラ レ タ ル 事 項 多 シ 惜 哉 中 途 ニ シ テ 番 人 ノ 信 望 ヲ 失 ヒ 退 職 ス ル ノ 已 ヲ 得 サ ル 事 ト

其六　和田富士夫

和田氏ハ右番童學校ノ助教員任ヲ負フテ在勤スルノ傍ラ當場ノ創設ニ係リ隣接地ナルヲ以テ日々相往來シ常ニ番童並ヲ紫ヒ來テ盛力スル所多ク同氏ノ斡旋ニ成レル一條ノ道路開鑿ヲ始メ同氏ノ指揮ニ係ル一事業等ハ猪勝束母樹心得ノ淺クシテ同氏ハ鹿兒島縣人ニシテ恒ニ番童學務ノ改革ヲ企圖シ故森尾廳長ノ傳手ヲ以テ後任ニ轉職シ恒ニ番ノ地ヲ離ルルヤ當場創設ノ事項勘シト雖モ其ノ一人ナリシ同氏ノ前身恒ニ番童教育ノ經驗家トハ今日氏ヲ識ルノ諸員恐ラク豫想ノ外ナル念人員中ノ一人ナリシ同氏ノ厚意眞情ハ深ク感謝スヘキモノアリ當場創設ノ事業ニ盡力スルヤ所在地ハ猪勝束母樹心得ノ淺クシテ同氏ハ鹿兒島縣人ニシテ恒ニ番童學務ノ改革ヲ企圖シ故森尾廳長ノ傳手ヲ以テ後任ニ轉職シ恒ニ番ノ地ヲ離ルルヤ當場創設ノ事業ニ盡力スルヤ所在地ハ猪勝束母樹心得ノ

其七　故恒ニ番廳屬金滿幸吉

金滿氏ハ本籍上總中ニ記セシ如ク恒ニ番廳學務課員ニシテ同氏ハ舊語トヽ臺灣土語ニ熟通シ元トヨリ教員職ナルモ恒ニ番廳在勤中ハ當場ノ爲メ傍ラ生番關係等ノ事ニ從事シ同校舍ニ於テ病死セリ

其八　故恒ニ番廳警部兒玉十七郎

兒玉氏ハ當場創設前ヨリ恒ニ番廳下高士佛社牡丹社兼勤ノ番地駐在警部ニシテ能ク番語ニ熟通シ頗ル奇異ノ行爲アリ高士佛社ヲ去テ牡丹社山中ノ區域選定等ノ際盛力スル所ニシテ然レトモ極端ナル生番心酔家ニシテ能ク番語ニ熟通シ頗ル奇異ノ行爲アリ高士佛社ヲ去テ牡丹社山中ノ區域選定等ノ際盛力スル所ニシテ然レトモ極端ナル生番心酔家ニシテ能ク番語ニ熟通シ頗ル奇異ノ行爲アリ

其六　和田富士夫

和田氏ハ右番童學校ノ助教員任ヲ負フテ在勤スルノ傍ラ當場ノ創設ニ係リ隣接地ナルヲ以テ日々相往來シ常ニ番童並ヲ紫ヒ來テ盛力スル所多ク同氏ノ斡旋ニ成レル一條ノ道路開鑿ヲ始メ同氏ノ指揮ニ係ル一事業等ハ猪勝束母樹心得ノ淺クシテ同氏ハ鹿兒島縣人ニシテ恒ニ番童學務ノ改革ヲ企圖シ故森尾廳長ノ傳手ヲ以テ後任ニ轉職シ恒ニ番ノ地ヲ離ルルヤ當場創設ノ事業ニ盡力スルヤ所在地ハ猪勝束母樹心得ノ

其七　故恒ニ番廳屬金滿幸吉

金滿氏ハ本籍上總中ニ記セシ如ク恒ニ番廳學務課員ニシテ同氏ハ舊語トヽ臺灣土語ニ熟通シ元トヨリ教員職ナルモ恒ニ番廳在勤中ハ當場ノ爲メ傍ラ生番關係等ノ事ニ從事シ同校舍ニ於テ病死セリ

其八　故恒ニ番廳警部兒玉十七郎

兒玉氏ハ當場創設前ヨリ恒ニ番廳下高士佛社牡丹社兼勤ノ番地駐在警部ニシテ能ク番語ニ熟通シ頗ル奇異ノ行爲アリ高士佛社ヲ去テ牡丹社山中ノ區域選定等ノ際盛力スル所ニシテ然レトモ極端ナル生番心酔家ニシテ能ク番語ニ熟通シ頗ル奇異ノ行爲アリ

勤務ヲカラス而シテ明治三十五年五月高士佛母樹園創設ノ際ハ同氏既ニ高士佛社ヲ去テ牡丹社山中ノ蕃情無ニシテ何ソ一旦ノ感情ニ激シ恒ニ番ノ施設ヲ破壞スルノ擧ニ出ツヘキヤ然ルニ同氏ハ其後退職シテ全ク跡ヲ晦マシ再ヒ蕃境ニ入ルノ形跡ナク警察官トノ交渉モ相絶ヘ居レリ

其九　蕃丈杰外諸勝束番人ノ盡力事項

本篇上卷中ニ詳述セルカ如ク蕃丈杰ハ恒ニ番下十八庄ノ頭人ニシテ恒ニ番ノ對スル勢力絶大ニシテ名聲臺灣中ニ隆々タリ領臺當時我カ新政府ノ命ヲ奉シ夙ニ大義名分ヲ辨明シ恒ニ番ノ全體ヲ擧ケテ我ニ歸順勸誘ニ拮据盡力セシ功勞ハ實ニ大ナリ蕃丈杰ハ其後男蕃高金ニ次テ舊恒ニ番ノ長老ニシテ其ノ居レル八年ニ亙リ明治三十七八年ニ相續テ病死セシヲ以テ前後見ル所ノ頭人ノ中最モ生蕃ニ熟通シ人望ヲ有シ且ツ其ノ人格ハ温良慇懃ニシテ能ク蕃情ヲ洞察シ蕃人ノ信賴ヲ受ケ不幸慘殺ニ遭ヘリ尙ホ蕃丈杰ノ外諸勝束番人ノ盡力事項ニ就テハ本篇上卷第四章中ニ稽述シ置ケリ巴里衛方面ニ於テ蕃無ニシテ何人モ相會スルノ形跡ナク當場創設ノ際ハ同氏ノ生蕃ヨリ水田ニ轉任シ宏屋ヲ構ヘ蕃女ヲ娶リ以テ蕃地ニ永住ノ計ヲ爲シ居レリ

其十　番丁ノ訓導等

番丁ノ訓導等ハ恒ニ番ノ地ヲ離ルルヤ當場創設ノ事項勘シト雖モ其ノ一人ナリシ同氏ノ厚意眞情ハ深ク感謝スヘキモノアリ當場創設ノ事業ニ盡力スルヤ所在地ハ猪勝束母樹心得ノ淺クシテ同氏ハ鹿兒島縣人ニシテ恒ニ番ノ地ヲ離ルルヤ當場創設ノ事業ニ盡力スルヤ所在地ハ猪勝束母樹心得ノ

其十一　番丁ノ訓導等

番丁ノ訓導等ハ恒ニ番ノ地ヲ離ルルヤ當場創設ノ事項勘シト雖モ其ノ一人ナリシ同氏ノ厚意眞情ハ深ク感謝スヘキモノアリ當場創設ノ事業ニ盡力スルヤ所在地ハ猪勝束母樹心得ノ

其十　殖產局會計主任石橋傳吉

石橋傳吉氏ハ元ト臺南農事試驗場會計官吏タリシカ廢場ノ際殖產局ニ入リテ財務官吏ト爲リ坂上次郎氏退職後卽其後任ヲ襲ヒ當務以外極テ複雜多端ナル勸業金支出ノ各官行事務場會計監督ヲ負擔シ卽恒春熱帶植物殖育場モ其一部分ニシテ同場ノ事業モ年ヲ經ルニ隨テ膨大シ經費ノ支出モ漸次煩雜ト爲リ故橫山農務課長ノ委囑ニ屬スル外國產草試作業ニ附帶セル乾燥室ノ建設其他「タピヲカ」「アロウルート」等澱粉植物ノ試驗製造業「サイザル」「ヘンプ」採絲業等ニ關スル各殊ノ生產物收入ニ重キヲ置クノ方針ヲ執リ來リシ時代數年間繼續セシ際ノ如キハ年々屢次數回恒春現場ニ出張シテ場員ヲ監督シ會計事務ノ要項ヲ訓示シ其發見スル所ノ缺點ハ忌憚ナク之ヲ指摘シテ革正ヲ加ヘ經費使用上ノ細目等ニ就テ其取扱上ノ心得方法等ヲ戒飾シ常ニ會計事務ノ整理上ノ諮點ニ就テ講究參劃スル所ノ殊績多大ナリ

又本篇ノ端初ニモ述ヘシ如ク當場ハ創設以來明治四十年ニ至ルマテ六年間ハ土木局營繕費ヲ以テ支出セル建築物ナリ本官初場員一同人夫小屋ト同階級ノモノヲ以テ假宿舍ニ充テ事務室亦同狀ニシテ其窮苦不便實ニ名狀スヘカラサルモノアリ年々設計書ヲ調製シ正式家屋ノ建築ヲ請求スルモ繰延ヘ續キニテ急々運ハサリシモノヲ石橋屬其實狀ヲ再三當事者ニ具陳シ種々交涉ヲ重テ熱心ナル盡力ノ末港口生產物試驗室ヲ初トシクアル事務室官舍倉庫等年々引續キ土木局直轄工事ノ端緒開ケテ漸次竣工スルニ至レリ

其十一　前恒春廳長兼當場主任柳本通義

柳本通義氏ハ明治三十七年殖產局技師ヨリ恒春廳長ニ轉任シ森尾茂助氏ノ後ヲ襲ヒ續クコト凡ソ二年半ニシテ本官ハ其ト同時ニ主任ヲ免スル辭令ニ接セリ此以後當場ノ業務ハ從前ト寸差ナシ柳本新主任ハ時々來場シテ事務ヲ見ルコトト成レリ同四十年秋家事ノ都合ニ依リ退官シテ內地ニ歸還サル在官中ハ當場ト種育場主任トヲ併兼シ廳務以外ノ用務多端ニシテ臺北及內地出張ノ事多ク殊ニ恒春種畜場ハ同氏ノ創意ニ依リ新渡戶博士ノ贊意ヲ經テ明治三十八年四月建設サレタルモノニシテ後チ更ニ北海道ヨリ農學士長嶺林三郎氏同場主幹トシテ赴任シ柳本主任ハ猶殖產局技師ヲモ兼ネ其在任中ハ專ラ種畜場業務擴張ノ爲メ全力ヲ注キ區域擴充ハ數年間ヲ經テ解結ヲ告ケ當場ノ龜仔角事業豫定區域ノ一半ヲモ妥協ノ末是ニ分割編入シテ其總面積二百七十八萬三千七百六十二坪六合五勺即九百二十七町二、七六二坪强ニシテ約一千町歩ノ廣面積ト爲リ事務室官舍家畜舍倉庫等ノ建築費四萬九千八百六圓三五〇ニ上リ創業際是等各殊ノ總經費約七萬圓ニ及ヒ堂々タル大官行牧場恒春半島ノ墾丁寮及龜仔角山脚ニ現出スルニ至レリ是柳本技師ノ熱烈ナル主張ト盡力ノ結果ニシテ恒春種畜場ハ同氏ノ一大記念營造物ナリ

柳本主任ハ右種畜場ニ頻々巡視ノ度毎ニ當場クアル山新開墾地ニ來リ場長官舍倉庫其他建築物ノ位置選定等ニ熱心ヲ注キ協定ニ盡力スル所多シ又「サイザルヘンプ」等纖維植物ノ利用法等ニ最モ意ヲ注キ明治二十八年同氏內地出張ノ際サイザル絲龍舌草絲「マウリチウスヘンプ」絲及「アロウルート」「キヤツサバ」等ノ澱粉各若干斤ツヽノ標品ヲ附託シ大坂及神戶商法會議所等ニ於テ價格見積等ノ品評ヲ受ク

又明治四十年總督府豫算會議ニ於テ澎湖島案ハ否決シサイザル苗圃新設案出ツ澎湖島案ハ通過シテ小官其地所選定ノ委任ヲ受ケ初

メ臺南市街附近ニ新設スルノ豫定ニテ百方捜索且交渉ヲ經ルモ糖業奬勵ノ央ハノ爲メ遂ニ目的ヲ達セスシテ已ヲ得ス現時ノ阿緱廳下武洛庄纖維植物奬勵苗圃ノ位置ト定リシモノナリ

柳本主任ハ當場事業ノ發展上ニ就テ種々熱心ヲ注キ貢獻サルル所ノ遺績尠カラス高士佛「キナ」樹栽培等尤モ其重キヲ置テ之カ護育上ニ注意シテ場員ニ督勵ヲ加ヘツツアリ同氏在任中ハ同木ノ發育モ旺盛ニシテ四十年其退官後ハ樋口屬託滿腔ノ熱心ヲ注キ尚夥多ノ苗木ヲ育成シテ本植ニ取掛ラントスルニ際シ四十二年十月突然樋口氏ハ廢官ノ命ニ接シテ内地ニ歸還シ「キナ」樹ハ其後間モナク全部消絶シテ恰モ舊主人ト共ニ運命ヲ共ニスルニ至リシハ實ニ遺憾無限ノ至ナリ

柳本主任在職中當場區域港口事業地ノ東海岸「リノクツ」及過港仔ノ土地問題ニ付生蕃地ト紛擾起リ小官ハ他ノ場員ト共ニ儼乎トシテ官權ノ維持ヲ主張シ此際ハ單ニ恒春廳長ニ對スル小官等ノ立場トシテ奮闘的交渉ヲ重ネ一時大ニ柳本廳長ノ心慮ヲ煩ハセシコトアリ其問題ノ要點ハ此當場區域著手地ノ一部分ヲテラソ生蕃人ヨリ返還ヲ要求スルニアリ先方ノ主張ハ何日間ニ此植付品ヲ取除キ新ニ開墾セル道路ヲ取除クニアラサレハ自分ノ手ニテ之ヲ破壞取毀タント言フニアリ此交渉央ハ彼等ハ此新路ヲ破壞シ且栽付品ヲ堀拔キ初タリ依テ一日恒春廳ニ多數ノ生蕃人ヲ招集シ亦當場員總掛ニテ之カ對決會ヲ開タ小官前說ヲ極力主張シテ遂ニ同地所ハ全部永久殖育場ニ於テ使用スル旨ヲ彼等ニ宣誓セシメ其代リニテラソ生蕃人及アミ蕃人ハ牡丹灣其他ノ開墾豫定地中指定ニ從テ專心開墾スヘシトノ條款ノ下ニ之カ解結ヲ付ケ同時ニ生蕃ノ悔悟心ヲ惹起シ彼等ノ集合モ四散シ便チ雨降テ地固マルノ結果ト成リシモ此數年間ニ亙リタル紛議ノ結了スルマテハ廳長ノ心意ヲ煩ハシタルコト尠少ナラスシテ此一段ハ實ニ小生頑愚ノ罪ニシテ玆ニ深ク前罪ヲ謝述シ置カサルヲ得サルモノアリ

其十二　前恒春廳長武藤針五郎

明治四十年柳本廳長退官後其後任者トシテ松崎氏千葉縣ヨリ赴任際本官ハ上京中ニテ同氏ト同船シテ恒春ニ歸著セリ然ルニ同氏ハ著任早々突然重患ニ罹リ臥褥僅ニ月餘ニシテ療養叶ハス不幸ニシテ不歸ノ客ト爲レリ於是後任者暫ク絕ヘ居シカ阿緱廳總務課長武藤針五郎氏恒春廳長ニ榮轉シテ赴任セリ當場ハ四十年豫算會議ノ結果四十一年度初期ヨリ鷄仔角熱帶有用植物園ノ著手期ニ入リ墾丁養種畜場トノ交通線路開修等ニ關シ種々同廳長ノ意見ニ照ラシ交渉ヲ經ルコト多シ武藤廳長ノ當場ニ於ケル事績ハ故森尾廳長ノ意向外偶然一致スル點多クシテ其一種異彩ヲ放ツ長點ハ法學出身ノ恒春廳長トシテハ同氏ヲ以テ初回ト爲ス所ナレハ其諸事ノ解釋凡テ法理上ヨリ割出サレ行クモノ多キヲ以テ論理峡然トシテ順序立チ事ノ判決整然トシテ粗雜ナラス情ニ制セラルルコト尠キヲ以テ小官等ノ交涉モ看々進捗シ事件ノ澁滯スルモノナキニ至レリ

臺北本局ト當場ト土地ノ遠隔ナルト具體的ニ業務視察ヲ遂クルノ機會稀ナルヲ以テ常ニ意思ノ疏通ヲ缺キ往々事實ノ誤解ヲ惹起ス事尠カラスシテ是カ爲ニ業務ノ進行上大ニ困苦ヲ感スルコト絕間ナカリシナリ武藤廳長ハ此點ニ就テ其弊患ヲ深ク憂慮看破シテ當事者ニ助言スル所多シ其等感動力ノ結果トシテ前官尾殖產局長ノ來恒當場及種畜場實地調查的視察ノ擧アルニ至レリ

第九號圖

明治四十二年末現在場員及家族

後列左ヨリ一番ヘ梁瀨三郎ニヘ名村傳吉妻三ヘ梁瀨妻四ヘ津田德藏五ヘ昇益川六ヘ神谷重造七ヘ森氏八ヘ河原友治九ヘ稻村專藏十ヘ前田彌之吉中列中ヘ田代安定二ヘ同比阿黃同妻故關子三ヘ稻村氏妻君前列右ヨリ一ヘ故名村傳吉二ヘ上人小使三ヘ同

第十號圖

明治四十四年田代引揚ノ際現在場員前列右ヨリ一ヘ申島信政二ヘ田代安定三ヘ津田德藏四ヘ神谷重造者ヘ土人小使シントン後列右ヨリ一ヘ森儀美二ヘ山田金治三ヘ不明四ヘ倉富勇五ヘ土人

第三節　場員ノ部

場員中特殊勤勞者二十八名列傳

第一期

(一)庶務會計兼猪勝束事業地主任　築地隆茂
(二)高士佛事業地主任　樋口素雄
(三)植物栽培業專務　吉野勘太郎
(四)作業監督及龜仔角事業地前主任　谷村愛五郎
(五)測量主任　堀虎輔
(六)測量助手兼土木業　鈴木末藏
(七)植物栽培助手　秋廣助市
(八)植物栽培業專務　谷川貢
(九)農藝植物試作業　森山二吉
(一)植物栽培業專務　竪山武二
(二)植物栽培業專務　津田德藏
(三)同助手　豊島爲元

第二期

(三)生產物試驗製造及熱帶植物栽培監督　有川省吾

(一)築地隆茂

第一期採用諸員

森河前名昇衆　尚崎楠有田本大吉森
原田村溜　山屋鳥中多宜川
森彌金三　疂寛國武三郎幸信田鶴龜
儀友之傳　疂志吉二郎助一齡

(一)築地隆茂

第一期採用諸員

(云)(云)(云)(云)(云)(云)文書會計係員
氣象觀測事務及作業監督
開墾土木業事務
植物栽培及開墾土木業
熱帶植物栽培及試驗業
文書會計事務

(三)(三)(三)(元)(六)(七)(六)(五)(四)
第三期(自明治四十年下半期至四十一年上半期)
植物栽培業
生産物試驗製造助手
開墾及土木業
製圖補助及作業監督
文書會計事務
文書會計事務
測量
植物栽培業
生産物試驗製造助手
開墾及土木業
製圖補助及作業監督
文書會計事務
文書會計事務
測量
植物栽培業
生産物試驗製造助手
開墾及土木業
製圖補助及作業監督
文書會計事務
文書會計事務
測量

岩窟ニ起臥シ或ハ生蕃人ト共ニ深山中ニ數日ヲ經ツヽ各殊ノ危險辛酸ヲ經テ事業區域各所ニ所多ノ山野ヲ跋渉シテ明治三十四年十一月恒春著後日々同氏ヲ伴フテ際ナクシハ適當ノ人街庄長保正甲長等ニ對スルテ由ツテ創起サレタルモノ多シ又高士佛母樹園ノ創開ニ監督シ各區域ノ創設ノ基礎ハ同氏ノ助力參照シテ其異相ヲ詳ニシ其他雜木林ノ開墾ニ從事シ同氏ヲ伴行シテ其職務ヲ盡シ生蕃撫御及荒蕩拓殖ノ事務ニ熟通シ能ク蕃情ニ通ジ蕃語ニ熟達シ且ツ蕃人ノ風俗習慣ニ精シク蕃人ノ性質ヲ知悉シ蕃人ヲ愛撫シ蕃人ヲ信用シ蕃人ヲ指揮シ蕃人ヲ使役スルノ方法ヲ講ジ蕃人ヲ統率スルノ術ヲ得タリ故ニ蕃人ハ氏ヲ稱シテ頭目ト呼ビ氏ヲ尊ンテ老爺ト稱シ氏ノ一言ハ蕃人ニ取リテ絶對ノ命令ノ如ク氏ノ意向ハ蕃人ニ取リテ神意ノ如シ氏ノ蕃人ニ於ケル勢力ノ偉大ナル實ニ驚クノ外ナシ

氏ハ本籍上恋ノ籍ヲ撰任シ道路開鑿工事ヲ竣成スルノ後西郷臨長ニ轉任シ交渉事務ヲ經理シ次郎氏ノ部下ニアリテ蕃地隆茂氏ハ本籍ヲ撰任シ道路開鑿ニ際シ蕃地ニ於ケル實務ニ練達シ蕃人ノ信用ヲ得タリ故ニ氏ノ使役ヲ受ケ恒春

ルモノニシテ尓中龜仔角山一帶ノ地ヲ區域ニ編入スルニハ當初多大ノ勞苦ヲ嘗メ之カ解結ニ意匠ヲ費セルモノナリ卽本篇上卷ノ第八章、九章其他各章中ニ散錄セル如ク現時ノ恒春林業試驗支場事務室所在地龜仔角西母樹園熱帶植物標本區等ハ築地氏探檢踏査ノ末檢出著手セル場所ナリ

(二)故樋口素雄

樋口素雄氏ハ熊本縣士ニシテ領臺後嘗テ民營樟腦業ニ從事シ其前ハ熊本大林區署屬託員トシテ造林苗圃等ニ從事シ斯道ニ多大ノ經驗ヲ積メル人ナリ當場創設ノ際柳本殖産局技師ノ紹介ニ依リ面會ノ上高士佛業務主任トシテ採用センコトヲ契約シ三十五年四月附ヲ以テ場員ニ採用シ同年五月中任地ニ赴キ四十二年一月マテ八箇年間在勤シテ職務ニ獻身的熱誠ヲ注キ舊恒春廳管內ニテ遠ク土人部落ヲ隔離セル中央山脈ノ南端ニ亙坐セル生蕃地ノ內奧都高士佛社ニ屬スル深山中ニ在勤シ此處ハ古來兇蕃ヲ以テ有名ナル牡丹社加芝來社八瑤社等ヲ以テ周繞セラレタル危險地中ノ一部分ナリシモ恒春廳置以來同社內ニハ警官駐在所、蕃童學校等アリテ中素ハ平穩ナリ而シテ當場ハ右高士佛本社內駐在所及學校ヲ距ル半里以上ヲ隔離セル一區ノ林野間ニ母樹園及假宿舍ヲ建設シ全ク此無人不毛ノ鄉ニ樋口氏ハ八年間單身孤住シテ始終至誠一貫當場ノ爲メ多大ノ報效心ヲ發揮シテ貢獻セル遺績實ニ尠少ナラサルモノアリ一方ニハ蒙昧無智ノ生蕃人ヲ綏撫啓發シ各蕃人ノ意向ヲ一定シ一方ニハ恒春管內各土人ヲ常傭人夫ニ使役シテ場內ニ寄宿セシメテ蕃人トノ妥協ヲ講シ意思ノ衝突ヲ避ケシメ或ハ土人生蕃混成人夫ヲ用ヒテ林道ヲ開キ荊棘ヲ刈拂ヒ玆々汲々晝夜業務ニ鞅掌シ瘴癘ヲ冒シ疾ヲ忍ヒ無人不毛ノ地ヲ化シテ堂々タル一大官園ト爲シ來觀者ヲシテ宛然公園ニ遊フノ快感ヲ與フルニ至リシ殊勳ノ跡ハ本篇上卷第十八章中ニ詳述スト雖モ茲ニ重復ヲ憚ラス向此較著ナル功績ヲ更ニ旌表シ置カント欲ス

樋口氏ハ熊本縣士ニシテ元ト優倘ナル家庭ニ育チ其幼時恰モ西南戰爭ニ當リ其幹部ニテ有名ナル邊見十郎太ノ傳令使ト爲リテ戰役ニ從事シ西鄉一派ノ薰陶ヲ受ケ心膽練磨ノ點尋常人ト異ナル所アルヲ以テ斯ル蕃地事業ニハ尤モ適當ナリシ所以ナリ後チ多年皇室警察ノ職ニ居リ今帝陛下ノ御幼年時其傍側ニ奉侍セル經歷等ヲ有シ人格上大ニ欽慕スヘキ點多シ凡テノ植物栽培上ニハ種々老練ナル實驗ヲ積リ殊ニ造林苗圃ノ作業ニ熟長ス又舊來臺灣ニテハ何人ノ手ニ由ルモ始終失敗ニ終ル所ノ「キナ」樹播栽ノ如キモ同氏ニ一任シタル分ハ完良ノ成績ヲ現示セリ又多年內地大林區署ノ經驗アルカユヘニ杉扁柏ノ造林育苗法ハ本人ノ特長技ニシテ卽其植栽ニ係ル同木ハ高士佛事業地內ノ主眼品ニシテ實ニ優良ナル發育ヲ遂ケ臺灣ノ南端ニ該木造林ノ適當セル證徵ヲ現示セルモノナリ同氏ハ當場ノ爲ニ多年間他ノ機心ヲ抛チ一意專心當職ニ身ヲ殉スルノ報效的精神羣固ニシテ其配下ノ土人夫等モ怡然共ニ其天ヲ樂ミ之ヲ視ルコト猶慈父ノコトク又氏カ場內ノ植栽品ヲ愛護スル猶自家ノ愛兒ヲ育スルノ人ナリシニ明治四十二年十月突然本局ヨリ廢官ノ命達ニ接シ氏ノ忠勤ト爲人ヲ知ルノ諸員驚愕惜惋一方ナラス猶行賞旌表ニ邁アラスシテ却テ老朽職ニ堪ヘサルノ冗員淘汰ニ列スルハ當場前途ノ爲メ無限ノ遺憾ニシテ同氏ノ退官ト共ニ「キナ」樹ノ如キハ自然廢絕ニ歸シ高士佛業地ハ一大頓挫ヲ來セリ而シテ氏ハ退官ノ翌年鄉里熊本ニ於テ俄然急病ニ罹リテ隔世セリ樋口氏ト事業トノ關係ハ上卷中各所ニ記述シアルモ更ニ此處ニ其遺績ヲ綴錄シ以テ諸賢ノ參閱ニ供スルコト如斯

(三)吉野勘太郎

吉野勘太郎ハ東京歴代花戸中ノ臺斗内山家ノ一族ニシテ曾テ前農商務次官前田正名氏其前洋行ノ際佛都巴里ニ隨行シテ種苗大會社長ヴイルモライン、アンドリョー」氏ニ就テ多年間佛國式園藝術ヲ實習シ來リテ駒場農科大學園藝農業實習教師トシテ有名ナル内山平八ノ實弟ニシテ勘太郎本人モ家兄平八ノ後ヲ襲フテ其職ニ從事シ後チ宮内省新宿御苑長福羽逸人氏ノ部下ニ屬シ御苑ニ於テ約七年間(我カ記憶ノママ)外國貴重植物ノ栽培ニ從事シ親シク福羽技師ノ薫陶ヲ受ケ其妙技奥義ヲ習得セルモノニシテ先天的花戸ナルカ上ニ此實習ニ多年ノ經驗ヲ積レルモノユヘ尋常植木職トハ大ニ其技能眞價ノ階段超越セル點アリ本人ハ明治三十四年六月福羽御苑長承諾濟ノ上當拓殖課臺北苗圃植物栽培主任者トシテ屬託員ニ採用セルモノニシテ赴任以來苗圃ノ外國植物育養法ノ面目一新シ舊來育チ能ハサル所ノ「キナ」樹ノ如キモ同人ノ手ニ由リテ俄ニ壯盛ナル發育ヲ遂ケ得ルニ至レリ該「キナ」樹ハ昨年印度孟買領事館ニ依頼シテ購入セル種子ノ一半ヲ殘シ置ケルモノニシテ其播種養苗法共ニ同人カ擔當スルニ至リテ初テ眞好成績ヲ遂ケ猶歐洲温室内ニ於テ生育セルモノト同形觀ヲ現シ即「シンコナ、サクシルブラ、ハイブリッド」(赤幾那改良種)ハ全苗巨大優美ノ美葉ヲ開展シテ翌年ハ幹長二尺以上ニ達シ蕃育室内ノ一偉觀ヲ呈スルニ至レリ又東京小石川植物園及御苑温室ヨリ予カ携帶スル所ノ印度ゴム樹苗二本及クロトン木等ハ短月日中ニ繁殖シテ數百千本ト成リ全島中ニ播布スルニ至レリ

今次恒春熱帶植物園創設ニ際シ大ニ本人ノ技能ヲ採用スヘキ時機到來セルヲ以テ即本人ヲ同伴シテ各殊貴重植物ノ育養ニ其全能力ヲ實地ニ發揮セシムルコトト爲セリ乃チ當年予カ東京ヨリ携帶セル所ノ椰子科植物其他數十種類ノ窖養盆栽植物ヲ恒春ニ移シ地栽ト爲テ同人ノ手ニ由リ施肥育

養セルモノ忽チ繁殖シテ皆當場母株中ノ根基品ニ化成スルニ至レリ

翌三十五年二月小官臺北歸府ノ際吉野モ一應恒春ヲ引揚ケ元ノ如ク臺北苗圃ノ植物栽培ヲ擔任セシムルコトト爲セリ右恒春出張中三箇月間各殊母株目的用植物ノ育養及繁殖法ニ異常ノ手腕ヲ振ヒ短日間ニ其助手諸員ヲ指導訓育セル殊勳大ニ嘉尚スヘキモノアリ

明治三十六年七月再ヒ殖産局苗圃ヨリ兼務在勤員トシテ著任シ同年十二月マテ滯留シテ專ラ外國植物栽培方法ニ就テ場員諸後進者ニ指導訓育ヲ加ヘ其薫陶ヲ受テ技術上ノ新智識著シク發達ヲ來シ多大ノ實用ニ適スル樣ニ爲リシ者多シ即竪山武二常ニ其傍側ニアリテ親シク薫陶ヲ受ケ津田德藏谷村愛五郎豊島爲元等亦然リ港口母樹園新苗圃ノ改造及播種法育苗法等ニ就テ教益ヲ授クル點多シ

三十九年四月殖産局苗圃ヨリ改テ當場ニ轉任シ來リ今回ハ專ラ龜仔角東母樹園ノ事業ニ全力ヲ注キ「サイザルヘンプ」標本園ノ新設、印度護謨樹園、チーキ試植林等ノ栽付ヲ同人ニ一任シ其傍ラ新苗圃ノ改造及挿木造苗ノコトニ非常ナル熱心ヲ加ヘテ努力シ苟モ熱帶植物殖育ノ目的ヲ伸暢セント欲セハ豫メ速成的造苗法ヲ行ヒ苗木貧弱ノ憂ナキ樣之カ材料ヲ整ヘスンハアルヘカラスト其熱裂ナル盡力ニ依リ出來タル苗木ハ即

印度紫檀	千本以上	ボインシアナ、レギア	挿木苗數百本
圓葉紫檀ノ挿木苗	數百本	佛桑花同	數千本
ダルベルギア、シッソ同	千本以上	ビルマチム同	數百本
印度ゴム樹ノ壓條苗	數百本	カスシア、フロリダ	數百本

サイザルヘンプ側芽苗　數百本
變葉木ノ挿木苗　數千本

金龜樹　數百本

右苗木ハ其後壯盛ナル發育ヲ遂ケ明治四十三年頃マテ使用シテ尙夥多ノ剩餘苗アリシナリ實ニ著シキ貢獻ト謂ヘシ惜哉同年六月中殖產局ノ所置ニ甚シク憤激シテ柳本主任ト力ヲ併セ百方慰諭訓告スルモ改マラス依テ已ヲ得ス東京新宿御苑長福羽技師ニ其旨ヲ通シ遂ニ其辭職ヲ聞屆テ同月臺灣ヲ去レリ同人ハ植物栽培業ニ於テハ殆ント其三昧ニ悟入シ且手腕敏捷ニシテ毫モ自ラ勞働ヲ避ケス膂力旺盛ニシテ造林業タリ開墾タリ又園藝上ノ細技ニ至テハ最モ其本領トスル所ニシテ微妙ノ特技ヲ有シ實ニ多々益辨ス的ノ人ナリト雖資性淡泊剛勁ニシテ卞急憤激シ易ク卽悍馬ノ性ニシテ之ヲ御スルニ其法ヲ得サレハ忽チ癇癪ヲ起シ豪飮放逸制シ難キニ至ルコトアリ

(四)谷村愛五郎

故谷村愛五郎ハ恒春ニ熱帶植物殖育場ノ創設アル旨ヲ傳聞シテ鄕里ヨリ出テ來レル天性ノ篤志者ニシテ鹿兒島縣下大島郡名瀨港金久村ノ人ナリ維新際小松帶刀大久保甲東諸氏ト同僚ノ友ニシテ島津齋彬公ノ侍臣中ニテ有名ナル故谷村小吉ノ親戚ニシテ卽其同姓ヲ冒セルモノナリ同人ハ敢テ專門學術ノ素養アル者ニハアラスト雖モ天資敦淳忠直ノ士ニシテ國事ニ志篤ク聊カ助力ノ微志ヲ抱テ遠來セシモノユヘ創業多難ノ際ハ亦此種ノ人物モ必要ナルヲ以テ卽コレヲ場員採用シテ專ラ開墾業ノ作業監督ヲ附託セリ

谷村氏ハ三十五六年間ハ專ラ港口母樹園ノ開墾業ニ全力ヲ注キ殊ニテラソ及港口茶園ノ開設ヲ擔當シテラソ茶園ハ三十五年十一月ニ播種セルモノニ反ニシテ三十六年ニ及ンテ完成シ三反ト爲セリ內二反ハ港口庄在來ノ土人茶園ヨリ種子ヲ購入シテ播栽セリ

港口茶園ハ三十六年十二月ヨリ播栽ニ著手セルモノニシテ翌春ニ亙リテ五反ヲ仕上ケ其位置ハ十二線區內舊土人茶園ノ北部ニアリ高丘腹ヲ昨年來開墾シ種子ノ成熟ヲ待テ直ニ栽付タルモノナリ此作業ハ最初ヨリ一切谷村氏擔當シ桶屋園吉ヲシテ其補助員ニ充ッ

龜仔角母樹園ノ創開ニ際シ三十六年十二月同東母樹園東北端新字金剛山ノ一部分ニ九尺二間ノ假小屋ヲ新設シ三十七年一月ヨリ谷村愛五郎ヲ業務主任ト爲シ土人夫二三名ヲ附隨セシメテ此處ニ宿泊セシメ開墾植栽ニ從事ス其詳細ハ本篇上卷第九章中ニ縷述スルカ如ク其以前ハ人跡未タ嘗テ入ラサル深林密莽アリ蔓竹繁衍シ菅茫密生シテ白晝猶勦然トシテ咫尺ヲ辨セサル土地モアリ此邊ハ元ト生蕃人ノ獵場ト浮浪土民ノ燒炭地跡ニシテ其荒廢悽慘ノ狀實ニ他ニ類ナキ所ナリシナリ谷村氏ハ非常ニ熱烈ナル奮勵ト耐忍トヲ以テ此難業ニ克チ浪民ヲ訓化シテ各正業ニ就カシメ作業人夫ニ充テ或ハクアル蕃アミ蕃人等ヲ使用シテ道路ヲ開キ井ヲ鑿チ僅々三四箇月ヲ出テスシテ忽チ整然タル園地ト爲リ苗圃ヲ開キ茶園ヲ設ケ其他各殊ノ熱帶植物ヲ移植シ三十七年度ニ入ルヲ俟テ舊來ノ假小屋ニ修繕ヲ加ヘ更ニ建增シヲ爲テ假監督室ニ充テ著々事業進行ノ央ハ急ニ家事ノ用生シ辭任シテ鄕里鹿兒島縣下大島郡ニ歸去スルコトト爲リシハ頗ル遺憾ナリシナリ

同氏ハ明治四十二年ニ至リテ再ヒ渡臺シ當場事業ニ全力ヲ注クノ素意ナリシモ此時ハ旣ニ當場ノ業務ハ稻村中村ノ兩囑託ノ監督時期ニ移リ本官ハ直接ノ關係ヲ離レ居ルノ事情アル際ナルヲ以テ同氏ヲ再用スル能ハス次テ四十三年同場引揚ノ際臺北ニ同行シ後臺南製糖會社員ト爲リ嚮吧哖工

場内ニ於テ時疫ニ罹リ隔世ノ人ト爲リシハ眞ニ惜悼ニ堪ヘサル所ナリ

(五)堀　虎輔

堀虎輔氏ハ當場測量專務員トシテ明治三十五年二月殖產局鑛務課員某ノ紹介ヲ經テ採用スル所ニシテ任赴後專ラ區域選定測量及其製圖ヲ專任シ猪勝東港口ヨリ初メ高士佛ニ移リ同所ハ未タ行政區域ニ編入セサル全クノ生蕃地ナルヲ以テ非常ニ困苦ヲ極メタリ其事情ノ一トシテハ測量旗ヲ各所ニ建テ置ケハ人ノ知ラサル間ニ取除キアリ標杭モ皆引拔キアリ彼等ヲ叱責スレハ家宅近傍ニ旗カ立ツト惡病流行ス故ニ全部撤回ヲ乞フト此事ハ上卷中ニ詳記シ置ケルヲ以テ省略ス此他開闢以來斧斤未タ嘗テ入ラサル原生林多クシテ展望ヲ定ムルニ甚タ困難ナル等ノ諸點ニアリシナリ此困難ニ打克テ完整ナル高佛士區域圖落成セリ

又クアル山區域選定ノ際ハ鈴木末藏ヲ以テ助手ニ充テ當時其地理民情ニ熟通セル築地隆茂、谷村愛五郎ノ兩人ヲ以テ嚮導諮詢員ト爲シ多大ノ困難ヲ經テ斯業ヲ竣功スルヲ得タリクアル山ハ即クアル蕃ノ割據セル深林地ニシテ此中ニ多數ノ清國人及臺灣ノ浮浪民等潛住シテ或ハ無鑑札の燒炭業者夥多ニシテ林木ヲ濫伐シ頗ル暴狀ヲ極メツツアリ若シ此ママ尙年數ヲ經過スルトキハ害跡抵止スル所ナキヲ以テ全部之ヲ當場保護區域ニ編入シ先ツ用材ノ盜伐ヲ防禦シテ而後方策ヲ講セント欲シ是カ爲ニ堀氏ノ測量業ニモ非常ノ勞苦ヲ重ネタルモノナリ是等大ニ感謝スヘキノ點多シ

(六)鈴木末藏

當場區域選定ノ初期ハ恒春廳員ニ見取測量ヲ委託シ此鈴木ヲ助手ニ充テ居タルコトモアリシカ其結了後ハ港口猪勝東ノ開墾及道路開鑿等凡テ土木業ヲ擔當セシナリ然レトモ至テ短期間ニシテ三十五年十月解傭セリ

(七)秋廣助市

秋廣ハ元ト內地人夫トシテ採用セル植物栽培補助員ニ充テリ一般ノ農事ニ熟通シ開墾業ト苗圃業ニハ多少ノ經驗アルヲ以テ能ク實用ニ適シ人物愿直忠亢ニシテ諸植物ノ護育ニ注意ヲ加ヘ過失寡シ又本人ノ最モ意ヲ盡シテ開墾ヲ仕上ケタル部分ハ猪勝東溪岸ニ接近セル一區タヒヲカ、アロウルト、亞麻、藜草、草棉等ノ試作園ナリシカ惜哉其後年々數回ノ風水害ニテ土壤崩壞シ今ハ川床ニ化シ形跡ヲ留メサルニ至レリ其面積約五六反ナリ又鳳梨園、ヲレンジ園等モ過半崩壞セリ

同人ハ元ト臺北殖產局苗圃ニアリシカ三十四年十一月吉野勘太郎ノ助手トシテ恒春ニ同行シ三十五年十月家事用ニテ鄕里鹿兒島ニ歸リ現今尙同市上園町舊武大明神路側ニ一戶ヲ構ヘ農業ニ從事中ナリ

(八)谷川　貢

谷川貢ハ元ト兒玉總督官邸附植木職ニシテ總督府財務局ノ支配ニ屬シ傍ラ臺北市街ノ竝木及諸官廳庭園ノ樹植業ニ從事シ予カ恒春行前ハ常ニ財務局ヨリ委託サレテ同人ヲ引率シ右植樹業ノ指揮監督ヲ擔當シ居タリ而ルニ予カ恒春行以後同地行ノコトヲ懇請シテ止マスコレヲ財務局員ニ商量スルニ當人ノ希望ヲ容レ貴下ノ部下ニ屬スル方然ルヘシトノコトニ付明治三十五年二月歸府ノ際便チ同行シテ助員ニ充テ同所ノ植樹業ニ使用ス同人ハ內地在時ヨリ舊來ノ植木職ニシテ渡臺後ハ長ク故兒玉總督ノ傍側ニアリテ植物栽培ニ從事シ且予等ノ薰陶ヲ受ケ斯道ニ能ク習熟シ實用的人

物トシテ能ク場業ニ熱心勉力セリ

三十五年十月前蕃薯寮廳長石橋亨氏ヨリ再三ノ要求ニ依リ遂ニ承諾シテ同月中急ニ同所ニ轉任セシメタリ爾後大颶風ノ際偶同廳苗圃往復ノ際溪水ニ溺レ不幸短命ニシテ遂ニ不歸ノ客ト爲レリ實ニ哀傷惜惋ニ堪サルナリ

(九)森山二吉

森山二吉ハ鹿兒島縣鹿屋縣立農學校卒業者ニシテ明治三十五年八月臺北歸府中突然訪來予カ恒春熱帶植物殖育場創設ノ擧アルヲ內地ニテ聞及ヒ部下ニ屬シテ熱帶農業ニ從事センコトヲ懇請シテ止マス依テコレヲ農事試驗場ニ量リ同所ニ於テ其目的遂行可然コトヲ懇諭スルモ頑乎トシテ可カス予其篤志ヲ奇トシ亦一ハ此種ノ學校出身者ヲ場員中ニ加ヘ置クノ必要ヲ認メ遂ニ其意ヲ納テ恒春ニ同行スルコトト爲セリ

同人ニハ外國煙草及草棉試作業等ヲ擔當セシメ其他熱帶農蠶ニ從事シ勤勉ノ功ヲ奏スル所多シ三十七年七月辭任シテ歸郷ス

(十)竪山武二

竪山武二ハ明治三十一年予カ臺北南門街丙號官舍ニ在ル際ヨリ植物栽培業ヲ訓育シ三十四年十一月恒春ニ吉野勘太郎等ト同行シ翌三十五年一月吉野等ト亦伴ヒ歸リ一時吾カ手許ヲ離テ基隆暖々街水源地造林事務所ニアリ慈光寺延仲ニ附屬シ杉造林ニ從事ス

三十六年十二月同所ヲ辭去シテ再ヒ恒春ニ來ル當場員ニ採用シ爾後引續キ四十二年十月ニ至ルマテ勤續シテ多大ノ勞勳ヲ奏セシ一人ナリ

同人ハ幼ニシテ眼病ヲ患ヒ爲ニ尋常小學中ニ退學シ其叔父ノ命ニ依テ渡臺セルモノニシテ偶然我カ手許ニ引受クルコトト成リシヲ以テ予ハ同人ニ筆算讀書凡ソ小學校課業ニ相當スル敎育ヲ施シ當時ノ小學讀本ノ自讀出來得ルニ至テ止メリ熱帶植物栽培業ハ恒春行前約三年間我カ傍側ニ在テ兼習シ又三十六年十二月ヨリ改テ恒春殖育場ニ在テ練習實驗ヲ積リ殊ニ前後二回吉野勘太郎ノ直傳ヲ受ケ播種育苗法園藝植物其他養樹法ノ要點ヲ習熟シ多年ノ實驗ヲ積リテ斯道ノ一技術家ト爲ルニ至レリ

殖育場ニ於テハ珈琲國ノ施設「サイザルヘンプ」ノ標本園紫檀、チーキ、羅漢松、竹柏、松樹其他ノ造林移植業等過半當人ノ手ニ成ルモノ多シ殊ニ植栽距離ノ測附ケ孔堀施肥及挿木壓條業等ハ當人得意ノ特技ト爲リ土人夫園丁中其訓育ヲ受ケテ上達シ今日尙存在シテ多大ノ實用ニ應シ得ル者多シ是同人貢獻中ノ著大ナルモノナリ

又本人平素ノ常業ハ專ラ苗圃ノ監督保護ニシテ各種子ノ採收仕上法及蒔付方法等ニ於テハ殆ント其三昧悟道ニ入リ居レリ本官モ四十一年下半期後是等ノ直接監督ヲ離レ四十二年十月ニハ本人モ當場ノ現狀衰頽ヲ痛ク悲觀シ時勢ノ變替上已ヲ得ス當場ヲ辭シ去ルニ至リ本官ハ是等熱帶植物ノ實務關係ヲ全ク離ルルコトトナリシヲ以テ在人折角多年間習得スル所ノ特技モ實地ニ應用スルノ機會ナク空ク實ノ特質リト同樣ノ狀態ト爲リシハ實ニ遺憾ニ堪ヘサル所ニシテ餘リニ久シク實地ニ遠カリ實物ト離レハ凡ソ如何ナル人モ自然ト手腕智見ノ鈍リ行クモノニシテ予カ爲メ是等ノ養成者諸員利用ノ道マテ廢リ行クトハ元ト豫想セサリシ所ナリ

本人ト津田德藏ハ當場港口母樹園創業ノ際ヨリ引續キ多年間植物栽培萬端ノ實際技術ヲ專擔シ兼

ネテヲリシ高士佛ノ如キモノアリテ正シク傳ヘラルヽ者ニ非ス

序ヲ述ヘスアルヲ以テ各事業地ノ成效ハ特別ノ方法ヲ用ヒサレハ其ノ品質ノ優劣ヲ判スルコトヲ得ス

(三)勤勞吾人ハ有川省吾

(二)津田德藏

津田德藏ハ元吉氏ニ就キ多年斗本人ハ省吾ト共ニ同郡池田村大字川端ニ於テ農業ヲ營ミ居リシカ其ノ父ノ死後ハ家業ヲ繼キ專ラ農事ノ改良ニ從事シ居レリ後ニ至リ同郡下川邊村大字有川ニ轉住シ現ニ其地ニ於テ農業ヲ營ミ居レリ其ノ人トナリハ勤勉ニシテ篤實ノ性質ヲ有シ且ツ事ニ當リテハ常ニ深ク考慮ヲ凝ラシ一旦決心シタル事ハ飽迄モ之ヲ貫徹セサレハ已マサルノ概アリ又其ノ性質ハ極メテ温和ニシテ人ニ接スルニ常ニ懇切ヲ旨トシ隣保相扶ケ親戚相睦ミ鄕黨ノ間ニ處シテハ能ク和ヲ以テ貴ヒ自己ノ利益ノミヲ計ラサルカ如キ其ノ德望ハ實ニ一般ノ推服スル所ナリ

(一)緒言

農業ハ國家ノ大本ニシテ人生ノ須臾モ離ルヘカラサルモノナルハ今更ラ喋々ヲ要セサル所ナリ然ルニ我カ國ノ農業ハ古來ノ慣習ニ因リ改良ノ方法ヲ講スルモノ少ク從テ其ノ收穫モ亦多カラス隨テ農家ノ經濟モ豐カナラサルハ實ニ遺憾ノ次第ナリ

相當ノ例ヲ擧ケテ現來文筆帳簿ノ用途ヲ述ヘンニ其效勞特筆ニ値スル者ハ之ヲ特別ニ取扱ヒ其ノ方法等ハ悉ク之ヲ本人ニ一任シ其ノ成績ハ年ヲ追フテ著シク擧リ其ノ收入モ從テ增加シ今日ニ於テハ實ニ數百圓ノ巨額ニ上リ居レリ後進ノ者ニ對シテハ常ニ懇切ニ其ノ指導ヲ與ヘ且ツ其ノ模範ヲ示シ以テ其ノ奮勵ヲ促シ居レリ

其ノ他本人ハ農事ノ改良ニ關シ數多ノ著書ヲ出シ又ハ講演ヲ試ミ或ハ農事ノ講習會ヲ開キ或ハ農業雜誌ヲ發行シ或ハ農業ニ關スル諸般ノ事項ニ付キ專ラ其ノ智識ヲ世ニ普及セシメンコトヲ力メ以テ農業ノ改良發達ヲ圖ラントスルノ熱心ハ實ニ感スヘキモノアリ

本人ハ農科大學卒業後同郡下川邊村大字有川ニ於テ農業ニ從事シ居レリ後ニ至リ同郡池田村大字川端ニ轉住シ現ニ其地ニ於テ農業ヲ營ミ居レリ其ノ人トナリハ勤勉ニシテ篤實ノ性質ヲ有シ且ツ事ニ當リテハ常ニ深ク考慮ヲ凝ラシ一旦決心シタル事ハ飽迄モ之ヲ貫徹セサレハ已マサルノ概アリ又其ノ性質ハ極メテ温和ニシテ人ニ接スルニ常ニ懇切ヲ旨トシ隣保相扶ケ親戚相睦ミ鄕黨ノ間ニ處シテハ能ク和ヲ以テ貴ヒ自己ノ利益ノミヲ計ラサルカ如キ其ノ德望ハ實ニ一般ノ推服スル所ナリ

其ノ他本人ハ農事ノ改良ニ關シ數多ノ著書ヲ出シ又ハ講演ヲ試ミ或ハ農事ノ講習會ヲ開キ或ハ農業雜誌ヲ發行シ或ハ農業ニ關スル諸般ノ事項ニ付キ專ラ其ノ智識ヲ世ニ普及セシメンコトヲ力メ以テ農業ノ改良發達ヲ圖ラントスルノ熱心ハ實ニ感スヘキモノアリ

(二)津田德藏

津田德藏ハ元吉氏ニ就キ多年斗本人ハ省吾ト共ニ同郡池田村大字川端ニ於テ農業ヲ營ミ居レリ後ニ至リ同郡下川邊村大字有川ニ轉住シ現ニ其地ニ於テ農業ヲ營ミ居レリ其ノ人トナリハ勤勉ニシテ篤實ノ性質ヲ有シ且ツ事ニ當リテハ常ニ深ク考慮ヲ凝ラシ一旦決心シタル事ハ飽迄モ之ヲ貫徹セサレハ已マサルノ概アリ又其ノ性質ハ極メテ温和ニシテ人ニ接スルニ常ニ懇切ヲ旨トシ隣保相扶ケ親戚相睦ミ鄕黨ノ間ニ處シテハ能ク和ヲ以テ貴ヒ自己ノ利益ノミヲ計ラサルカ如キ其ノ德望ハ實ニ一般ノ推服スル所ナリ

其ノ他本人ハ農事ノ改良ニ關シ數多ノ著書ヲ出シ又ハ講演ヲ試ミ或ハ農事ノ講習會ヲ開キ或ハ農業雜誌ヲ發行シ或ハ農業ニ關スル諸般ノ事項ニ付キ專ラ其ノ智識ヲ世ニ普及セシメンコトヲ力メ以テ農業ノ改良發達ヲ圖ラントスルノ熱心ハ實ニ感スヘキモノアリ

年在校時代故多田元吉氏ヨリ傳授セル秘術ヲ以テ支那式紅茶ト印度式ノ二品ヲ製出シテ出品シ小官上京後之ヲ西ケ原農事試驗場ニ携帶シ茶業主任大林雄也氏ニ品評ヲ受ケシニ其仕上法ノ良好ナルヲ賞賛シ且舊門弟有川ノ製品タルヲ聞テ大ニ悦ヒ將來ニ有望ナルコトヲ說示セリ是ニ於テ同人ノ製茶法ハ果テ其模式ニ適ヘルモノタルコトヲ感得シ翌四十一年ヨリ更ニ十分ナル播種茶園ノ施設ニ重キヲ置キ印度アサム茶ノ種子ヲ得テ純紅茶目的ノ栽培法ニ全力ヲ盡サント心算經營中殖産局ニ於テ阿緑廳下武洛庄ニ纖維植物苗圃ヲ創設シ「サイザルヘンプ」草ノ栽培ニ著手スルニ就テ有川ヲ其主任トシテ轉任セシムヘキ局命ニ接セリ然レトモ若シ之ニ應スレハ當場ノ事業目的殆ント畫餅ニ歸スルモノアルヲ以テ百方謝絶セシモ賀田林務課長ヨリノ懇命否ム能ハサルコトトナリテ遂ニ心ナラスモ本人ハ轉任スルコトト爲リ四十一年五月當場ヲ離テ彼地ニ赴任セリ

有川ノ赴任際ハ今日ノ阿緑纖維苗圃ノ所在地ハ荒漠タル不毛ノ曠野ニシテ土人無斷開墾ノ切替畑各所ニ散點セシモノニシテ滿目空曠一樹木ノ就ヲ以テ蔭スヘキモノナカリシニ今ハ其區域内ハ全面耕墾シテ「サイザルヘンプ」畑ヲ以テ滿タサレ加フルニ爾後ノ設計ニ由テ栽付タル竝木防風林蔚蒼トシテ一大蓊木林ヲ爲シテ美觀ヲ呈シ全ク面目ヲ一新スルニ至レリ該場ノ創業守成者トシテハ實ニ特獨ノ抜能殊勳ヲ奏シ亦恒春在任中各殊熱帶植物ノ栽培業ニ研鑽實驗ヲ積リ殖産局ノ爲ニ貢獻スル所ノ功績實ニ勘少ナラス

「サイザルヘンプ」草ノ繁殖法ハ舊來側芽ト冠芽トヲ以テシ種子ハ原産地ニ於テモ容易ニ結ハサル植物ナルヲ以テ種子繁殖ハ何國ニテモ行ハレ居サルモノナリ而ルニ此同類植物中ニテ他ノ「チトセラン(虎尾蘭)」ハ葉挿シ造苗出來ルモノニシテ衆人ノ知ル所ナレトモ「アグフ」屬植物ハ葉挿繁殖法ハ行ハレ居サル所ナリ恒春殖育場ニテモ曾テコレヲ施行セシコトアリト雖モ未タ十分ノ成績ヲ認ムルニ至ラスシテ止ミシモノナリシカ有川氏ハ阿緑苗圃ニ赴任以來傍ラ此葉挿法ヲ研究シ遂ニ具體的造苗ノ一方法ト爲スコトヲ得ルノ新案ヲ發表シ多數ノ葉挿苗ヲ產出セシムルニ至レリ其方法ハ幼苗ノ下葉ヲ切取テ全形ノママ挿地シ其切口ヨリ新根ヲ發生スルモノナリ

(三)森 龜齡

森龜齡ハ元ト土地調查局測量技手ニシテ「タランシット」ヲ使用ニ熟練シ細部測量ニ適當ノ人ナルヲ以テ殖產局鑛務課員ノ紹介ヲ經テ採用セルモノナリ明治三十七年十二月家族携帶ニテ赴任シ當場各區域ノ細部測量ノ豫定ヲ以テ漸次斯業ヲ整頓スル事ト爲シ最初港口母樹園ノ測量ヨリ著手シ以テ龜仔角山ノ地形測量ニ移リ東西兩母樹園間ノ交通豫定路線ノ探查檢測ニ著手ス此間近キハ半里遠キハ二十餘町ナルモ舊來生蕃人ノ鹿狩路條ノ纔ニ足跡ヲ印セラルルモノアルト山中各所ニ木炭運搬用ノ假設牛車路ノ痕跡ヲ留ムルアルノミニシテ現時ハ是トテモ雜草藤蔓繁茂シテ咫尺ヲ鎖シ通行ニハ常ニ鎌斧ヲ手ニシテ刈拂ヒツツ進マサレハ一步モ動キ能ハサルカ如キ部分アリ又全面珊瑚礁ヲ以テ成立テル石灰岩ヲ以テ一大廣區ヲ爲セルカユヘニ處々硌砢數尋ノ凹谷峒窟勃カラスシテ跋涉極テ困難ナリ又斷崖虎嵩仄峙シテ或ハ峒門ヲ爲シ或ハ隧道狀ヲ爲シ其空間ノ峽野ニハ草樹藤蔓密生シテ菅茅ヲ混生シ亦一種ノ蔓竹アリ蟠桓紛糾白晝黝然方位ヲ辨セサル部分等アリテ此山野ノ測量業ハ隨所展望閉塞シ其視線ニ必要點ハ全部刈伐セサルノ困難アリシナリ

龜仔角山ノ測量ハ之ヲ大體三類ニ別チ一ハ東西母樹園ノ交通路線一ハ西母樹園ノ新設計細部測量圖一ハ東母樹園ノ地形測量ニシテ先ツ第一著々其交通路線ノ開鑿ヨリ先ニ著手シ森氏ハ土木業ノ

素養アルヲ以テ即此造路業モ委任シ非常ノ困難改竄ヲ經テ漸クニシテ輜車ノ交通ニ適スル新路ヲ竣功スルヲ得タリ此距離約半里内外ト爲ス

次ニ西母樹園ノ細部測量ニ著手ス即明治四十年ノ豫算會議ニ由リテ熱帶有用植物標本園ニ充テシ部分ニシテ小官ニ於テ敢テ此事ニ關係ナク其數年前ヨリ一種ノ理想ヲ劃定シテ既ニ設計濟ノ新壓地ナルヲ以テ右ノ決議ノ爲ニ設計ヲ變改スルノ必要モナク森氏ノ細部測量ハ明治三十九年中夙ニ圖根出來居タルモノニシテ其開墾ノ竣成スル都度順ヲ追フテ更ニ再測量ニ掛リ前後數回ニ亙リテ圖面ハ仕上リタルモノナリ而シテ小官ハ遂一此細部測量圖ト對照シ寸分原圖ト違ハサル樣ニ基礎ヲ確定シ全部ヲ竣成シタルモノナリ

東母樹園ノ圖面ハ他ノ應急要務稍片付タル上ノ後廻ハシト爲シ居タル中遂ニ落成ニ至ラスシテ森氏當場ヲ辭任スルコトト爲レリ港口母樹園事業地保護區域縮少ノ新問題ニ接シ此再測量ニ取掛レリ又森氏ハ明治三十九年一月築地隆茂氏ノ解職後ハ猪勝東母樹園監督室ニ住居シテ測量ノ傍ラ同所ノ業務監督ヲ擔任シコレニ一園丁ト臨時人夫一家族ヲ附屬シ置キシニ園内ノ面目一新シ大ニ整理ノ實擧カリテ滿目清爽純然タル一公園ノ美觀ヲ呈シ各所ヨリ參觀者頻至シ遙々恒春街ヨリ往來シテ一ノ養氣所ト爲ス者尠カラス創設以來猪勝東園内最終ノ盛觀期ニシテ育養植物ノ手入行屆キ且生產物試驗製造ノ著シク發展シタルモ實ニ此時期ニシテ「サイザルヘンプ」龍舌草絲「チトセラン」絲「コウリチウスヘンプ」等各纖維ノ採製額モ多量ニ上リ又「タヒヲカ」「アロウルート」等ノ澱粉モ多大ノ生產額ニ上リ四十年ニ及ンテハ初テ此地ヨリ「サイザルヘンプ」及「コウリチウスヘンプ」ノ冠芽苗ヲ出ス

森氏ハ遠地ノ測量ニ外出セサル時ノ外ハ日々早朝ヨリ港口事務室ニ勤務シテ夜九時十時頃ニ至テ猪勝東ニ歸リ行クヲ常トセリ

吉川田鶴治郎氏辭任後ハ其文書會計事務ヲ樋口氏ニ引繼キ卽其兼務中三十七年十二月森氏ノ赴任ト同時ニ其事務ヲ一切同氏ニ引續キ樋口氏ハ元ノ如ク高土佛ニ歸任スルコトト爲レリ森氏カ會計事務ヲ受取シヨリ當場ノ會計事務カ著シク引締リ且發展シテ來タ故ニ吾モ大ニ仕合セヲ得テ小世帶ナカラ頻リト財政整理ニ力ヲ添ヘシニ實ニ其效力ハ著シキモノニテ各事業地ノ人夫賃其他ニ著シク省節カ出來タルヲ以テ此剩餘ヲ以テ龜仔甸山新墾地現事務室所在地ノ害木切拂其他苗圃新設費等ニ充テリ是ハ明治三十九年一月頃ヨリ四十年ニ亙ル間ニシテ恒春廳長柳本氏ハ當場主任兼務ナリシヲ以テ同氏モ森氏ノ才幹ト會計事務ニ耐能ナルニハ大ニ望ヲ屬シ深ク感シ居ラレタリ此際小官ハ上京スルコトト成リシヲ以テ森氏ニ後事ヲ託シ我カ追テ歸任時マテノ當場經費月額豫算表ヲ調成シ此順序ニ依リテ萬事留守中ノ事業ヲ進行スルコトヲ堅約シ吾モ吉川氏辭任後初テ好事務員ヲ得タルヲ悦ヒ後顧ノ念ヲ絕テ上京ノ途ニ就ケリ

文書事務主任ハ三十九年四月柳本廳長ノ推薦ニ依リ恒春廳ヨリ本多幸助氏赴任シ來リ會計事務ハ森氏從來ノ行掛上小生ニ代テ主査ノ責任ヲ委託シ置ケリ爾後東京滯在先ニ會計報告絕ヘス來著シ其都度之ヲ細檢シテ尙意見ノアル所ハ朱書シ送リ返シ會計事務ハ能ク整頓シテ寸隙ナカリシナリ而ルニ臺北ヨリ每々全ク其反對ナル急報書若クハ電報ニテ會計事務ノ紊亂ヲ報シ來リ加之此整理ノ爲メ屢次歸任ヲ促シ來レリ然トモ當場經費ノ內容現在金支出差引ノ點ニ於テハ寸毫ノ微ニ至ルマテ緻密ノ人タルコトハ熟知スル所ニシテ會計上ノ秩序能ク立居ル央ノ際ニ不撞合ノ急報頻至ス

ルユヘ恒春廳野村會計主任ノ證明ヲ得テ留守中金錢出納簿ノ寫ヲ取リ見シニ矢張リ我カ遙察通リ一點批議スヘキ點ナキヲ以テ小官ハ是ソ世ニ所謂中傷策若クハ揑造說タルコトヲ感知シタルヲ以テ用務半途ニ勿急歸任スルコトヲ斷念シ全部用濟ノ上臺北ニ歸著セシニ依然トシテ此揑造說ハ確執サレテ到底口頭ニテ此迷誤心ヲ訓解スルコト能ハスト見切リヲ付ケテ恒春歸著後早速此妄說無根ヲ證明スルニ確實ナル調查書ヲ製シテ之ヲ財務局員及本局ニ提出シ之ヲ表明シ置ケリ財務局ニ於テハ其前小生ノ直話ニ於テ了解シ其他ハ不了解中ニ終リシモ無根ノ證據ハ當時恒春廳野村會計主任ノ手許ニ保管中ノ當場經費出納簿ニ明白ナリ

右誣說中ノ一事ハ田代技師上京中常ニ恒春廳管內ニ出張シテ多額ノ旅費ヲ受取リ常ニ場內ニアラスシテ事務室ハ空虛ナリトノ說ヲ一面ヨリ頻リニ流布セシモノナルカ其事實ニ於テハ全ク傳布ノ說ト正反對ニシテ誣告中ノ著シキモノナリ卽我カ上京及臺北出府中三箇月間ニ亙リ森氏ハ柳本恒春廳長兼殖育場主任ノ呼出シヲ受ケテ恒春ニ出張シタルコト三四回ニシテ而モ其旅費ハ未タ森氏ニ拂渡シ無之モノナリ此一事ニテ他ヲ推知スルニ足ル

森氏ハ斯ル無根ノ妄說ヲ蒙リタル以上ハ假令ヒ揑造說タルニ關ラス最初ノ推薦者ニ對シ甚タ高慮ヲ煩ハシ且不面目ノ至ナリ又自分カ當場ニ居レハコソ田代技師ニモ多大ノ迷惑ヲ及ホシ自分ユヘニ斯ク一部人ノ妄說ヲ其筋ノ主幹者カ偏信スルトキハ自分ハ遺憾ナカラ暫クタリトモ當場ニ關係ヲ斷チ他ニ轉任スルニ若クハナシト固ク決心シテ卽轉陞ノ交涉ニ取掛レリ小生拒ミ止ムルモ力及ハス餘義ナク其赴任時期ヲ俟ツコトニ覺悟シ爾後尙引續キ「クアル」西母樹園ノ細部測量業ヲ委囑シ森氏ハ翌明治四十一年一月遂ニ當場ヲ辭シテ總督府財務局稅務課ニ轉任セリ

(二四)吉川田鶴治郎

吉川氏ハ元臺中縣木下知事ノ官房專屬ニシテ其時ヨリ舊知ノ人ナリ廢縣後臺中農事試驗場書記ト爲リ其廢場ノ際ニ當場文書會計專務トシテ明治三十七年一月中ニ採用赴任セリ同氏ハ會計主任トシテ適任者ナレトモ規定ノ關係上當場ニハ判任官ヲ置ク能ハサルヲ以テ已ヲ得ス囑託員トシテ使用スルコトト爲セリ而シテ會計前渡官吏ハ尙依然トシテ恒春廳屬野村文次氏ニシテ吉川氏ハ專ラ場內ノ文書會計事務ヲ專任シ野村屬モ此後ハ大ニ意ヲ安ンシテ書類ノ檢閱ヲ遂ケ日常ノ會計雜用ハ殆ント吉川氏ニ一任シテ後顧ノ苦念減少スルニ至レリ

現時當場ニハ文書事務ニ特殊ノ素養ニ富メル者少ク先年來此適任者捜索中計ラスモ其人ヲ得タルヲ以テ諸帳簿ノ整頓改正ニ著手シ傳票其他ノ舊態ヲ一新セリ於是一切ノ會計帳簿完整シ尙諸他ノ生產物臺帳諸官廳往復書類ノ整備ニ著手セリ

尙當場ノ文書會計事務ハ同氏ニ由リテ遺憾ナク整頓サレ行クモノアラントスルニ際シ同年十月急ニ家事ノ用起リテ辭職歸國ノ已ヲ得サルニ至レリ是實ニ當場ノ爲メ一大遺憾事項ナリ爾後暫ク後任者缺ケ場員樋口素雄氏ヲ以テ日常事務ヲ兼辨シ同氏ノ在勤地高士佛事業地ニハ傭員一名ヲ留守居セシメ後森龜齡氏ヲ得テ同氏ト交代セシメタリ吉川氏ノ在任期間ハ不幸ニシテ極テ短期間ナリト雖モ其貢獻スル所ノ遺勳ハ永久沒スヘカラサルモノアリ後再ヒ同氏ハ渡臺シテ臺南廳ニ奉職シ同ク文書係トシテ多年間勤續シ貢獻スル所ノ事跡多シ氏ハ元ト動植物學ニ關スル智能ニ富ミ亦木材ノ鑒別監查等ニ熟通シ其他博物學界中ノ一人ナルヲ以テ博物館其他共進會等ニハ缺クヘカラサス一適才ナリシナリ又幼來詞藻界ニ於ケル素養ニ富ミ卽國歌ハ其本領トスル所ニシテ群衆

ニ超絶シ一家ヲ爲ス殊ニ臺灣ニ於テハ斯道ノ名家寂々寥々タルヲ以テ吉川氏ヲ仰テ其師ト爲シ就テ薫陶ヲ受クル者頗ル多シ一タヒ氏ノ臺南ニ入リシヨリ多年廢弛セル斯道振興ノ氣運ヲ生シ後進者ヲ指導訓育シタル事績亦特筆スヘキモノアリ斯ノ如ク氏ハ多能多趣味ニシテ亦頗ル漢詩ニ長シ吉川氏ハ愛知縣名護屋ノ人ニシテ十數年前渡臺シ舊鳳山縣時代ヨリ引續キ臺灣ノ官務ニ貢獻ノ事跡多ク且非常ノ勤勉家ニシテ執務精確多年奉職中未タ曾テ過失ノ跡ヲ見ス眞ニ模範的良吏トシテ僅見ノ士ナリ大正四年九月臺南廳在職中偶デング熱ニ罹リ餘病併發シテ遂ニ黃泉ノ客ト爲レリ嗚呼哀哉

(五)大宜見信一

大宜見氏ハ明治三十六年春港口母樹園開設ノ際ニ採用ス初メ開墾土木業監督ヲ委囑ス道路開鑿業務ヲ擔任シ成績良好ニシテ他員ニ秀越ノ技倆ヲ現ハス即港口監督室ヨリテラソ母樹園ニ通スル六線道路等ハ同人カ擔任シテ竣成セルモノナリ港口母樹園ノ中輪區苗圃亦同人ノ手ニ成ル初メ小官設計圖ヲ交付シ其ニ準據シテ寸毫ヲ誤ラス同氏ハ沖繩縣下八重山島ノ生ニシテ幼少時來ル八重山煙草ノ栽培ニ熟練ス八重山煙草ハ何レノ時代ヨリ栽培開ケタルカ植物ノ形態風味共「マニラ」或ハ「キユバ」ニ近似シ栽培法亦熟帶的ニテ内地煙草トハ全然趣ヲ異ニスルヲ以テ即當場ノ「マニラ」煙草試作業ニハ尤モ適任者ト認メ即同人ヲ以テ此試驗主任ニ充ツルコトト爲シ即來年分ノ試作用煙草種子ノ蒔付ヲ本年九月ヨリ著手シ十一月ヨリ翌春一月ニ移リテ移植ニ著手シ平素吾カ調査シ置ケル所ノマニラ地方ノ方法ニ準シ又昨年末ヨリ今春ニ亙リテ栽付タル煙草園ノ手入施肥摘心收穫等一切ヲ同

氏ニ委託セシニ非常ニ優等ノ成績ヲ奏シ園内ノ煙草ハ全部偉觀ヲ呈シ右第二期ニ屬スルモノハ一層ノ好發育ヲ遂ケリ是ヲ以テ向來當場ノ同試作業ハ年々引續テ同氏ニ擔任セシムルコトト爲セリ

明治三十七年六月場員故谷村愛五郎氏家事用ヲ以テ辭任歸鄉スルコトト成リシヲ以テ谷村氏ト交代シテクアル山事業ヲ擔任スルコトト成レリ而シテ外國煙草ノ試作業ハ從前通ニ兼務セシメ同人ハ右六月ヨリクアル東母樹園内事業監督小屋ニ轉住シテ專ラ同地ノ開墾業ニ從事シ又他ノ植物栽培ヲ擔當シ煙草ハ今年ヨリ特ニクアル山中ノ開墾ヲ了セル適地ニ植栽セシモノ非常ノ好成績ヲ呈シ其種類亦夥多ニシテ即左ノ種類モ此中ニアリ

(一)マニラカバヤン溪上流產甲種)　(二)同下流產(乙種)
(三)チヨイス、キユバ　(四)ハバナ
(五)バフラ、トルコ　(六)トルコ、バスマ
(七)メリーランド(米國黃色種)　(八)エーロー、ヲロノコ
(九)ハバナ、シード、リング(米國種)　(七)イムブラウド
(二)エーロー、ブライヤル　(三)シユマタラ數品
(三)恒春在來煙草(「マニラ、キユバ」ニ近似セルモノ)　(四)國分煙草
右ノ中ニテマニラ、キユバ、ハバナ等ノ熱帶地方產ハ成績良好ナレトモ「エーロー、ヲロノコ」等ノ米國黃色「タバコ」ノ方ハ何レモ氣候酷熱ニ過キテ發育不良ナリ故ニ專ラ熱帶地產煙草ノ試作ニ重ヲ置キ其生產物ハ全ク專賣局ニ年々歲々引渡シ行クコトト爲セリ

又三十九年以後ハ煙草栽培ノ方ハ他ニ兩助手アルヲ以テ大宜見氏ハ其監督ノ傍ラ專ラクアル西母

樹園當時一般ニ新開地ト唱ヘタル今ノ事務室所有地ノ開墾整地業ノ監督ニ全力ヲ注クニ至レリ其間各方面ニ數條ノ道路ヲ開鑿シ多年生蕃人ノ狩獵場ニシテ臺灣浪民ノ潜住地内ニ處々燒炭小屋ノ散點スルノ外人跡稀疎森林鬱密白晝猶方位辨セサルカ如キ荒廢境モ當場開墾植樹業ノ進歩ト道路ノ開通スルニ伴ヒ當保護區域内ノ諸地ハ寄留民漸時增殖シテ人煙繁昌ノ地ト成リ加フルニ大板埒港ヨリ梨丁寮ヲ經テ港口、テラソ、蚊蜂庄、射麻理地方トノ交通線路ノ中心點ト爲リ大宜見、森諧氏ノ刻苦憔心シテ開通シタル各方面ノ新路ハ圖ラスモ恒春廳下ノ新公道ト爲リ其修繕ノ如キモ或ル部分ハ警察官監督ノ下ニ保甲民負擔ト爲リ敢テ限アル當場人夫ノ手ヲ煩ハスニ及ハサル幸榮ヲ得來ルニ至レリ大宜見氏ハ凡テ此種ノ創業事務ニ適當ノ天才ヲ有シ同氏ノ勞績實ニ永久紀念ニ存スヘキモノ實ニ多大ナリ

(六)本田幸助

本田氏ハ明治三十九年四月元柳本主任ノ推薦指定ニ依リ恒春廳文書係ヨリ當場ニ轉在セルモノニシテ文書會計事務ヲ擔任シ翌年六月ニ至テ休メ臺南廳ニ轉任ス其間常ニ港口事務室ニ在テ同事務ニ缺掌シ文書會計帳簿ノ整頓ニ從事セリ而シテ恒春廳野村屬ハ依然トシテ當場書計主任ヲ擔當シ日常ノ細務ハ本田氏ニ於テ辨務シ森氏ハ本田氏ノ赴任以來專ラ測量術外業ニ多忙ニシテ日常會計事務ハ本田氏ノ專擔スル所ト成リ森氏ハ豫算編成其他人夫使用設計生産物處分ノ等如キ凡テ主査的ノ當場維持上經濟的整理事項ニ僇力シ會計事務ノ整理ヲ主トシテ傍ラ意ヲ注キツツアリ本田氏ノ在任中ハ專ラ文書帳簿ノ保管整頓上ニ勉力シ岐序整然タルモノアリ故ニ會計主任野村屬ノ手ヲ省クノコト著シク成リ爲ニ野村屬モ大ニ安意シテ同氏ハ專ラ種畜場ノ會計事務ニ全力ヲ注キ得ラルルニ至レリ

明治四十一年六月臺南廳埤圳事務所ノ方ニ先約ニ依リ轉任スルコト成リ同月當所ヲ去リ臺南ニ赴ケリ實ニ遺憾ト雖モ亦已ヲ得サル事情ナリシナリ

(七)有馬武二

有馬氏ハ日本煙草中ノ主魁タル國分煙草ノ本源地鹿兒島縣下國分村煙草栽培本組家中ノ一人ニシテ便チ國分煙草ニ就テハ傳家ノ秘譯ニ熟通セル一臺斗タリ先年來渡臺シテ本島煙草栽培ノ教師トシテ貢獻シタル人ナリ今次野村會計主任ノ紹介ニ依リ專賣局試作主眼ノ國分煙草ノ試作業ヲ當場ニテモ引受クル事ト爲リ同氏ヲ採用シテ即明治三十七年九月ヨリ港口事業地及クアル新墾地ニ於テ同氏モ極力之カ栽培ニ丹精ヲ凝ラセシニ土地酷熱乾燥ニ過キ全然理想ヲ滿タシ能ハサルコトヲ感知スルニ至レリ又偶其葉形色澤優美ニ出來上リタルモノ動モスレハ葉肉過厚ニシテ風味濃厚强烈ニ過キ如何ニ工夫スルモ我カ内地ニ出來タル煙草ノ如ク風味淡泊ニシテ葉質軟薄一般ノ内地人向キニ適合スル刻煙草ノ元料ヲ造リ出セルコトハ到底不可能ナルコトヲ驗得セリ是特リ恒春地方ノミナラス臺灣テハ國分ノミナラス泰野ニテモ掛宿ニテモ水戸ノ何種ニシテモ皆動モスレハ葉質多肉堅厚ニ出來過キ第一ニ軟薄質ノモノヲ得難キ點ト其味カ辛辣强烈ニシテ刻煙草用ニ適セス寧ロ「マニラ」「ハバナ」「キユバ」「シユマタラ」的ノ葉卷用ニハ其風味特質共ニ不適當ニシテ畢竟臺灣ノ平野ニハ熱帶國固有煙草ニアラサレハ栽培上ノ完功ヲ期シ難キ實證ヲ土地其物カ現示スルヲ以テ遺憾ナカラ匕ヲ投スルノ外ナキコトト成レリ然レトモ若シ本島ノ高山界海拔三四千尺以上ノ地ナレハ或ハ意外ノ好結果ヲ得ルヤモ圖リ難シト雖

モ平野若クハ海拔約二千尺以下ノ地ニテハ尚熱帶地方ノ氣象範圍ニアルヲ以テ當場ニテモ已ヲ得ス七ヲ救スルト共ニ有馬氏モ翌三十八年九月末專賣局出張所員ニ轉任スル事ト成レリ

(九)田中彦三郎

田中氏ハ明治三十六年當場ノ文書會計事務補助員兼作業監督中ノ一人トシテ採用シタルモノニシテ當場ノ爲ニハ實ニ忠實ナル適任者テアリシナリ初メ港口事務室ノ用務多端ナリシカ同三十七年吉川氏ノ赴任後ハ同氏ノ手ニ於テ當場ノ事務ハ專擔シ補助ノ必要減セシヲ以テ田中氏ハテラソ事業地ノ作業監督ヲ負擔シ專ラ同所ノ業務ニ慘力セリ而シテ吉川氏ノ手許ニ於テ用務繁劇ノ際時々テラソヨリ來リテ補助シツツアリ同氏ハ多年稅務署及內地郡役所書記等ニ從事シタル等ニ由リ傘算ニ熟長シ且能書家ニシテ大字ヲ揮フニ長スルヲ以テ當場ノ標木ハ全部同氏ノ手ニ成ルモノナリ卽各母樹園ノ標杭等ハ同氏ノ遺筆尙今日ニ現存スルモノアリ又諸帳簿中同氏ノ手ニ成ルモノハ一目シテ見別ケ得ラルル樣筆跡遒美鮮明ナリ

作業監督ノ方ニ於テハ最モ注意カ屆キ殊ニ自身ニテモ植樹業ノ趣味ヲ有シ漸次斯道ニ熟練シ來ルヲ以テテラソ母樹園內ニ毛柿ノ試驗造林模形ヲ設ケルコトヲ附託シ直播試植區ヲ設ケシニ其成績極テ良好ニシテ今日ハ該樹著シク育長シテ二間以上ニ達シ幹圍一尺內外ノモノアリ然レトモ其著手地極テ小面積ニシテ僅ニ數十本ニ過キス但シ是ヲ明治三十七年ノ種子直播木標本トシテ見レハ後年學術上ノ一大參考木ト成ルヘキナリ是實ニ田中彦三郎氏ノ一記念木トシテ尊重スヘキモノナリ

又田中氏ノ勸メニ依リテテラソ豹住山ノ一部卽舊國語傳習所卽蕃童學校ニ通スル路側今ノテラソ樹園ノ北端一乾溪ヲ隔テル深林中ヲ開墾シテ舊來「タビヲカ」亨麻等ヲ栽培シアル所ニ「チーキ」樹試植林アリシカ更ニ該木ノ殘苗補植ノコトヲ委囑シ更ニ面積ヲ擴メテ栽付一時盛ニ生長シ來ツツアリシニ此一區域ハ我カ臺北ニ引揚後明治四十四年及四十五年引續キ數回ノ大颶風起リシ際其背後ノ山丘崩壞シ且テラソ嶽麓ヨリ汎濫シ來ル洪水ノ爲メ全面地盤ヲ破壞シテ凄然タル慘景ヲ呈シ一荒原ニ化成シテ巨石礫散點堆層ヲ爲テ以前開墾セル場所及各殊ノ植栽品ハ皆此石礫ノ下層ニ埋マリ亦遺跡ノ就テ尋スヘキモノナキマテニ荒廢セリ又田中氏ノ丹精シテ栽付タル桂竹林其近傍ニアリ一時ハ叢林ヲ爲シ來リ居シカ是亦殆ントテラソ大溪ノ流域內卽チ川床ニ化成シタル部分多シ全部ヲ洪水ニ崩壞サレテ僅ニ其一小部分ヲ殘シ留メ他明治三十八年九月田中氏ハ臺南縣廳稅務課ニ轉任スルコトト成リ當場ハ解職セリ

(一〇)桶屋國吉

此桶屋國吉ハ明治三十六年四月港口母樹園創設ノ際土人夫作業監督ノ爲メ採用ス同人ハ元ト岸本國吉ト云ヒシカ鄕里ニ於ケル親戚世襲上ノ關係ニテ桶屋姓ト成レリ本人ハ元ト專門技術的ノ人ニアラスト雖モ多少苦學ノ經歷ヲ有シ普通學ニハ通シ居レリ身體極テ强健ニシテ人夫使役ニハ適當ナルノミナラス慧捷ニシテ才幹アルヲ以テ港口一部分ノ雜木林開墾及道路開鑿等ヲ附託シ殊績ヲ奏セリ

又本人ハ多年內地ニ於テ苦學ノ目的ヲ家事ノ爲ニ果ササリシモ嘗テ或ル漢學塾等ニアリシ事モアリ種々心膽練磨ノ修養ヲ積リ且天資倜儻儀岸ニシテ事ニ臨ンテ冷靜不動所謂豪傑的氣風ヲ有スルヲ以テ生蕃人ノ交涉事ニハ恒ニ我カ代辯者トシテ同人ニ計策ヲ授ケ機器ヲ示シ大抵ノ事件マテハ

他人ノ手ヲ煩ハスシテ濟シ居タリ猪勝東社大股頭人潘文杰及其長男萬金ニ對スル暗鬪ニハ隨分小官意思ヲ費シタル一事項ニシテ時ニハ此潘萬金多數ノ老蕃ヲ伴ヒ來リテ示威運動的行動ヲ執リ來ルコトアリ斯ル際ハ築地隆茂氏ノ在任中ハ同氏得意ノ受持業ニシテ制御シ來リツツアリシニ爾後ハ小官親ラ其衝ニ當リ桶屋ハ能ク土語ニ通シ口才アルヲ以テ平素小事件ハ同人ニ命シテ辨理セシメ居タリ難事ニ臨ンテ小官親ラ渠等ニ臨ンテ桶屋ヲシテ代辯セシメ渠等カ十分理解シテ眞心服膺スルニ至テ止ムヲ當トセリ其事件ハ多ク土地森林問題ナリシナリ

高士佛事業地ハ始終生蕃地内ニ樞口素雄氏單身獨住シテ二三ノ土人園丁ヲ使用シ來リシモ小官ハ常ニ内地人補助員ヲ置カント欲シ是マテ數回場員中ヨリ配置セシコトアリシモ適任者ナク樞口氏ニ内地ヨリ可然人員ヲ呼ヒ用ユヘキ事モ勸諭シ其手續ニモ取掛リシニ候補者不幸ニシテ他用生シ渡臺シ能ハサル事ト爲リシニ此桶屋ヲ還定シ明治三十九年四月ヨリ同所在勤ヲ命シ補助員ニ充テシニ桶屋氏モ大ニ其意ニ適ヒ健强無比傲岸ノ資ヲ以テ敏腕ヲ振ヒ著シク事業發展シ來リツツアリシニ三十九年九月上旬突然發狂ノ氣ヲ萌兆シ來リ其當日ハ平素ノ如ク只樞口氏ニ鄉里ニ大事到來セシヲ以テ歸鄉ヲ願ヒ度旨申出テ港口事務室ニ行テ田代氏ニ願フトテ荷物ヲ收メ樞口氏モ眞面目ノ事ト思ヒ同所ノ學校敎員警察官等モ各自餞品ヲ贈リ尋常ニ引揚ケ來リシニ途中ニ於テ既ニ發狂體ノ人ニ化シ二三箇所ヲ經テ港口ニ著セシ時ハ全ク發狂シ居テ諸人驚愕傷心シ且百方考案ヲ廻スモ術ノ施シ樣ナキニ至リ狂亂暴騷シテ片時モ油斷シ難キ危險行動ヲ頻起スルヲ以テ己ヲ得ス一室ヲ明ケテコレニ納レ四五人ツツ五ニ交代シテ監護シ恒春ヨリ公醫ヲ招キ診察ヲ受ケ一種ノ轎ヲ造リテ恒春ニ送リ監護人ヲ遣ハシ一室ニ納レ晝夜注意ヲ怠ラスシテ守護ニ勉ムルモ危險極リナキヲ以テ急ニ内地ヨリ親戚ヲ呼寄セ之ニ引渡シ鄉里ニ送レリ是實ニ當場空前ノ一珍事件ニシテ元因全ク未詳ナリ但シ發狂後本人カ言語ノ中ニ親戚ノ女名ヲ呼フコト屢々アリシニ就テ察スルトキハ多年鄉里ヲ出テテ久シク鄉緣ヲ斷チ居ルヲ以テ時時ノ鄉信等ニ接シテ養家親戚關係等ノ意念勃發シテ神氣急ニ上騰シ此結果ニ至リシモノカ蓋シ一朝一夕ノ故ニアラサルヘシ

當人ハ佐賀縣人ニシテ家ニハ數兄弟アリ幼來大志ヲ起シ遊學ニ出テシモ意思ヲ果サス身跡沈淪中偶臺灣ニ來リ恒春商肆ニ仕事中當場ノ事業隆盛ノ狀ヲ見テ元ノ學遊時志望再發シ再三請願ノ餘リ遂ニ當場ニ入リテ日々ノ作業ニ鬱懷ヲ晴ラシ且元ト一志ヲ抱ケル者ナルヲ以テ貯金ニ意ヲ屬シ在勤中多大ノ貯金ヲ仕上ケ早晩歸鄉ノ準備ヲ心ニハ期シ居タルモノノ如シ予亦本人ト緩話ノ度毎ニ三十餘才ニ及ンテ尙獨身者タルノ不可ヲ說キ一應歸鄉妻帶然ルヘキ旨ヲ諭示シ居タルニ本人モ其意タルコトヲ答ヘ居シニ突然發狂シタルハ實ニ同情ノ感ニ堪ヘサルナリ

(二)崎山寬志

崎山氏ハ明治三十六年九月採用シ生產物試驗製造補助員及作業監督ニ使用ス沖繩縣下八重山島醫師崎山寬好ノ弟ニシテ事業見習ノ爲メ採用ヲ託シ來リシモノナリ然レトモ身體病弱ニシテ到底難業ニ堪ユル能ハサルヲ以テ澱粉製造纖維採收等凡テ試驗業ノ助手トシテ其業ニ從事セシム爾後病勢不良ト爲リ解傭シテ内地ニ歸還ス

(三)尙　直彥

尙氏ハ大日本農會附屬農業大學ノ卒業者ニシテ明治三十九年十月採用スクアル東母樹園植物栽培業ヲ委囑シ榜ラ大宜見氏負擔ノ煙草試作業補助員ニ充ツ四十年六月臺北廳農會害蟲驅害員ニ轉任

シ當場ヲ解脩ス

瀬氏ハ明治四十年九月鹿務會計事務ノ爲メ採用ス

(三)聚瀬三郎

機事務所員タリ當時殖產局石橋屬上京中ニテ予其實務外前述ノ如ク可ナル同情ニ堪ヘス(三)價ナル紛糾錯雜多キ事務ヲ以テ第二故郷經營ノ爲メ種々貢獻ノ撮影ニ依リ又寫眞術ニ熟通スル氏ノ採用ヲ同氏ハ其前東京勸業博覽會事務濟ノ上當場ニ採用セラレ爾來有川省吾ノ阿嶺麓下ナル苗圃主任トシテ輓近ノ進化ニ伴ヒ新主任トシテ植物栽培ニ從事シ大正三年十月都合ニ依リ當場ヲ辭任シテ他職ニ移リ其間常ニ規矩ヲ守リ勤續シ復職後ハ上京中ナリシヲ以テ本員初メ省港口ニ轉任後ハ拔術家ノミニアリテ卽チ梁瀬氏ハ港口事務任際ハ港口事業地ヲ以テ倘本場ニ充テアリシ時代ニシテ克ク勤務ニ精勵シ降テ七年間無事ニ勤續シ來リ又本場ノ農務員トシテ常ニ果敢ニ活動シ明治四十年十月以來十四年間試驗場ノ勤務ヲ受續キ斯道ニ全力ヲ注キ漸次熟練シ得タル技術ヲ擧ケテ之ヲ本場ノ農務會計事務ニ應用シ其人ナキ所ニシテ長ニ異數ノ抜擢ヲ受ケ殊ニ明治四十四年熱帶植物栽培ノ爲メ林業試驗場ニ移轉後ノ同場ハ苑モ火ノ滅ス此事タルヤ明治四十一年ニ至レリ

ル同情ニ價スルモノ多クハ紛糾錯雜多年間ヲ以テ其實務界ニ多年如ク可ナル同情ニ堪ヘス(三)價ナル紛糾錯雜多年間ヲ以テ其實務界ニ多年如ク可ナル同情ニ堪ヘス(三)價ナル紛糾錯雜多年間ヲ以テ其實務界ニ多年

昇氏モ元ト農學校ニ於テ習得スル所ノ素養ニ由リ他ヨリ早目ニ外國植物ノ栽培法ヲ曉得シ暫クノ間ニシテ植樹業ヲモ委氏シ得ラルルニ至レリ明治四十一年中ハ專ラ東母樹園內ノ諸著手地整理及諸熱帶植物補植ノ事ヲ委囑シ西母樹園ハ尙開墾整地ノ央ニシテ其一部分ノ植栽業ハ竪山津田ノ兩人ヲシテ擔任セシム

四十二年西母樹園ノ新墾地畧ホ整ヒ土木局直營ノ事務室及官舍等竣成スルヲ以テ港口ノ舊事務室ヲ當所ニ引移シ昇氏モ西母樹園ノ新宿舍ニ轉住シテ東西兩母樹園ノ作業監督ニ從事スルコトト爲レリ

明治四十三年六月小官引揚後ハ同氏專ラ場內ノ植物栽培業ヲ擔當シ以テ原狀維持ノ眞相ヲ失ハシメス場內ノ植栽區域長ク安全ナルヲ得タリ而シテ林業試驗支場ヘ移轉後ハ尙引續ヒテ植樹業ヲ擔任シ新舊各植物相通シテ故障ナク發育セシメツツアリ故ニ多年分間氏ニ依リテ原狀ヲ維持サレツツアルハ當場將來ノ爲メ十分意ヲ强フスルニ足レリ

當場ニ於テ「マニラヘンプ」及「パナマ」帽草ノ栽培端緒ヲ開キシハ明治三十五六年創設ノ際ニシテ植栽面積ノ擴充ニ努力シタルハ同三十八九年頃前場員大宜見信一氏ナリ而シテ此期ニ於テ同植物栽培上ノ特別研究ヲ積リ非常ノ好成績ヲ奏シ來ルニ至リシモノナリ然ルニ其數量面積共ニ尙寡少ニシテ未タ試植品タルノ實景範圍ヲ離レス將來本島ノ特有生產物タラシムル基礎的栽培ヲ實施スルニ至ラサリシナリ昇氏赴任後同氏傍ラ此事ヲ擔任シ更ニ適當ノ地域ヲ選出シテ之ヲ墾拓シ津田德藏ヲ督シテ該種苗ノ殖育及移植ヲ進行シ爾後僅少年月ニシテ該兩植物ノ栽付面積及株數著シク增加スルニ至レリ

卽明治四十三年六月本員同場引揚際ハ植栽面積六反强母株數一千本以上ニ達セリ是昇氏經營奮力專ラ然ラシムルモノナリ

又明治三十九年本員鹿兒島歸省ノ際試植ノ爲メ携帶セル所ノ蚊母樹苗ヲ以テクアル東母樹園內及港口母樹園內ニ試植林二箇所ヲ創設シクアル山ノ方ハ昇氏ノ單獨施行ニ由リテ成リ港口ノ方ハ津田德藏ノ植栽ニ由リテ成リ爾後保護手入共ニ其宜ヲ得テ好發育ヲ遂ケ蚊母樹ノ一林景觀ヲ呈シ來ルニ至レリ抑此蚊母樹ハ臺灣本島ノ山中ニハ原生木ヲ嘗テ見ス紅頭嶼山中ニハ原生林アリ元來暖帶地產植物ナルヲ以テ本島ニ移植ノ好結果ヲ奏スレハ將來有望主木中ノ一ニ列スヘキ美術的器具用材中ノ一ニ列スヘキモノナリ尙昇氏ハ當場專任技手トシテ各殊ノ用務ヲ擔當シ一意專心場務勤勉中ニアリ

(五)名村傳吉

名村傳吉ハ明治四十一年一月附ヲ以テ當場傭員ニ採用シタル者ニシテ其以前ハ恒春廳下牡丹灣方面深山中ニ獨住シテ狩獵ニ從事シテ居タル者ニシテ生蕃人モ其膽氣ニ氣ヲ呑マレ敢テ兇害モ加ヘス危運ヲ繫キ居タル狀跡アリ其後高士佛山中ニ引移リ或ル日小官山中跋涉ノ際恠シキ豚舍ノ如キ小廠アルヲ發見シ從者ニ是何物ナルカヲ質スニ日本人名村某ノ住舍ナリト答ヘリ閉鎖シアリシヲ以テ翌朝人夫ヲ遣ハシ其者ヲ呼ハシメシニ直ニ同伴シ來リテ對面ス年齡三十餘軀幹中等容貌尋常ニシテ前ニ聞テ豫想セル如キ魁偉暴獰夜叉惡鬼ノ如キ者ニアラス但タ辯舌慧捷擧止精悍ニシテ議評スレハ故桐野利秋然タル俤影面容ニ彷彿タル點アリ予一見其爲人ヲ奇トシ爾後數回會見シテ其心裏意底ヲ探リ山賊趙雲ヲ得ルノ心持ヲ生シ家族ハ皆恒春街ニアルノ旨ヲ聞キ後チ家族ニモ會ヒ

亦名村ノ舊知人ニ就テ其人物ノ如何ヲ探知シタル後場員ニ採用スルコトト爲セリ

同人ハ山口縣下馬關ノ者ニシテ幼少來清國ヲ廻行シ多年朝鮮ニ在リ能ク朝鮮ノ內情ニ通ス七八年前臺灣ニ渡來リ剏製用ノ鳥獵ニ從事シ後轉シテ恒春ニ來リテ猴獵ヲ營ミ來リシ者ナリ極テ多藝多能ニシテ造庭術養花術植樹業ニ通シ各殊ノ割庖業ニ通シ其他各事ニ通セサルナシ予ハ植樹園藝ノ業ヲ最初負擔セシメ後チ開墾道路開鑿小屋掛建築等ノ業ニ使用セシニ何レモ成績良好ナリ殊ニ亭榭(即吾妻家ノ構築等ニハ其妙技ニ達ス又園藝術ニ於テハ曾テ神戶其他外國人居留地ノ庭園ヲ受持居タル經驗ニ由リ標本園中各殊ノ象形花壇ノ構造等ニハ最モ巧妙ナル意匠ニ長シ植物護育室ノ建設等亦本人特獨ノ技能ヲ盡シテ竣成セルモノアリ又本人ハ多年牡丹社高士佛社等ノ生蕃界ニアリシ爲メ生蕃人使役ニ熟長セルヲ以テクアル山開墾及道路開鑿等險難ノ部分ニ深ク踏入リ生蕃人夫等ノ中ニ加ハリテ刀斧ヲ振ヒ雜木ヲ伐除シ藤蔓ヲ刈拂フ等ニハ最モ本人ノ特長ナリシヲ以テ是等ノ作業監督ニモ多大ノ勞績ヲ積リ當場ノ爲メ貢獻スル所ノ事跡頗ル多シ爲人愚樸忠直ニシテ義俠心ニ富ミ傲岸精悍ニシテ人ノ下ニ屈伏スルヲ欲セス資性卞急ニシテ忍フ能ハス一タヒ其意ニ忤ヘハ勃然ト激シ怫然トシテ怒リ動モスレハ珍事ヲ引起シ上長者ニ向テ能ク抗爭論難シ意解テ然而後チ初テ己矣ヲ常トセリ又能ク人ヲ刺藏シテ敢心ヲ促カシムルコト多シ要スルニ一種ノ氣骨男子ニシテ世間稀類ノ一血性漢ナリ便チ悍馬ノ性ニシテ駕御其宜ヲ得レハ日ニ能ク千里ヲ走リ撫綏其法ヲ得サレハ極力反抗スルノ氣慨ヲ有セリ明治四十三年解傭ス

(三)前田彌之助

前田彌之吉ハ元ト土木業界ノ一人員ニシテ恒春ニ於テ或ル土木工事ノ爲ニ來リ居タル者ナリ其嚆

功ト同時ニ同人モ間暇ノ身ト成リシヲ以テ人ノ紹介ニ依リ當場ノ開墾業其他土木業下タ監督ノ爲ニ必要ヲ生シ採用セルモノナリ同人ハ多年ノ經驗ニ由リ凡テノ土木業ニ能ク熟長シ亦才幹アリ見取リ測量ノ一部ニ通ス同人ヲ採用セシハ明治四十一年一月ニシテ其前ヨリ臨時作業ニ使用セシコトアリ

同人ニハ專ラクアル新開地即西母樹園ノ整地ト各區劃線路ノ開造ヲ負擔セシメ非常ノ刻苦精勵ヲ積リテ今ノ事務室所在地ノ仕上ケヲ成功セリ元ト此地ハ生蕃人ノ陸稻畑ヤ薯圃等ノ散點セル峽野ニシテ其過半ハ灌木林草生地等ニシテ處々等身ノ菅茅繁茂シテ蒼茫咫尺ヲ辨セサル部分多ク又處處地勢凹陷シテ溜水池等アリ此峽野面積全部二十餘町ニシテ其間ニ廣谿大谷多ク大體ハ海拔千尺內外ノ廣臺野即「テーブルランド」ナリト雖モ使用シ得ル面積ハ一區十七八町ニ過キス而モ此中殆ント開墾不可能ト見テ然ルヘキ砥砧岩磐地等ヲ含有セリ乃チ此中ニテ利用シ得ラルル部分丈ケヲ豫メ數年前ヨリ開墾ニ著手シ明治四十年マテハ大宜見信一氏擔當セリ同氏辭任後ハ尙引續キ森龜齡氏細部測量ニ從事シ同氏去ルノ後ハ即前田備員(後雇員)擔當シテ之カ仕上ケニ從事セリ

當時墾丁蔘種畜場ニ整地上ノ米國式撥土器(ダーバー)二臺アリ之ヲ借用シテ飼養中ノ牛ニ索カシメ日々本官及前田監督ノ下ニ整地ニ慘力セリ今日事務所ノ建設所在地ハ元ト擂盆底(スリバチ)ノ如ク深ク凹陷セル生蕃人ノ芋圃陸稻畑等ナリシナリ然レトモ位置優良ニシテ前柳本主任小笠原林務課長心得殖產局技手)等モ事務所建設用地トシテ屬望シ居タル一區域ナルヲ以テ人工ヲ以テ之ヲ全面同一高度ニ削整平坦ナラシメ得ルユトヲ本官ハ夙ニ檢知シ居タルヲ以テ前田ノ來場以前ハ生蕃人ヲ使役シテ牛ニ一種ノ整地器ヲ索カシメ親ラ監督シテ其幾部分ヲ仕上ケ居タル央ハ前田ノ來場後ハ同人ニ一任シ撥

土器ヲ用ヒテ凸凹ヲ整定シ若干日ノ後ニハ坦然砥面ノ如キ一區ノ美園地ト成レリ尤モ其仕上ケ前ヨリ此中央點ニ當ル部分ヲ占トシテ土木局監督技手監督ノ下ニ事務室ノ一部三間角二室ノ一棟丈ケハ建築ヲ了セリ

後チ前田ハ引續ヒテ他區ノ整地ニ從事シ熱帶有用植物標本園ノ整地ニ從事シ又園内各線路ノ開通ヲ仕上ケ到ル處坦々タル平路ノ縦横四通八達スルニ至レリ是皆前測量主任森龜齡氏ノ慊心劃定セル細部測量ノ正確寸毫ノ誤錯ナキ測量標杭ト設計圖面ニ基キ前田ノ天才ト測量術ノ心得アル手腕ノ力ニ由リテ焕成シタルモノニシテ正々堂々ノ觀ヲ呈現セルモノナリ最初當場設計ノ旨趣ヲ知ラサルモノハ植物園内ニ何故ニ斯ク勾配少キ無趣味ノ直路ノミヲ設ケシカノ疑問起ルヘキモノ元トヨリ是ハ全ク地坪ト植物ノ植栽數收支計算ヲ主トスル各區一町歩本位ニ仕上ケタルモノナルヲ以テ萬已ヲ得サル部分ノ外ハ迂曲セサル樣ニ設計シタルモノナリ

前田ハ名村ト異種同效ノ當場勞效者中ノ一人ニシテ共ニ特筆大書スヘキアル殖育場ノ一大記念人物ナリ而シテ名村ノ特色性情ハ前條ノ如シ前田ノ方ハ名村ノ奇骨稜々意氣鬱勃各殊彫蟲ノ細技ニ亙リテ耐能ナルト趣ヲ異ニシ前田ハ多年ノ間土木事業ニ從事シ各殊ノ工學專門技師ノ部下ニアツテ多大ノ薰陶ヲ受ケ來リシヲ以テ道路開鑿橋梁架設其他ノ工事ニ關スル特能ヲ有シ常ニ名村ト對照シテ異彩ヲ放チ兩人共力ノ勞績亦多大ナリ前田ハ顏ル口才アリ能ク談話ニ長ス故ニ當場事業ニ關シ外部ニ對スル交涉事件ハ同人ノ最モ得意トスル所ナリ故ニ人稱シテ前田全權大使ノ綽名ヲ下シ居タリ

(六)中島信政

中島氏ハ當場前會計主任野村文次ノ後任者ニシテ野村氏カ前ニ恒春廳會計官吏種畜場及當場會計主任ヲ辭職シ歸國スルニ當テヤ中島信政氏斯道熟練家ナルノ故ヲ以テ選拔ヲ受ケ新ニ赴任スルコトト成レリ著任後數箇月間ハ野村屬ト共ニ同席シテ從來ノ事務ヲ受繼キ野村氏去ルノ後ハ中島氏ハ種畜場本務ニテ當場ハ兼任タリ而シテ恒春ハ廢廳後ナルヲ以テ關係ナシ種畜場ノ會計事務ハ中島氏赴任後一層整備シテ鉄序立チ來リ當場會計事務及ヒ日常ノ雜務ハ梁瀬氏アリト雖モ豫算編成會計主查等ニ關スル事務ハ依然トシテ嚴正ヲ保タレツツアリ且爲人嚴正直實ニシテ眞正會計官吏タルノ天性天才ヲ享有スルヲ以テ其範圍外ノ人ヨリ之ヲ視ルトキハ頗ル窮苦ノ感ニ堪ヘサルモノモアリ又時々ハ理否判斷ノ見解上思掛ナキ爭論ヲ惹起ス等ノ事生スルハ亦會計規則ノ保持上嚴正中立ノ結果已ムヲ得サリシコトモアリシナラン卽會計主任者ノ免レ難キ貧乏圈ニシテ斯クテコソ僻遠地特設事業ノ獨立嚴正亦無難ニ保タレ行ク所以ナリ

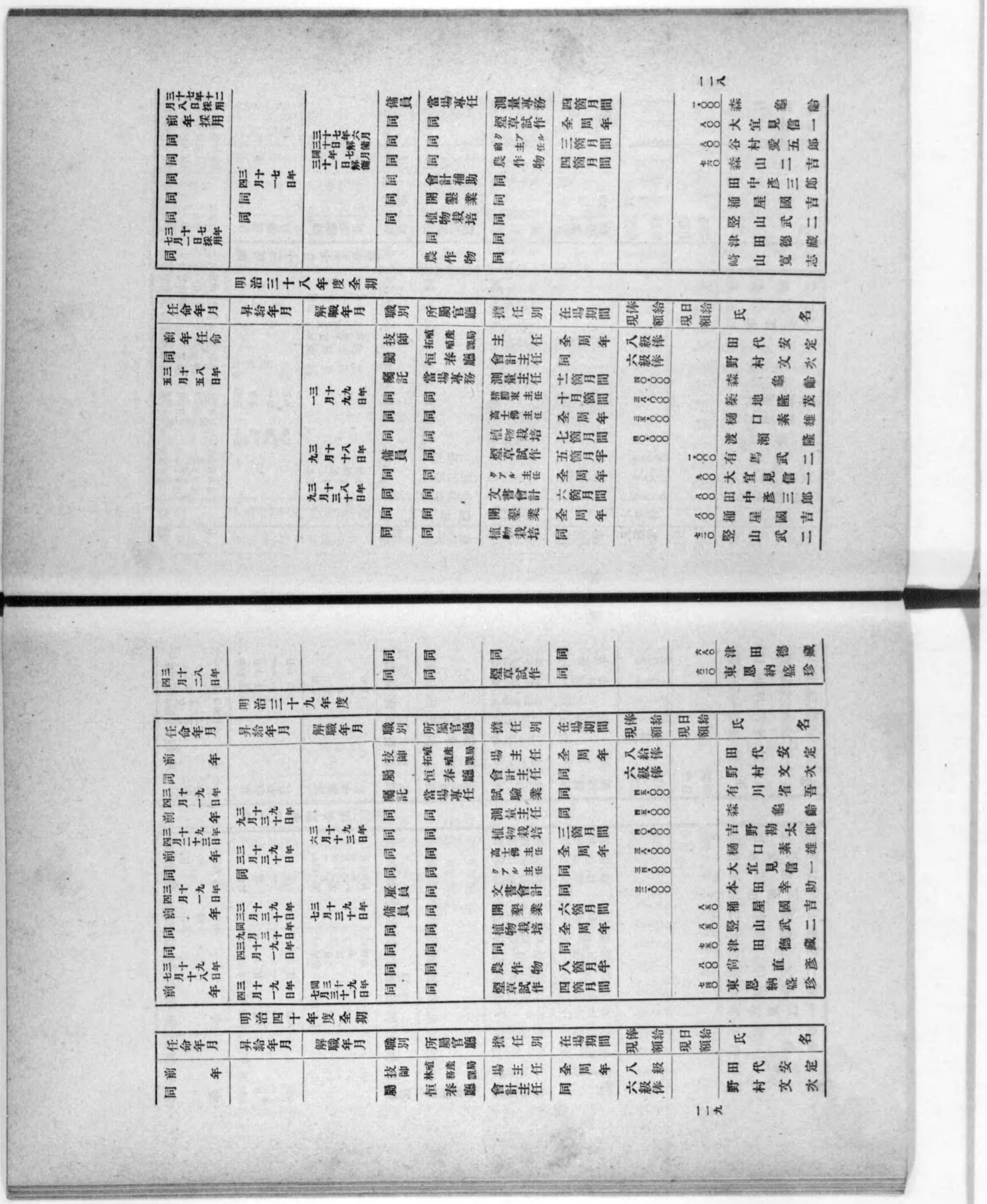
恒春熱帶植物殖育場創設後場員異同一覽表

明治三十四年後半期

氏名	日給現額	俸給現額	在職期間	擔任別	所屬官廳	職別	昇給年月	解職年月	任命年月
田代安定			三箇月在職	事業監督會計主任兼務	恒春廳屬殖産局苗圃係	技師			明治三十四年十一月出張同年十一月任
野村文次		九級俸	全期間	植物栽培三箇月間在職		屬			同年十一月出張同時出張月日
吉野勘太郎		三五・〇〇〇	三箇月在職	庶務會計	全周年	囑託			同年十一月十三日採用
築地隆茂		一・〇〇〇	同	植物栽培	同	傭員			同年十一月十一日採用
秋廣助市		七〇〇	同	開墾測量	同	當場專務			同年十一月十一日採用
鈴木末藏		六五〇	同		同	同			同年十一月十一日採用

明治三十六年度全期

任命年月	昇給年月	解職年月	職別	所属官廳	擔任別	在場期間	現俸額給	現日額給	氏名
一同日圖採同採同採同三前一三前採三十前日同十同三明治 年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年 日十採一採八月月六月三十五年四年月月採採入月月月月 採月用十用六用日用日用日用月用月用月用月用月用月用	昇同年 四給月	同日 解備	同同 解備	同同同同同同同同同同同同	同及園藝業	四八二八七全六箇箇箇月月月間間間		五四〇 五四〇	竪豎田河森谷谷秋刈鈴掘築翹野田 山島野川村廣役木地口村代 武雲石衛愛助之末虎隆素文安 二元門吉貢郎市助藏輔茂雄次定
明治三十六年度全期									
昇同年 四給月	昇三十五年九給月	解同北年歸六府月	技師	林業務係	事業監督	四箇月間			
同一三十五年解備	同	同	同	同	同	同			
同



任命年月	昇給年月	解職年月	職別	所屬官廳	擔任別	在場期間	現俸額給	現日額給	氏名
同前年	明治四十年度全期		屬技師	恒林殖產兼務廳農商局	會場主任	同全周年	六級俸	三〇〇〇	野田村代文安次定
前七三同同同同前四三同前 月十 十八九 年日年			同同同同同屬託	同同同同同當場事務	同同同同同同同同同同	四八同全五箇月間	同同同同同同	三〇〇〇	東荷津竪楯本大楯吉森有野田 恩田山屋田宜口勘省文安 納直德武國幸信尖 盛見龜 珍彥藏二吉助一雄郎齡吾次定
四三月十二八日年	明治三十九年度		同同	同同	燃同煙草試作	同同		三〇〇	東津恩田納德盛珍藏

任命年月	昇給年月	解職年月	職別	所屬官廳	擔任別	在場期間	現俸額給	現日額給	氏名
同前	四四	轉五月十一日任	同同同	同同同	高等農林學校教諭	同同同	同同同	前名津堅	麵有中稻野田
同六同五四同前	四四		囑託	當場事務取扱	試驗係長	全一箇月	六級俸	神梁樋	口川村村村代
月三十一	月十		同同同	恒林業務産課局	會計主任	同五箇月餘	三〇〇〇〇	昇梁樋	瀬
十一	一二		同同同	常場事務取扱	試驗係長	全一箇月	三〇〇〇〇	中稻野田	村田山谷
年日年	日年		雇員	同同同	植物栽培	全周年	三〇〇〇〇	梁樋	川口村村村代
同前	四四	十四年一月十三日	同同同	同同同	高等農林學校教諭	同同同	同同同	前名津堅	麵有中稻野田
同六同五四同前	四四		囑託	當場事務取扱	試驗係長	全一箇月	六級俸	神梁樋	口川村村村代
月三十一	月十		同同同	恒林業務産課局	會計主任	同五箇月餘	三〇〇〇〇	昇梁樋	瀬
十一	一二		同同同	常場事務取扱	試驗係長	全一箇月	三〇〇〇〇	中稻野田	村田山谷
年日年	日年		雇員	同同同	植物栽培	全周年	三〇〇〇〇	梁樋	川口村村村代

任命年月	昇給年月	解職年月	職別	所屬官廳	擔任別	在場期間	現俸額給	現日額給	氏名
同前	四四	轉五月十一日任	同同同	同同同	高等農林學校教諭	同同同	同同同	前名津堅	麵有中稻野田
同六同五四同前	四四		囑託	當場事務取扱	試驗係長	全一箇月	六級俸	神梁樋	口川村村村代
月三十一	月十		同同同	恒林業務産課局	會計主任	同五箇月餘	三〇〇〇〇	昇梁樋	瀬
十一	一二		同同同	常場事務取扱	試驗係長	全一箇月	三〇〇〇〇	中稻野田	村田山谷
年日年	日年		雇員	同同同	植物栽培	全周年	三〇〇〇〇	梁樋	川口村村村代

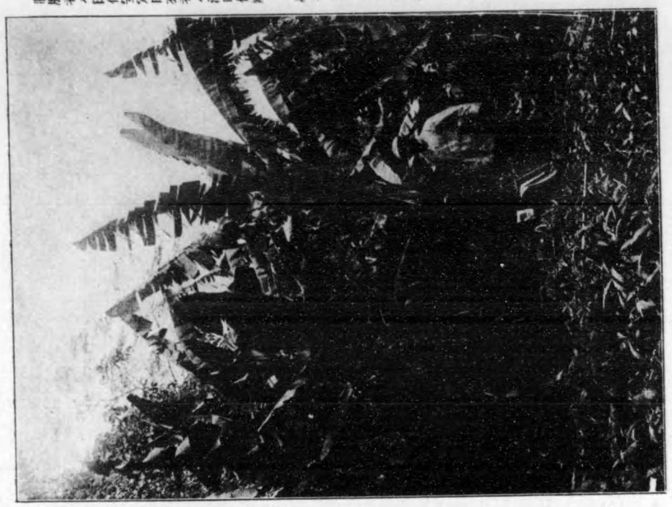
任命年月	昇給年月	解職年月	職別	所屬官廳	擔任別	在場期間	現俸額給	現日額給	氏名
同前	四四	轉五月十一日任	同同同	同同同	高等農林學校教諭	同同同	同同同	前名津堅	麵有中稻野田
同六同五四同前	四四		囑託	當場事務取扱	試驗係長	全一箇月	六級俸	神梁樋	口川村村村代
月三十一	月十		同同同	恒林業務産課局	會計主任	同五箇月餘	三〇〇〇〇	昇梁樋	瀬
十一	一二		同同同	常場事務取扱	試驗係長	全一箇月	三〇〇〇〇	中稻野田	村田山谷
年日年	日年		雇員	同同同	植物栽培	全周年	三〇〇〇〇	梁樋	川口村村村代

明治四十

第十一號圖

マニラ麻產地移植マニラくゝメアス及ベナマ朝衣繊維ノ現況同アバカ標品ハ九尺一寸強一束合量一束台湾國中部蕃人ノ田畑繞圍ノアバカ

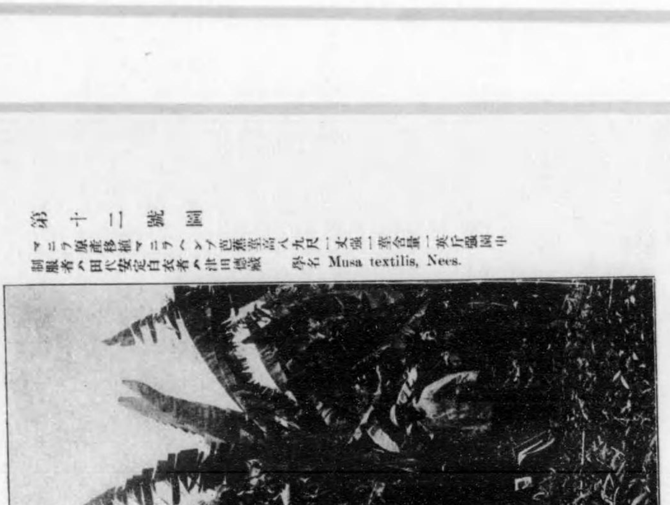
學名 Musa Textilis, var. Tashiroi Hay



第十二號圖

マニラくゝメアス及ベナマ朝衣繊維ノ現況同アバカ標品ハ九尺一寸強一束合量一束台湾國中部蕃人ノ田畑繞圍ノアバカ

學名 Musa textilis, Nees.



氏名	現在地	職務	任命年月	異動年月	解職年月	摘要
森儀次	○○	技師	同四十四年十二月	同四十五年一月		
原友治	○○	同	同	同		
河田德藏	○○	雇員	同四十四年十月	同四十五年一月		
尾藤鐵雄	○○	同	同	同		
佐谷重喜	○○	同	同	同		
神川彥三郎	○○	同	同	同		
栗原三郎	○○	同	同	同		
小野辰治	○○	同	同	同		
中村時雄	○○	同	同	同		
稻島信安	○○	同	同	同		
中代定	○○	同	同	同		
森儀美	○○	同	同	同		

明治四十三年度全期

職俸額給	在勤期間	摘任狀況	會計事務	氣象觀測
○○○	三箇月間	會計主任	會計補助	氣象觀測
○○○	全一箇年	試驗係長	試驗係	會計補助
○○○	同	植物園掛長	試驗係	會計補助
○○○	同	庶務會計	試驗係	試驗補助
○○○	同	試驗係	會計補助	氣象觀測
○○○	十箇月間	同	同	同
○○○	三箇月間	植物栽培	同	同
○○○	同	同	同	同
○○○	全一箇年	氣象觀測	同	同
○○○	九箇月間	同	同	同
○○○	全期間	同	同	同

任命年月	異動年月	解職年月	摘要
同四十四年二月	同四十五年一月二十八日		
同	同		
雷場事務	雷場事務		
同	同		
氣象觀測	氣象觀測		
會計補助	會計補助		
試驗補助	試驗補助		
同	同		
在勤期間	在勤期間		
三箇月間	三箇月間		
全一箇年	全一箇年		
同	同		
同	同		
同	同

第三章　諸帳簿書臺帳編成ニ關スル事歷

明治三十五年度ヲラソ母樹園創設ノ際ハ小官モ尙臺北ニ在リテ殖産局擔當ノ本務ニ從事シ其傍ラ恒春ニ出張シ卽双方掛持時代ニシテ日常ノ業務ハ他ノ場員中ニ毎時設計案ヲ授ケテ實地ニ施行セシメ會計事務ハ恒春廳屬野村文次氏當場會計前渡官吏ノ故ヲ以テ全部同氏ニ委任シ其補助員トシテ場員築地隆茂樋口素雄諸氏ヲシテ場內庶務會計ノ常務ヲ擔當セシメ當時ハ蕃地開墾草創ノ際ニシテ諸員晝夜其外業ニ從事シ寸暇ナキ央ハニシテ本局ヲ除クノ外他ノ官廳トモ書類往復ノ事項尠ク文書事務ハ尙簡單ナリシナリ此際ヨリシテ小官ハ朝夕書類ノ編成ニ焦慮シ差向キ

(一)事務日誌
(二)臨時人夫日誌及檢印簿
(三)氣象觀測表
(四)書類發著檢名簿
(五)施業日誌
(六)種苗購入簿

等ヲ調成シ日常應急ノ用ニ充ル丈ケノ端緒ヲ開キ置キ翌三十六年度港口事業監督室開設後漸次書類ノ整備ニ著手シ種々ノ意匠ヲ凝ラシテ苗木臺帳、植栽品臺帳、植物栽培日誌、人夫使用內規綴等ヲ編成シ同年度末元臺中農事試驗場書記タリシ吉川田鶴治郎氏ヲ新ニ當場ノ文書會計常務主任トシテ採用セシ以來同氏ノ創意ニ依リ純正ノ會計事務ヲ場內ニ於テ十分施行シ得ル樣ニ成リ恒春廳野村

(一)一般人夫使用心得
(二)(一)恒久的苗木植栽ノ注意
(三)(二)種苗及植物ノ荷造
(四)(三)諸帳簿ノ記入
(五)(四)生産物品受拂簿
(六)(五)植栽苗木及植物ノ内容日誌
(七)(六)恒久的苗木植栽ノ注意
(八)(七)人夫使役決裁簿
(九)(八)臨時人夫消耗品保管簿
(一〇)(九)恒久的苗木植栽ノ注意
(二)(一〇)同苗圃育場設計概要
(三)(二)同苗圃育場帳簿ノ記入
(三)同苗圃育場内植物概況並ニ植物総目録

(一)一般人夫使用心得
(二)種苗及植物荷造
(三)諸帳簿ノ記入
(四)生産物品受拂簿
(五)植栽苗木及植物内容日誌
(六)恒久的苗木植栽ノ注意
(七)人夫使役決裁簿
(八)臨時人夫消耗品保管簿
(九)恒久的苗木植栽ノ注意
(一〇)同苗圃育場設計概要
(二)同苗圃育場帳簿ノ記入
(三)同苗圃育場内植物概況並ニ植物総目録

(一)一般人夫使用心得
(二)恒久的苗木植栽ノ注意
(三)種苗及植物荷造
(四)諸帳簿ノ記入
(五)生産物品受拂簿
(六)植栽苗木及植物内容日誌
(七)恒久的苗木植栽ノ注意
(八)人夫使役決裁簿
(九)臨時人夫消耗品保管簿
(一〇)諸報告並ニ諸表簿ノ作製
(一一)生産物引渡ニ関スル注意
(一二)諸帳簿ノ記入
(一三)諸報告並ニ諸表簿ノ作製
(一四)生産物引渡ニ関スル注意
(一五)人夫使役決裁簿
(一六)臨時人夫消耗品保管簿
(一七)人夫使用内規
(一八)恒久的苗木植栽ノ注意
(一九)同苗圃育場設計概要
(二〇)同苗圃育場帳簿ノ記入
(二一

第一節　人夫使用內規竝同編成ノ事由

當場ノ作業人夫ハ普通土人生蕃人平埔種族卽熟蕃人中ヨリ募集シテ使用シ來レルモノニシテ內地人夫ヲ使用スル場合ハ極テ稀少ナリシナリ而シテ其賃錢ハ最初ヨリ敢テ人族ニ關セス專ラ技能ノ巧拙勤惰年齡男女ノ別ニ依テ等差ヲ制定シ生蕃人モ普通土人モ全ク同一取扱ノ下ニ使役スルノ新習慣ヲ養成シ創設ノ當初ヨリ此方法ニテ意外ノ好成績ヲ收メ來レリ

恒春地方ハ元ト人煙稀疎土地未開所謂蠻獰雜處ノ鄉ニシテ土人部落中ニ生蕃種族ノ混住スル者アリ又蕃社中ニ普通土人ノ寄住スル者アリテ其風俗モ相混錯シテ雜婚ノ結果混血人種亦寡カラス隨テ其性質モ他ノ地方ト趣ヲ異ニシ普通土人モ所謂蕃化シテ生蕃氣質ヲ具フル者アリ生蕃人モ土人氣質ニ化成シ居ル者アリ生蕃人ニ就テ言フトキハ高士佛牡丹社八瑤社等ハ純粹ノ生蕃人ニシテ慓悍ノ天性ハ依然トシテ脫化セス往々頑兇ニシテ難題ヲ釀起スルコト尠カラス鵝鑾鼻庄墾丁蓼北東位山巓ニ古來占住セルクアル社蕃ハ其四邊土人部落ヲ以テ包圍サレ居ルモ其人種風俗共純然タル生蕃人ノ古風ヲ現存シ慓悍ノ氣性中ニ敦惇質實ノ美風ヲ具ヘ競爭心ニ富ンテ作業人夫ニ最モ適シテラソ蕃ハ智識ノ發達ヲ以テ其特長點ト爲シ阿眉蕃ハ戇愚魯直ヲ以テ人ニ輕侮サルルモ當場作業人夫トシテハ殊效ヲ奏セシコトアリ舊來臺灣ノ積弊トシテ小官等ノ深ク嗟慨ニ堪ヘサル事ハ生蕃人ハ其心情圖ルヘカラサルモノトノ疑懼心ニ驅ラレ一ニ渠等ノ歡心ヲ沽フヲ主トスルノ餘リ彼ヲ使役スルニ或ハ酒食物品ヲ給シ或ハ其勞働賃額ヲ一日圓銀一枚若クハ五十錢ト爲シ恰モ賄物ニ觸ルルカ如ク優遇鄭重其度ニ過クルモノ尠カラス故ニ當場ニ於テハ決然此弊習ヲ矯正スルノ意ヲ兼テ生蕃人夫丁年者ノ日給ハ普通必ス二十五錢ト爲シ其女子ハ十八錢乃至二十錢兒童ハ十五錢以下ト爲シ而シテ特別ノ技能アル者及多日間使役シテ拔群ノ殊功ヲ累ヌル者ハ漸次三十錢以上ニ增給スル新慣例ヲ實行スルコトト爲セリ

恒春地方ノ土人部落ハ福州人(卽北路人)ト廣東人ト平埔卽熟蕃人種族トノ三部落ヨリ成リ民家各所ニ散點シテ大部落ヲ爲スモノ尠シ而シテ其平素ノ職業ハ農耕牧畜ニシテ沿海ノ地ハ漁業ヲ兼ネ商業者及苦力專業ノ者ハ稀少ナリ故ニ當場創設ノ際ハ專ラ生蕃人ヲ使役シ普通土人苦力ノ募集ニ一時頗ル困苦セリ然レトモ場員勸誘勤勉ノ結果僅少時日中ニ土人夫募集ノ目的ハ意ノ如ク進行シ得ルニ至レリ

右人夫ハ作業ノ繁閑ニ由リ隨時多寡伸縮スルモノニシテ大抵年度初ニ於テ一年中ノ使用額ヲ豫定シ置キ月々實地ノ設計案ヲ調成シ是ニ準シテ人夫ヲ募集スルコトトナシ凡テ臨時人夫ニシテ最初ノ間ハ一般ニ園丁ナカリシヲ以テ其代リニ最優等成績ノ者ノミヲ選拔シテ常備人夫ト爲シ園丁同樣ノ取扱ヲ爲シ來レリ又日々人夫ヲ使用スルニハ會計官吏ニ於テ別ニ人夫臺帳ヲ調成シ是ニ附屬スル一種ノ人夫牌札ヲ各自ニ交附シ使用ノ日毎ニ之ヲ檢查シテ捺印シ以テ之ヲ一ノ證券ニ充テ恰モ出勤簿ニ等シキ效力アルモノト爲セリ

小官ハ平素事業經營ノ傍ラ當場事務室備付用ノ諸帳簿ノ編成ニ種々意匠ヲ凝セシコト前ニ述ヘシ通リニシテ其中ニ人夫使用內規ナルモノヲ編成シ是ヲ謄寫版ト爲シ場員ニ交付シテ各自其條項ニ依リテ取扱ヒツツアリシナリ而シテ明治三十七年頃ニ至リ臺灣人勞働問題ナルモノ新聞紙上其他法律專門家ノ間ニ起リ其結果三十八年二月殖產局所轄各事業地ニ人夫規程施行ノ通達アリ便チ舊

來ノ原稿ヲ更ニ修正增補シテ一冊子ト爲シ三十八年三月三十一日付ヲ以テ殖產局長ニ提出シ是ニ副申書ヲ附シ參事官室ニ於テ可然相當修正ヲ加ヘラレタル上裁可アランコトヲ要求セリ而ルニ理想外ニ文字條項ノ修正點殆ントナクシテ畧ホ原案通裁許ヲ受ケ三十八年度ノ初期ヨリ此規程通實行スルコトト成リ併テ舊來ノ常傭人夫ニ對シ園丁ノ名稱ヲ附シ各新ニ辭令書ヲ交付セリ卽其人夫使用內規ノ寫ヲ左ニ登錄ス

恒春熱帶植物殖育場人夫使用內規

第一項　總則

第一條　恒春熱帶植物殖育場ニ於テ使役スル人夫ハ左ノ人族ニ就テ採用ス

一普通臺灣土人及熟蕃平埔種族

一生蕃人及化蕃人

一內地人

第二條　右各人族ニ對シ內地人ヲ除クノ外ハ普通臺灣土人生蕃人皆同一制裁ノ下ニ屬シ敢テ人族ニ就テ區界ヲ設ケス各其技能ニ相當スル作業ヲ營マシム

第三條　當場使用ノ人夫ニ對シ日々ノ事業時間ヲ定ムル左ノ如シ

事業時間

一自一月至三月

午前七時三十分起業午後五時終業

自正午至午後一時二十分食事休憩

午前十時及午後三時各五分間ツヽ小憩

此期間ニ於テハ一日中ノ使用總時間九時三十分間ニシテ食事休憩一時二十分間兩度ノ小憩十分間ヲ差引就業時間正八時間平均トス

一自四月至九月

午前七時起業午後五時三十分終業

自正午至午後一時四十分食事休憩

午前十時及午後三時各十分間ツヽ小憩

此期間ニ於テハ一日中ノ使用總時間十時三十分間ニシテ食事休憩一時四十分間兩度ノ小憩二十分間ヲ差引就業時間正八時間平均トス（炎暑ノ爲メ休憩時間ヲ長クス）

一自十月至十二月

午前七時三十分起業午後五時終業

自正午至午後一時二十分食事休憩

午前十時及午後三時各五分間ツヽ小憩

此期間ニ於テハ一日中ノ使用總時間九時三十分間ニシテ食事休憩一時二十分間兩度ノ小憩十分間ヲ差引就業時間正八時平均トス

備考

右時季ニ應シテ人夫使役時間ノ伸縮ヲ爲ス所以ハ日出日沒時刻ノ變差ニ基キ起算スルモノニシテ日々一里以外ノ遠路ヲ往復シテ就役スル人夫多キ地方ナルヲ以テ凡ソ日出後一時間日沒前三

十分間ノ餘地ヲ留メ一ハ人員及業具點檢ニ窮苦ヲ感セサラシメンカ爲メトシ一ハ各自健康上ノ平均ヲ保チ疾病缺役者ヲ生セサラシメンカ爲ナリ自十月至一月間日沒五時ナルモ五時終業ト爲セリ）

第四條　當場ニ使役スル人夫ヲ別テ常傭人夫及臨時人夫ノ二種トナス

第二項

第五條　常傭人夫採用ノ際ハ確實ナル身元保證人ヲ立テ各自辭令ヲ交付スヘキ事

但辭令ハ場名ヲ以テスヘキ事

第六條　常傭人夫ニ對シテハ一定ノ勤怠簿ヲ備ヘ日々之ニ捺印セシムヘキ事

第七條　常傭人夫ハ一般ニ通シテ園丁ノ名稱ヲ附シ其等差ヲ定ムル左ノ如シ

一等園丁
二等園丁
三等園丁

第八條　常傭人夫ノ日給賃額ヲ別テ左ノ四等ト爲ス

特等日給乙四十錢及甲四十五錢
一等日給乙三十錢及甲三十五錢
二等日給乙二十五錢及甲二十七錢
三等日給乙十八錢及甲二十錢

特等日給ハ多年間常傭人夫トシテ特別ノ勞功ヲ累ネ拔群ノ技能ヲ有スル者若クハ此ニ相當スヘキ經歷資格ヲ有シ普通常傭人夫ト全ク同一ニ伍シ難キモノニ限ル

但一等園丁ヨリ此ニ昇給スルヲ得

一等日給ハ卽チ平常一等園丁ニ對スル賃銀ニシテ是ニ相當スヘキ人夫ハ性行端正ニシテ拔群ノ技能ヲ有シ且勞功ヲ累ヌル者若クハ當場事業區域內ノ監守ヲ兼ネ僻遠ノ地ニ苦難ヲ冒シ場內ニ宿泊寄住スル者若クハ是ニ相當スル經歷資格ヲ有スル者若クハ勞働ノ種類ニ因リテ是ニ充ツヘキ者アリ之ヲ甲乙二級ニ別ハ技能ノ優劣及ヒ勞功ニ關シテ其必要ヲ生スルモノナリ

二等日給ハ當場人夫賃ノ普通額ニシテ二等園丁ノ給料是ニ準ス之ヲ甲乙二級ニ別ハ前同例ニ依ル

三等日給ハ專ラ年齡二十歲未滿ノ者若クハ二等ニ次ク者ニ對スル賃銀ニシテ三等園丁ノ給料是ニ準ス之ヲ甲乙二級ニ別ハ前同例

第九條　常傭人夫ノ給料支給方法ハ明治二十九年五月訓令第十九號規則ニ依ル前項ノ規定ニ依ラサル場合ニ於テハ豫メ認可ヲ受クヘシ

第三項　臨時人夫

第十條　當場ニ於テ臨時人夫ヲ使用スル場合ハ別ニ供給請負人ヲ定メ期間契約ノ方法ニ依ラス其必要ノ都度外來ノ人夫ヲ直接採用シ此ニ對スル方法ヲ設クル左ノ如シ

第十一條　臨時人夫ノ賃銀ヲ別テ左ノ四等ト爲ス

一等日給乙三十錢及甲三十五錢
二等日給乙二十五錢及甲二十七錢

三等日給乙十八錢及甲二十錢
四等日給乙十錢及甲十五錢
右一等日給ハ臨時人夫中多年ノ勞功ヲ累ネ拔群ノ技能ヲ有スル者若クハ作業ノ種類ニ依リテ是ニ準シ之ヲ甲乙二級ニ別ハ技能ノ優劣若クハ勞功ニ依リテ其必要ヲ生スルモノトス
二等日給ハ卽普通一般ノ勞役ニ從事スル者ノ賃錢ニシテ是ヲ甲乙二級ニ別ハ技能ノ優劣若クハ勞働ノ種類若クハ勞功ニ依リテ其必要生スルモノナリ
三等日給ハ專ラ女人夫ニ對スル賃銀ニシテ男人夫ニアリテハ年齡二十歲未滿ノ者若クハ技能二等人夫ニ次ク者是ニ準シ之ヲ甲乙二級ニ別ハ前同例ニ依ル
四等日給ハ男女ヲ通シテ專ラ年齡二十歲未滿ノ者若クハ技能三等人夫ニ次ク者是ニ準シ之ヲ甲乙二級ニ別ハ前同例
運搬人夫及業具携帶者ニ對シテハ右賃銀等差額ノ範圍ヲ以テ律シ難キモノアリ故ニ更ニ左條ヲ設ケ之ヲ規定ス

第十二條　臨時人夫中業具携帶者ニ對スル賃銀標準ヲ設クル左ノ如シ

甲種日給乙四十錢乃至甲五十錢
(一)牛馬耕具ヲ携帶シ親ラ其作業ニ從事スルモノ
(二)工匠器具ヲ携帶シ親ラ其作業ニ從事スルモノ
(三)大工職若クハ他ノ專業者ヲ特ニ傭入ルル際
乙種日給丙二十七錢乃至乙三十錢及甲三十五錢
(一)牛馬耕具ヲ携帶シ親ラ其作業ニ從事スル者ニシテ甲種ニ次ク賃價契約ノ成立ノ際若クハ是ニ相當スル作業ノ種類ニ依ル場合
(二)工匠器具ヲ携帶シ親ラ其作業ニ從事スルモノニシテ甲種ニ次ク賃價契約ノ成立場合
(三)大工職若クハ他ノ專業者ヲ特ニ傭入ルル際特ニ此賃價契約成立ノ場合
(四)開墾整地植樹業其他事業ノ種類ニ依リ特ニ業具携帶ノ直接契約成立ノ場合
右賃價ヲ一定セサルハ甲種賃銀備考欄內ト同一例ノ事情ニ依ル

第十三條　普通臨時人夫ニシテ地方習慣ノ山刀鎌鍬鋤其他通常作業ノ爲メ其一身ニ附屬スル輕易ノ器具ヲ便宜上隨時携帶スル場合ハ本項ノ第十條規定ノ範圍內ニ屬シ第十一條ノ特別業具携帶者ノ規定ニ依ルノ限リニアラス

備考
本條ノ種類ノ者ニ對シ特ニ業具携帶者ノ列ニ加フル時ハ地方習慣ニ伴ハサルノ不便アルノミナラス是ニ依テ生スル人夫賃銀ノ不利弊害圖ルヘカラサルニ至ル故ニ此種ノ業具携帶ハ本項

器具ヲ携帶スルカ故ナリ

備考
右賃銀ヲ一定セサルハ其者ノ技能優劣傭入契約ノ際隨時賃價ヲ約定スルハ經濟上ニ於テ大ニ必要ノ關係アレハナリ故ニ此賃價ハ四十錢ヨリ五十錢ノ範圍內ニ於テ傭入ノ都度適宜約定スヘキモノトス

乙種日給丙二十七錢乃至乙三十錢及甲三十五錢
(一)牛馬耕具ヲ携帶シ親ラ其作業ニ從事スル者ニシテ甲種ニ次ク賃價契約ノ成立ノ際若クハ是ニ相當スル作業ノ種類ニ依ル場合
(二)工匠器具ヲ携帶シ親ラ其作業ニ從事スルモノニシテ甲種ニ次ク賃價契約ノ成立場合
(三)大工職若クハ他ノ專業者ヲ特ニ傭入ルル際特ニ此賃價契約成立ノ場合
(四)開墾整地植樹業其他事業ノ種類ニ依リ特ニ業具携帶ノ直接契約成立ノ場合
右賃價ヲ一定セサルハ甲種賃銀備考欄內ト同一例ノ事情ニ依ル

第十三條　普通臨時人夫ニシテ地方習慣ノ山刀鎌鍬鋤其他通常作業ノ爲メ其一身ニ附屬スル輕易ノ器具ヲ便宜上隨時携帶スル場合ハ本項ノ第十條規定ノ範圍內ニ屬シ第十一條ノ特別業具携帶者ノ規定ニ依ルノ限リニアラス

備考
本條ノ種類ノ者ニ對シ特ニ業具携帶者ノ列ニ加フル時ハ地方習慣ニ伴ハサルノ不便アルノミナラス是ニ依テ生スル人夫賃銀ノ不利弊害圖ルヘカラサルニ至ル故ニ此種ノ業具携帶ハ本項

規定ニ於テ除外セサルノ已ムヲ得サルモノナリ

第十四條　物品運搬ノ爲メ特ニ人夫ヲ使役スル場合ハ地方廳定ムル所ノ賃銀ニ準シ臨時人夫規程ノ範圍外ニ屬スルヲ常トスト雖當場區域内日常作業ニ伴フ運搬人夫ノ賃銀ニ於テハ本項第十條臨時人夫賃銀範圍内ニ屬スヘキモノトス

第十五條　臨時人夫ニシテ作業一日ニ滿タサル者及是ニ相當スル場合ノ賃銀歩合ヲ定ムルコト左ノ如シ

(一)作業半日ニ亙ルモノハ各自其日給額ノ二分ノ一ヲ以テ之ヲ支給ス

(二)作業ノ都合上特ニ時間ヲ限リ使役ヲ要スル場合若クハ疾病或ハ私用ノ爲メ休業スル者ハ一時間ニ對シ其日給額ノ八分ノ一ヲ以テ算出シ就業時間相當ノ割合ヲ以テ支給ス

但シ左ノ場合ニ於テハ特ニ狀情ヲ斟酌スルコトアルヘシ

(一)作業中一時避雨ノ爲メ若クハ他ノ變災ノ爲メ一時避難スル場合

(二)作業ノ爲メ負傷ヲ生シ若クハ疾病ヲ引起シタル場合

(三)作業半日以上ニ亙リ事業上ノ都合ニ依リ特ニ休業ヲ命シタル場合

第十六條　以上諸例ノ外左ノ樣式ニ依リ臨時人夫使用日記簿及檢印簿ヲ調製シ且其人夫員數賃銀及使用事由等ヲ明細ニ記載スヘキ事

臨時人夫日記簿樣式(甲)

明治三十年　月　日

勞働種別	勞働人員					賃銀等別	合計	備考
	三五〇	三〇〇	二七〇	二五〇	二〇〇	一八〇	一五〇	一〇〇		
整地										
除草										
何々										
同										
同										
右賃銀計										

第十七條　當場使用ノ臨時人夫一般ニ對シ左ノ雛形ニ準スル一定ノ牌札ヲ交付シ以テ他ノ人夫通帳ニ代ヘ作業監督者ハ日々此牌札面ニ檢印ヲ行ヒ以テ賃銀仕拂ニ關スル證據物件ニ充ツヘキ事

但此牌札ハ一箇月毎ニ新陳更換ヲ行フヘキモノトス

表面

番號	種別	人夫之證
	監督者印	恒春熱帶植物殖育場
	街庄社名	
	字地番號	
	姓名	
	年齡	
	使用年月	

裏面

一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日
九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日
十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日
廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	廿一日	年月
						明治年 月	

第二十條　負擔セシムル作業上ノ必要ニ依リ常傭人夫及臨時人夫中ヨリ特ニ人夫伍長ヲ設ケ左ノ名譽的義務ノ

(一)其配置ヲ受クルヘキ作業地ニ於ケル他ノ人夫ヲ代表シ事業監督主務者ノ示命事項ヲ傳令シ其

(二)意旨ノ貫徹ヲ勉ムルコトヲ必要トス

(三)他ノ作業人夫ヲ監視シ諸般ノ風紀取締ニ關スル事

(四)其作業地ニ於テ緊急手段ヲ行フノ不時勞働ノ出來ニ共ニ其事務方面ニ於ケル他ノ人夫ヲ指揮スル事

(一)常傭人夫伍長ニ準シ常傭人夫伍長ヲ別テ中ニテ是ニ適スル者ニ就テ選定シ採用ノ際其旨ヲ記載シ臨時人夫伍長及臨時人夫ノ種類ニ關セス監督者ニ其示命事項ヲ監督者ニ通スル爲メ隨時人夫作業總代人ニ就テ諸作業人夫ノ一種トス

(二)常傭人夫伍長ハ常傭人夫ノ中ヨリ臨時人夫伍長ハ臨時人夫ノ中ヨリ夫々適當ノ者ニシテ其親ラ勞働ニ服セシメ

(三)常傭人夫伍長ハ常傭臨時ノ兩機關ヲ以テ行フ即チ其仕拂ノ際各一日分ノタルヘキモノニ此標印ヲ押捺シ

(一)甲號印章ハ常傭人夫伍長ニ交付スル常傭人夫即チ園丁ノ中ニテ常傭人夫伍長ヲ別テ常傭人夫伍長及臨時人夫伍長ノ二種トス

(二)乙號印章ハ常傭人夫伍長ニ交付スル常傭人夫即チ園丁ノ中ニテ常傭人夫伍長ヲ別テ常傭人夫伍長及臨時人夫伍長ノ二種トス

(三)丙號印章ハ常傭人夫伍長ニ交付スル常傭人夫即チ園丁ノ中ニテ常傭人夫伍長ヲ別テ常傭人夫伍長及臨時人夫伍長ノ二種トス

第十八條　本項第十七條ニ規定スル所ノ臨時人夫使用札ニ對シ印章ヲ設ケル左ノ如シ

甲　朱肉　角五分二厘　使

乙　黑肉　分三厘　消

丙　ターサス大　牛

丁　ターサス大　時

第十九條　常傭人夫及臨時人夫ノ中ニ於テ第四項雜則ニ對シ此標印ヲ使用スル爲メ以テ行フ即チ各日給一日分ノタルヘキモノニ此標印ヲ押捺シ

(一)甲號印章ハ常傭人夫伍長ニ交付スル常傭人夫即チ園丁ノ中ニテ常傭人夫伍長ヲ別テ常傭人夫伍長及臨時人夫伍長ノ二種トス

(二)乙號印章ハ常傭人夫伍長ニ交付スル常傭人夫即チ園丁ノ中ニテ常傭人夫伍長ヲ別テ常傭人夫伍長及臨時人夫伍長ノ二種トス

(三)丙號印章ハ常傭人夫伍長ニ交付スル常傭人夫即チ園丁ノ中ニテ常傭人夫伍長ヲ別テ常傭人夫伍長及臨時人夫伍長ノ二種トス

(四)丁號印章ハ

第二十二條　人夫伍長ニ對シテハ其名義ニ關スル賃銀ヲ別ニ支給セス左ノ標準ニ依リテ施行スヘキモノトス

常備人夫伍長ハ專ラ二等園丁以上賃銀高給者中ニテ之ニ充テ凡ソ二等園丁以上ノ辭令ヲ交付スヘキ人夫ハ多ク右人夫伍長ニ相當スル者ヲ以テ其一等園丁ナル者ハ皆此人夫伍長トシテ採用スルモノニ外ナラス

臨時人夫伍長ハ常備人夫伍長ニ比スレハ其責任自ラ輕ク專ラ一身上ノ名譽的用務ヲ帶テ作業ニ從事スル者ナルヲ以テ是カ爲メ別ニ報酬ヲ受ケサルモ普通作業人夫ニ比シ其精神的權能ノ著シキモノアレハナリ且勉テ高給者若クハ信用重キ者ヨリ選拔ヲ受クルノ點ニ於テモ他ト異ナル所以ナリ

第五項　內地人臨時人夫

第二十三條　內地人ヲ以テ臨時人夫ニ使用スル場合ハ左ノ必要起ル際ニ於テス

(一)測量業ニ於ケル測夫採用ノ場合

(二)林業其他植樹及農業等ニ於ケル專門的特技ヲ有スル者必要ノ場合

(三)麤草栽培及乾燥仕上法諸製造業其他臺灣土人及生番人等ニ於テ爲シ能ハサル作業ニ就テ必要生スル場合

第二十四條　內地人ヲ以テ臨時人夫ニ使用スル際ハ猶臺灣土人ノ常傭人夫ニ於ケルカ如ク確實ナル身元保證人ヲ立テ其都度是ニ相當スル期約ヲ設クヘキ事

第二十五條　內地人臨時人夫ノ賃銀ハ左ノ標準ニ依テ支給ス

一等乙六十錢乃至甲六十五錢
二等乙五十錢乃至甲五十五錢
三等乙四十錢乃至甲四十五錢
四等乙三十錢乃至甲三十五錢

備考

各賃銀等級中更ニ甲乙二級ニ別ツハ其技能ノ優劣使用際ノ經費都合若クハ其本人ノ經歷資格等ニ依テナリ

第二十六條　內地人臨時人夫ニ對シテハ本則第二項第十六條ニ規定スル所ノ樣式同一ノ使用日記簿ヲ別ニ調製シ日々其人夫員數賃銀及ヒ使用事由等ヲ明記スヘキ事

第二十七條　內地人臨時人夫ノ賃銀仕拂期日ハ本則第三項第十五條ノ例規ニ準シ其規約ニ從テ適宜施行スヘキモノトス

但シ使用期間十日ヲ出ルモノハ卽每十日乃至十五日間ヲ一期トシ之カ算計ヲ行フヘキ事

第二十八條　內地臨時人夫ニシテ作業一日ニ滿タサルモノハ本則第三項第十五條規定スル所ノ例ニ準シ卽時間割ヲ以テ之カ賃銀支給ノ額ヲ定ムヘキ事

第二十九條　內地人ノ臨時人夫ニ對シ賃銀ヲ仕拂フトキハ賃銀仕拂證書ニ使役ノ事由ヲ明記スヘシ

第十三號圖

新嘉坡產移植鳳梨全熟ノ景

肥料ト栽培法ノ新意匠ニ由リ各果ノ重量五百匁平均當場生產物拂下品中ノ一

第十四號圖

クアルアラ東母樹園內鳳梨模範園ノ景

肥料ノ使用ニ由リ滿園全株結實各果四百匁平均園中黑衣者ハ場員竪山武二白衣者ハ來觀者

第二節　植物日誌ニ關スル事歷

當場ノ事業ハ他ノ諸試驗場、植物園、苗圃等ニ比スレハ其作業範圍極テ複雜多端ニシテ單純性ノ開散ナルモノニアラス試ニ其大畧ヲ叙スレハ抑々事業區域ノ位置カ臺灣中ニテ最僻遠未開ノ恒春管內ニアリ加之此區域ハ皆蕃地內ニシテ深林曠野ノ間ニ事業ヲ新ニ計劃シコレヲ開墾シテ地形ヲ整ヘ或ハ耕地ト爲シ或ハ造林地ト爲シ或ハ新路ヲ開鑿シ或ハ苗圃ヲ造リ凡テ是等ノ煩雜ナル作業ヲ兼テ植物ノ栽培ヲ行フモノニシテ常ニ僅少ノ場員ヲ以テ多種ノ繁用ニ從事スルモノユヘ其各員日常記錄事項ノ如キモ到底文章ノ編成ニ頭腦ヲ十分傾注スルノ餘暇ナク到底精力ノ企及セサル所ナルヲ以テ茲ニ一種ノ記載法ヲ案出シ恰モ會計官吏ノ簿記法ニ等シキ數字本位ノ日誌簿ヲ編成シコレヲ現業後各自ノ手ニ渡シ數字ノミヲ記入スレハ用足ル樣ニ勉テ手數ヲ省ケル簡便法ヲ授ケ以テ成文體ノ日誌ニ代用スルコトト爲セリ

植物日誌ハ其標目欄內ニ數字ノミヲ記入スレハ眞ニ成文的意味ヲ表示スル樣ニ調成セルモノニシテ地名植物名等ハ已ヲ得ス單語的文字ヲ記入スルコトト爲セリ而シテ報告文等ヲ編成スルノ際此日誌簿ヲ繙ケハ一切ノ文章材料備ハリ居ル樣ニシ恰モ種苗及植物取扱臺帳ノ性質ヲ兼用セルモノナリ而シテ之カ部門ヲ別ツコト左ノ如シ

(一)受送ノ部

種苗及植物共事ヲ發著處分顚末ヲ表示スル爲ニ設ケシモノ

(二)播種ノ部

播種日附發生數竝同期日缺損數等ヲ表示スル爲ニ設ケシモノナリ

(三)移植ノ部

苗木移植其他凡テノ移植日附等ヲ明示スル爲ニ設ケシモノナリ

(四)假植及床替ノ部

遠地ヨリ新著セル植物ヲ苗床内ニ假植シ若クハ發生シタル苗木ヲ床替スル場合等ノ爲ニ設ケシモノナリ

(五)扦枝壓枝及分根ノ部

扦木壓條及根分ノ都度其取扱ヒタル數量活育數等ヲ一目ノ下ニ瞭然タラシメンカ爲メ設ケシモノナリ

(六)採收ノ部

場ノ内外ヲ問ハス其日ニ採收シタル數量ヲ明記シ處分簿ニ代ユル爲ニ設ケシモノナリ

(七)購入ノ部

種苗及植物ヲ他ヨリ購入セル場合會計帳簿以外栽培業擔任者ノ手許臺帳用ニ設ケシモノナリ

(八)收穫ノ部

農作物其他茶葉木實(珈琲等)收穫等ノ前其現實數ヲ登記スルニ便ナラシメンカ爲メ設ケシモノナリ

(九)成長度檢測ノ部

樹木ノ幹長幹圍若クハ諸草苗木等其場ノ發育現狀ヲ一目ノ下ニ明瞭ナラシメンカ爲メ設ケシ

(一〇)生產物試驗製造ノ部

澱粉纖維油料其他諸栽培品若クハ區域内諸植物ヲ原料トシテ試驗製造ヲ行フ場合備忘用トシテ登記ノ爲メ設ケシモノナリ

恒春熱帶植物殖育場種苗及植物日誌

(一)受送ノ部

明治三十六年三月

品目	受入 數量	受入 日附	受入 到來先	配送 數量	配送 日附	配送 配送先	原產地
チーキ樹種子	三升	十日	殖產局苗圃				暹羅國
沖繩絲芭蕉苗	一〇株	一日	同				沖繩縣
珈琲苗木(臺灣在來種)	二五〇本	二十日	臺北農事試驗場				臺北廳下冷水坑
黃皮鳳梨	三〇株	三十日	嘉義農會				嘉義廳下
烏皮鳳梨	三〇株	同	同				同
無刺葉鳳梨	三〇株	同	同				同
(以下省略ス)							

猪勝東事業監督室

擔任者 築地隆茂

各部用紙表裏兩面ヲ使用ス(一)ヨリ(一〇)ニ至ル各部毎ニ此原簿ハ用紙ヲ別ニシテ綴リアリ

(二)播種ノ部

明治三十七年四月

甲樹木及諸草類

港口事業監督室

擔任者 竪山武二

明治三十七年四月

(三)移植ノ部

甲樹木及諸草類

品目	數量	日附	場所	面積	播種生日	晩	早	發生日數	缺損數	到來先	原産地
菊紅豆樹小實種	一五〇本	四月三日	母樹園二線區ヨリ路ヒ區内	四分一坪	播種生日 四月三十日			二〇日	一〇本	入重山島	沖縄縣下
大實種	三〇〇本	同 一日	線區ヨリ路ヒ區内側	同 一坪	播種生日 四月二十日			一〇日	一〇本	同	同
實ヲ採リ枝ヲ採リ木ヲ採ル	五〇本	同	線區ヨリ路ヒ區内	同 二坪	播種生日 四月二十日			一〇日	一〇本	同	同
實ヲ採リ枝地ニ挿シ木ヲ採ル	一〇本	四月二十日	港口一號苗圃	二分	播種生日 四月二十日			一〇日	一〇本	同	同
實ヲ採リ枝地ニ挿シ木ヲ採ル	一〇本	同	港口二

明治三十七年十二月

甲樹木及諸草類

(五)挿枝壓條及分根ノ部

品目	數量	附場所	活育所	缺損	原産地	生産地
ポインシアナ、レギア挿木	三五〇〇本	日	苗圃		印度	同
紫檀挿木	九五〇〇本	同	同		同	同
常盤木挿木	六五〇〇本	同	同		同	同
常盤木分根	二五〇〇本	同	同		同	同
常盤木挿木	一五〇〇本	同	同		同	同
常盤木分根	一〇〇〇本	同	同		同	同
常盤木挿木	二〇〇〇本	同	苗圃		同	同
常盤木分根	一〇〇〇本	同	同		同	同
常盤木挿木	八〇〇〇本	同	同		同	同
常盤木分根	五〇

乙農作品及菜類

品目	數量	日附	場所	活育缺損	生産地	原産地
キヤツサバ即タピチカ木扦枝	二〇〇〇枝	一日	港口母樹園	一八〇〇本	二〇〇箇	ジヤワ
新嘉坡産薑黄分根	一〇〇〇根	三十日	同	一〇〇〇本	同	新嘉坡
山藍同	一〇〇根	二日	同	一〇〇本	同	臺灣
苧麻同	五〇〇根	一日	同	五〇〇本	同	同
薄荷同	一〇〇根	一日	同	九〇本	同	内地
小笠原島産甘蕉同	一〇根	十日	同	一〇本	同	小笠原島
（以下畧ス）						

（六）採收ノ部

明治三十八年八月

甲樹木及諸草類

品目	數量	日附	場所	採集費	人夫數	備考
毛柿即恒春黑檀種子	一斗	十日	クアル山中	一・〇〇〇	二五錢 二〇錢 一五錢	
烏皮石柃即琉球黑檀種子	一升	十六日	同	五〇〇	五人分	
刺桐同	一升	十七日	港口庄	二〇〇	二人分	
タココン木同	二升	十九日	クアル山中	三〇〇	一人分	
同苗木	二〇〇本	同	同	三〇〇	二人分	
ギヨギ芝根株（以下畧ス）	一坪分	二十日	墾丁寮海岸	三〇〇	二人分	

龜仔角事業監督室

擔任者 大宜見信一

（六）採收ノ部

明治三十八年十一月

乙農作品及諸菜類

品目	數量	日附	場所	採集費	人夫賃	備考
葛芋即タツカ根	一〇〇〇根	二日	鵞鑾鼻半島	一・二五〇	五人分 二五錢	
白莖蕁麻子	五升	五日	港口庄	七五〇	二〇錢	五〇斤二五錢平均
赤莖蕁麻子	三升	同	同	四五〇	一五錢	ノ二五〇斤
葛芋即タツカ種子	二升	十八日	同	四〇〇	二人分	一升一五錢
野生蓖根同	一升	同	同	三〇〇	同	
ヤラボ樹種子（以下畧ス）	三升	同	同	二五〇	一人分	

港口事業監督室

擔任者 樋口素雄

（七）購入ノ部

明治三十六年十一月

甲樹木諸及草類種苗

品目	數量	日附	總價	單價	庄社名	姓名
ヤラボ樹種子	一斗	三日	二・〇〇〇	一升 二〇〇	猪勝東社	潘クーセン
籐種子	一升	同	六〇〇	六〇〇 同	同	潘ブレリヨン
薯榔根	一〇〇斤	同	二・〇〇〇	一斤 〇二〇	同	

港口事業監督室

擔任者 築地隆茂

明治三十八年一月　(八)收穫ノ部

乙農作物及諸菜類

品目	原料	數量	日附	場所	面積	株數	播栽日	備考
海紅豆、樹（ヒアンニ）	同種子實	一一三二五一斗	廿七日	港口珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
小珈琲實（キナタ）	同種子實	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
蓖麻實（ヒマシ）	同種子實	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
臺灣原種珈琲實	洗晒子實	一一三二五一斗	廿五日	港口珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
臺灣種珈琲實	生豆	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
臺灣小珈琲實	同種子實	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿八日	同樹園内	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿八日	同樹園内	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	

猪勝東事業監督室

擔任者　高士佛　築地　隆

明治三十八年一月　(八)收穫ノ部

乙農作物及諸菜類

品目	原料	數量	日附	場所	面積	株數	播栽日	備考
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿八日	同樹園内	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	

猪勝東事業監督室

擔任者　高士佛　築地　隆

(九)成長度檢測ノ部

品目	原料	數量	日附	場所	面積	株數	播栽日	備考
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿八日	同樹園内	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	

猪勝東事業監督室

擔任者　高士佛　築地　隆

明治三十八年一月　(八)收穫ノ部

甲樹木及諸草類

品目	原料	數量	日附	場所	面積	株數	播栽日	備考
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿八日	同樹園内	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	廿五日	同珈琲園	一反内	一〇〇〇本	同五六年五月栽付	

猪勝東事業監督室

擔任者　高士佛　築地　隆

明治三十七年十二月　(七)勝入ノ部

乙農作品及諸菜類種苗

品目	原料	數量	日附	總價	單價	庄社名	姓名	備考
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	十八日	六〇〇〇	五斤	同	同	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	十五日	九〇〇〇	同	同	同	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	十五日	三〇〇〇	三〇	同	同	
以下ヲカ、ダキヤツサバ（ヒマシ）ノ根	同根子	一一三二五一斗	十五日	三〇〇〇	三〇	同	同	

高士佛事業監督室

擔任者　港口　津田　德藏

明治三十九年十二月　(八)收穫ノ部

甲樹木及諸草類

品目	原料	數量	日附	總價	單價	庄社名	姓名	備考
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十九日	二〇〇〇	一根	同	アラン	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十八日	四〇〇〇	一根	同	ソン	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	高士佛社	雄藏	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	
以下雷公柊生垣	大山ユリ葉根子	一一一一二〇〇〇斤	十日	二〇〇〇	一根	同	同	

港口事業監督室

擔任者　港口　津田　德藏

品目	場所	號數	日附	摘要
ペンペンぐさ（ペンペングサ）科	東牧掛園内	三號	同廿日	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同	同
同	同	同	同

年月日			摘要
受	越高		明治三十五年九月二十日
	生産		
	移植	帰村其他	二三
拂	移植		
	帰村其他		
	缺損		
	現在		三三

品目		斤量	株数	備考
原料	製造法	摘要	植付目	
クズイウコ	同	二四〇斤	一〇〇株	明治三十九年二月
ヒカモノキヤツタン根（塊）	蒸溜種取	三八四斤	一〇〇株	生産植物製造ノ部
同	同	二四〇斤	一〇〇株	
同	同	五七六斤	一〇〇株	
同	同	五〇〇斤	一〇〇株	
同	同	九〇〇斤	一〇〇株	
同	同	六〇〇斤	一〇〇株	
同	同	四八〇斤	一〇〇株	
同	同	四八〇斤	一〇〇株	
龍舌草	蒸溜種取	三八四斤	一〇〇株	
シナアサノハヘンアオイ科ナンメン生葉	同	三八四斤	一〇〇株	

年月日	摘要	株数	備考
明治三十九年二月廿日	播種	九六株	港口事業監督官
同	同	九六株	谷村愛五郎
同	同	三〇七株	港口事業監督官
同	同	三〇坪	谷村愛五郎
同	同	九六株	港口事業監督官
同	同	三〇株	谷村愛五郎
同	同	九六株	港口事業監督官
同	同	三〇株	谷村愛五郎

撰任者　港口事業監督官　谷村愛五郎

一五四

苗木臺帳ハ殊ニ會計帳簿ノ必要ト何レノ事業地ニテモ種苗ヲ取扱フ場處ニテハ必要缺クヘカラサルモノニシテ該帳ハ生産物ノ處分ヲ明ニシ且ツ其ノ成績ヲ知ルニ最モ必要ナルモノトス

苗木臺帳ニハ成ルヘク詳細ニ記載スルヲ要ス

苗木臺帳

四同二同二明一同一明	十同 同 二明七同四同四同三明九同四同三明 同 七同 同 一明三同三明十同
月 月 月浴月 月浴三	一 月浴月 月 月浴月 月 月 月 月浴月
二 十 二十三 二十五	月 十四 四十三 一 十七 一 十八 日 日 日年 五七十 二六日
日 日 日年日 日年	三十 日年日 日 日 日年日 日 日 日年日

シサルヘソブ掌

| | | |

| | | |

明治三十七年	鷲爪花	香料及藥用ノ一	
二明治三十八年四月一日	一五〇	一五〇	
明治三十九年四月一日	一三〇	二〇	一五〇
		一〇	一三〇
			一二〇

第四節　植栽品臺帳編成ノ事歷

植栽品臺帳ハ各造林地其他植物栽培地ニテハ普進一般ニ必ス備付アルヘキモノト看做サルル所ナレトモ植栽品臺帳ノ備付ハ各所比較的缺如シ我カ內地各林區署ノ林木臺帳同等ノモノハ殆ント見受クルコト稀ニシテ卽各苗圃試驗地等亦然リ當場ニ於テハ前條苗木臺帳ト同時ニ植栽品臺帳ヲ調成シ尤モ此完備ニ重キヲ置クノ企望ヲ有シツツモ四十一年度以降ハ此實行ニ能ク意ヲ滿タシ能ハサル狀勢ト成リ該簿冊中ニ記載漏ノ植物夥多アリ是後年ノ考證上一大缺點ニシテ爲ニ植栽品ノ證跡湮滅ノ基ト爲ルモノ多ク當場ノ事歷討尋上ノ根基資料ヲ得ルニ頗ル困難ヲ感スルコト尠少ナラスシテ眞ニ一大恨事ニ堪ヘサルモノアリ

此植栽品臺帳ノ原簿ハ苗木臺帳ト同一體裁ノモノヨリ成リテ各植物ノ系統來歷ヲ帙序的ニ討尋シ易カラシメンカ爲メ一植物每ニ栽付當時ヨリ順ヲ追フテ其株數ノ缺損增加等ヲ一目瞭然タラシムル樣ニシ一ハ以テ生長度檢測時ノ考證ニ供ヘ一ハ事業報告若クハ試驗成績等ノ根基資料ニ充テ得ラルル樣ニ調成セシモノナリ故ニ一品每ニ其用紙ヲ別ニシ年々隨時登記ヲ繼續シ行クニ便ナラシメンカ爲メ餘白ヲ留メアリ今此處ニ復寫セルモノハ印刷ノ都合上特ニ各品ノ間隔ヲ連接セルモノニシテ原簿トハ全ク體裁ヲ異ニス

又四十年度以後ニ至テモ其擔任者ト場所ニ由リテハ能ク登記シアルモノモアリ

恒春熱帶植物殖育場植栽品臺帳

沖繩系芭蕉

栽植年月日	數量	地點	面積	缺損	補植	現在數	備考
明治三十五年十月十日	二二	母樹園二小區內	一〇坪			二二	
明治三十六年三月二十日	二〇	同　三十區內	一〇坪			二〇	
	右計 四二						
明治三十七年七月九日	二〇〇	同　三區內	三〇〇坪			二〇〇	
明治三十九月十月十二日	一六〇	事業地茶園用地內				一六〇	
シサルヘンプ草							
明治三十五年一月三十日	二	母樹園一小區內				二	
明治三十六年二月十日	四	同				四	
蕃漆樹							
明治三十七年十月二十日	三〇	母樹園一小區內				三〇	
同　二月三十日		同					
明治三十八年三月二日	一〇	同		一〇	一〇	三〇	
ワタノ木							
明治三十五年一月三十日	二〇	母樹園內一小區中央道路				二〇	
同　二月二日	三〇	同　竝木及母樹				三〇	
同　四月一日		同		一五		三〇	

テラソ監督室

| | | |